寒い夏

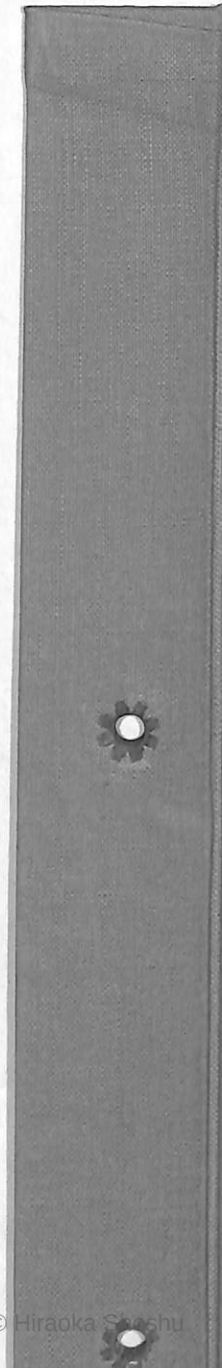
文京区
1
604

© Hiraoka Shoshu

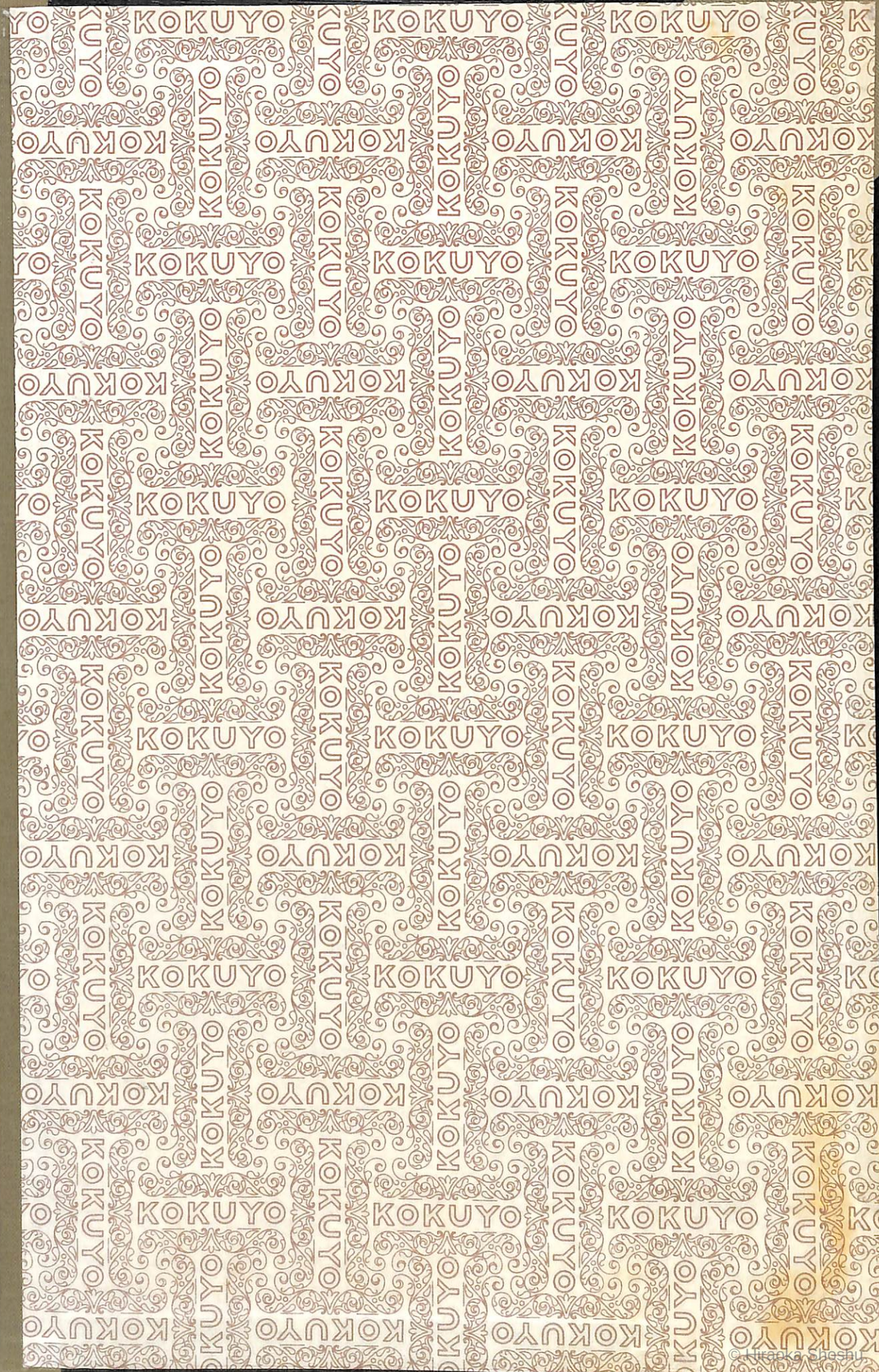
文京区

1

box



© Hiraoka Shushu



© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

函
号
冊

（　　）

P

5
10
15
20
25

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

年

月

日

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

年 月 日 昭和 年 月調

文元之年甲子（一二六四）三月廿八日改之（平仮名書き）

正月二十日、山城国海住山十輪院三十講宇疑問論義草抜ヲ抜ス、

【講宇疑問論義草抜】 壱

○冊子本

113
224
1

○前欠、

（端書）

「仁治三年中門堂八講 宇性問頼恩大僧都」

「仁治三年中門堂八講 宇性問頼恩大僧都」

「仁治三年中門堂八講 宇性問頼恩大僧都」

「仁治三年中門堂八講 宇性問頼恩大僧都」

「仁治三年東南院八講 宇性問貞禅大僧都」

「仁治三年東南院八講 宇性問貞禅大僧都」

「仁治元年安拏文院御八講 宇性問答記也」

「仁治三年久我八講 宇性問 圓家僧都」

（宗性上人研究会）

資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

「仁治三年久我八講ニ宗性問圓成僧都」

「仁治三年安堵之陀御八講ニ宗性向房源當講」

「仁治三年、最勝金剛院御八講ニ宗性向尊家僧都」

「仁治三年最勝金剛院御八講ニ宗性向尊家僧都」

「仁治三年成恩院御八講ニ宗性向円成僧都」

「仁治三年成恩院御八講ニ宗性向圓成僧都」

「仁治三年安堵之院御八講ニ宗性向房源當講」

○但シ、本書ハ「補義草抄」ト「諸宗疑向論義抄」ト「諸宗疑向論義抄草抄」ト

ノ混合ニシテ、諸宗疑向論義草抄ノ一ト八、假題ナリ、マタ本書ノ奥書並ニナシ、次ニ宗性ノ参勤セル諸八講ニツイテハ、各ノ年次ノ条ニ入レタリ、

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No. 3 2610

二校了 原本校合了

諸宗疑問論義草抜（二）

（表題）

諸宗疑問論義草抜第二

権大僧都宗性

自「貫之之年」至「同四年」

（端書）。以下今之

「貫之々年弘誓院御八講宗性問聖憲僧都」

「貫之々年弘誓院御八講宗性問聖憲僧都」

「貫之々年土御門前内府（源）室八講宗性問朱信僧都」

「貫之々年浄土寺八講宗性問尊家大僧都」

承元 年 正月二十日

昭和 年 月調

○冊子本

113
20
9-1

© Hiraoka Shoshu

2610

二校了 原本校合了

諸宗疑問論義草按 二

〇冊子本

113
20
9-1

（表題）

諸宗疑問論義草按第二

権大僧都宗性

自寛元二年
至同四年

（端書）以下合ゾ

「寛元々年弘誓院御八講宗性問聖憲僧都」
「寛元々年弘誓院御八講宗性問聖憲僧都」
「寛元々年土御門前内府（源）室八講宗性問集信僧都」
「寛元々年浄土寺八講宗性問尊家大僧都」

寛元 年 正月二十日

國學院 年譜 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了

~~267~~

4 8

P 2

「仁治三年顕幸卿八講字性尚長俊僧都」

「寛元々年浮土寺八講字性尚尊家大僧都」

「寛元々年浮土寺八講字性尚尊家大僧都」

「寛元々年浮土寺八講字性尚尊家大僧都」

「寛元々年仁和寺蓮華心院御八講字性尚憲性法印」

「寛元々年仁和寺蓮華心院御八講字性尚憲性法印」

「寛元々年薬歴内院御八講字性尚聖憲僧都」

「寛元々年薬歴内院御八講字性尚聖憲僧都」

「寛元々年飯室前大僧正良快一周忌御八講字性尚尊経僧都」

「寛元々年飯室前大僧正良快一周忌御八講字性尚尊経僧都」

「寛元二年成思院御八講字性尚圓弁僧都」

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了

~~263~~

5

P3

端書6号

6号

「寛文二年乃誓願㊞八講宗性尚尊賢律師」

(奥書)

「雖用意此論義臨時改之畢」

「寛文二年乃誓願八講宗性尚尊賢律師」

「寛文二年枚尾山荘八講宗性尚経海僧都了」

「寛文二年金光院八講宗性尚祐性大僧都」

「寛文二年金光院八講宗性尚祐性大僧都」

「寛文二年顕手卿八講宗性尚祐性大僧都」

「寛文二年顕手卿八講宗性尚祐性大僧都」

「寛元三年後鳥羽院㊞八講宗性尚円成僧都」

「同時参之」

「寛文三年手長講堂㊞八講宗性尚尊経僧都」

「同時参之」

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了 ~~263~~

6

P 4

「寛元三年成恩院御八講宗性尚善家大僧都」

「寛元三年報恩院御八講宗性尚定舜已講」

「寛元三年七月安養心院御八講宗性尚経海僧都」

「寛元三年九月安養心院御八講宗性尚経海僧都」

「寛元三年久我八講宗性尚円成僧都」

「寛元三年西宮八講宗性尚祐性大僧都」

「寛元三年西宮八講宗性尚祐性大僧都」

「寛元三年金光院八講宗性尚祐性大僧都」

「寛元三年顕平御八講宗性尚定舜大僧都」

「寛元四年廣隆寺上野八講宗性尚明愉僧都」

「未用之」

「寛元四年廣隆寺上野八講宗性尚明愉僧都」

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了 ~~270~~

P 5

「同時多之」

「實之四年安居院隆兼法印百日忌辰ハ講宗性由緒都」

「實之四年安居院隆兼法印百日忌辰ハ講宗性由範成僧都」

「實之四年十二月西園寺ハ講宗性由範成僧都」

「實之四年撰考記第十二卷三十講宗性由緒覺律師」

○但シ由緒ノ要文ハ之ヲ略ス 但シ奥書ナシ マタ本書ニ記載ノ諸講ハ各年次ノ条項ニ收ム

ハ講ニアイテ

宗性ノ参勤ナシ

本書ノ

函号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

~~271~~

二校了

P6

8

9

12

【諸宗疑問論義草抄 三】

(表題) 6ウ

諸宗疑問論義草抄第三

權大僧都宗性

(端書) 6ウ

「寛元五年後鳥羽院御八講宗性問長俊大僧都」

「寛元五年後鳥羽院御八講宗性問長俊大僧都」

「宝治元年三月聖覚法印十三年遠辰八講宗性尚成大僧都」

「宝治元年三月聖覚法印十三年遠辰八講宗性尚成大僧都」

「宝治元年三月聖覚法印十三年遠辰五部大乗十講宗性尚長俊大僧都」

「宝治元年三月聖覚法印十三年遠辰五部大乗十講宗性問長俊大僧都」

宝治元年正月二十日

8

自宝治元年
至同二年

○冊子本

113
20
9-2

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

「宝治元年聖覚法印十三年遠辰五部大乗十講宗性尚長後大僧都」

「宝治元年長講堂御八講宗性尚成大僧都」

「宝治元年長講堂御八講宗性尚円成大僧都」

「宝治元年成恩院御八講宗性尚円成大僧都」

「宝治□[元カ]年大外史[記カ]師兼八講宗性尚明愉僧都」

「宝治元年五月大外記師兼八講宗性尚明愉僧都」

「宝治元年久我八講宗性尚尊衆大僧都」

「宝治元年清水谷大納言八講宗性尚尊衆大僧都」

「宝治元年清水谷大納言実持八講宗性尚尊衆大僧都」

「宝治元年七月坊城殿御八講宗性尚房源律師」

「宝治元年七月坊城殿御八講宗性尚房源律師」

「宝治元年勧修寺西院八講宗性尚永源已講」

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. 80 10

二校了

~~27~~

P ~~9~~ 8

函号 冊

「宝治元年陰雲院宣玄僧公百日忌辰八講宗性内智円法印」
「同時為之」
「宝治元年北野五部大乗十講宗性内長俊大僧都」

「宝治三年寂勝金剛院御八講宗性内尊家大僧都」
「宝治三年安楽光院御八講宗性内長俊大僧都」
「同時為之」

「宝治三年七月坊城殿御八講宗性内長俊大僧都」
「宝治三年陰明門女院御八講宗性内智円法印」
「同時為之」
「宝治三年藻壁門院御八講宗性内明愉僧都」
「宝治二年十月坊城殿御八講宗性内智円法印」
「同時為之」

法定

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. 83

二校了

~~274~~

11

P 9

函号 冊

「宝治三年十月坊城殿内ノ溝字性内智円法印」

「宝治二年北野五部大乗十講宗性内永源律師」

(奥書)

仁治三年ノ惜宮寺十六會講之時多用意書出之畢ヌ

○但シ本書ノ奥書ナレ、マタコニ記載ノ諸講ハ各年次ノ

宗性ノ参勤也

条坂ニ收ム、ニツイテ

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. 33

函号冊

「諸宗疑問論義草抄」四 ○冊子本

113
20
9-3

(表題)

諸宗疑問論義草抄第四

建長之年

権大僧都宗性

「(端書)
寛元三年」

「寛治三年西八条講宗性問定尊大僧都」

「建長之年後鳥羽院御八講宗性問経海大僧都」

「寛治三年後鳥羽院御八講宗性問経尋大僧都」

「寛治三年中山堂八講宗性問乗信僧都」

「寛治三年長講堂御八講宗性問房源僧都」

「寛治三年長講堂御八講宗性問房源僧都」

寛元元年正月二十日

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

~~276~~

13

~~P 11~~

8

「建長之年成恩院御入講宗性尚円成大僧都」

「建長之年報恩院御入講宗性尚公玄大僧都」

「建長之年七月坊城殿御入講宗性尚智円法印」

「建長之年勝大納言家入講宗性尚智円法印」

○但シ奥書ナシ。マタ尚各ノ奥文ハ略ス。其儀ノ本書ニ記載

各年次ノ条ニ収ム。

因心

マタコニ記載ノ宗性ノ参勤モ此儀ニ入講ニハアラデハ

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

三校了

~~277~~

~~12~~ 8 6オ 9

「建長三年後鳥羽院御八講宗性向長後法印」

「同時為之」

「建長四年法勝寺経海向奥遍」

「建長三年高雄勝倶院御八講宗性向智円法印」

「建長三年長講堂御八講宗性向智円法印」

「建長三年長講堂御八講宗性向智円法印」

「建長三年成因院御八講宗性向円成法印」

「同時為之」

年正 月二十日

6オ 12

【諸宗疑問論義草抜】五

(表題)

諸宗疑問論義草抜第五

建長二年

権大僧都宗性

(端書)

○冊子本

113
20
9-X

剛号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了

~~278~~

15

8

P 13

「建長二年四宮八講宗性尚覚増」

「同時為之」、

「建長二年金光陵五部大乗十講宗性尚智円法印」、

「建長三年金光陵五部大乗十講宗性尚智円法印」、

「建長三年陰明門院御八講宗尚円成法印」、

「同時為之」、

「建長二年北白川女院御八講宗性尚経海法印」、

「建長三年十月坊城殿御八講宗性尚長俊法印」、

「建長二年十月坊城殿御八講宗性尚長俊法印」、

「建長三年十月坊城殿御八講宗性尚長俊法印」、

「建長二年十月隆房大納言遠長八講宗性尚房源大僧都」、

「建長三年十月隆房大納言遠長八講宗性尚源大僧都」、

但し、尚答ー要文に略す、本書抜出ノ如書ナレ、マタコレニ記載ノ講八

各年次ー事項ニ収ム

宗性ー参勤セル

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了

國文學研究資料館

P14

6ウ 8 6オ 9 12

「諸宗疑問論義草牧」之 ○冊子本

6オ（表題）

諸宗疑問論義草牧第之 建長三年

權大僧都宗性

「建長三年正月 日 於 殿中 講 宗性問 論義草牧

（端書）

「建長三年正月 日 於 殿中 講 宗性問 論義草牧第之

「建長三年正月 日 於 殿中 講 宗性問 論義草牧第之 奥書

「建長三年後 月 日 於 殿中 講 宗性問 経海法印」

「建長三年 日 於勝金剛院 講 宗性問 畢 覺法印」

「建長三年 月 日 於 講 宗性問 智円法印」

「建長三年 月 日 於 殿中 講 宗性問 智円法印」

「建長三年 月 日 於 殿中 講 宗性問 智円法印」

「建長三年 月 日 於 殿中

© Hiraoka Shoshu

二校了

280

P 15

「建長三年杮尾山庄八講宗性由房渕僧都」

「建長三年勧修寺(誤)八講西阿八講宗性由長俊法印」

「建長三年八月浄土寺八講宗性由定舜法印」

「建長三年八月浄土寺八講宗性由定舜法印」

「建長三年八月浄土寺八講宗性由定舜法印」

「建長三年七月坊城殿御八講由名記」

「建長三年藤大納言家八講宗性由聖憲法印」

「建長三年藤大納言家八講宗性由聖憲法印」

「建長三年藤大納言家八講宗性由聖憲法印」

「建長三年観喜寿院御八講宗性由房渕僧都」

「建長三年陰明門文院御八講宗性由僧円法印」

「建長三年陰明門文院御八講宗性由僧円法印」

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了

~~251~~

P16

8

「建長三年十月坊城殿御八講、宇性尚長俊法印」

「建長三年十月坊城殿御八講、宇性尚長俊法印」

○但シ、本書ノ奥書ハ十七、マタ回答ノ要文ハ略ス、次ニユニ記載

各年次ノ条項ニ収ム

宇性ノ参勤セル

八講

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. 10 19 2615

二校了

282

6ポ

P 111

9

6ポ

9

6ポ

12

【諸宗疑問論義草按】七

（表題）

〇冊子本

113
20
9-6

諸宗疑問論義草按第七

建長四年

権大僧都宗性

（端書）

「建長四年五月中川八講、宗性問定宗大僧都」

「建長四年六月行事（奉行）所書出候之中」

「建長四年七月藤三品顕氏八講、宗性問定圓律師」

「建長四年民部卿為衆八講、宗性問房源大僧都」

「建長四年民部卿為衆八講、宗性問房源大僧都」

（奥書）

「建長四年十月廿日於城殿御八講、宗性問経海法印了」

文八之 年 正 月 二十 日

昭和 年 月 調

函号 冊

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

17

8

○但シ、本表ノ奥書ヲシ、マタ同答ノ要文ヲ略ス、次ニコヽニ記載ノ措置ハ各年次ノ条項ニ收ム

ハ

ニツイテ

字性ノ参勤ヲ

No. 20 2616

二校了

~~253~~

20

P 18

諸宗疑問論義草拟第 人

（表題）

（端書）

「建長五年講堂御八講、宗性問長俊法印」

「建長五年長講堂御八講、宗性問長俊法印」

「建長五年仏洞寂勝講之時、用意之旨」

「建長五年仏洞寂勝講之時、用意之」

「建長五年仏洞寂勝講、宗性問経海法印」

「建長五年仏洞寂勝講、宗性問経海法印」

「建長五年仏洞寂勝講、宗性問経海法印」

角建長五年備
正月廿五日講

建長五年

諸宗疑問論義草拟第 人

権大僧都宗性

6ウ 9

6ウ 12

（八）

〇冊子本

113
20
9-7

奈良 年 正 月 二十 日

昭和 年 月 調

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 22

二校了

~~284~~

P 19

2

「建長五年七月太宰權帥為経八講、宗性内智内法印」、

「建長五年七月太宰權帥為経八講、宗性内智内法印」、

「建長五年廿七御八講、宗性内信承法印」、

○但シ本書ノ奥書ニ曰ク、毎夕問答ノ要文ハ之ヲ略ス、

次ニ本文ニ記載ノ諸講ハ各年次各巧収ム、

宗性ノ参勤モ

頭号冊

(年譜)

宗性上人関係資料集成稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 22 2617

三校了

285

P 20

諸宗疑問論義草拔第九

（表題）

諸宗疑問論義草拔第九

（締書）

自建長六年
至正嘉二年

權大僧都宗性

「建長六年十一月十日御八講、宗性問長俊法印、」

「建長六年十一月十五日中川八講、宗性問頼円法印、」

「正嘉元年十二

No. 22 2617

三校了

285

P 20

諸宗疑問論義草拔 九

（表題）

諸宗疑問論義草拔第九

権大僧都宗性

（端書）

「建長六年十二月十五日中川八講宗性問頼円法印」

「建長六年十二月御八講宗性問長俊法印」

「正嘉元年十二月十五日中川八講宗性問頼円法印」

「正嘉元年十二月十五日中川八講宗性問頼円法印」

「正嘉元年十二月十五日中川八講宗性問頼円法印」

「正嘉元年十二月十五日中川八講宗性問頼円法印」

自 建長六年
至 正嘉二年

〇冊子本

113
20
98

國号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月測

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

~~280~~ 23

P 24

函号冊

「ニ嘉二年中川八講、宗性肉頼円法印、」

「正嘉二年中川八講、宗性肉頼円法印、」

○但シ本書ノ奥書ハナシ、マタ本面巻ノ要文ヘニヲ略ス、次ニコレニ記載ノ諸講ハ

名手次ノ条ニ収ム

七心字性、勇勤

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

No. 26 2618

二校了

287

P 22

函号冊

諸宗疑問論義草牧 十

（表題）

諸宗疑問論義草牧第十

權大僧都宥性

諸宗疑問論義草牧

〇冊子本

113
20
9-9

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

文治元年正月二十日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

（奥書）

弘長四年甲子正月二十日酉時於海住山十輪院結集之畢勸学道於北域之昔多諸家人講草之遁名利於東山之今窂雌雄紙一帖閑之何年月對誰人傾疑肉草置之云事老耄之身併雖忘却七旬齢傾一期殘迫之間近日結集書籍之次自叉古中依求出之聚多諸字疑肉論義草枚第十後覧之輩可察其志願以天台宗結縁之微功必多離苦令聞法之業因矣

右筆華嚴宇末葉法印權大僧都宗性

末

年於之十三

夏臘五十一

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~253~~

P

昭和 年 月 日

〔宗性上人研究会〕

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

五月七日 山城海住山十輪院ニテ華嚴宗文義抜ス

【華嚴宗文義抜 八】

○冊子本

12
35
1

(表題)

華嚴宗文義抜

(奥書)

文永之年甲子五月十七日時於海住山十輪院抜之了

此中三種種意生身財地事去年之春撰置尺文今月之假記

剱内若除九箇条論義者今年中所警古也方今蛍雪之勤

雖備宿習難忘孤山之栖雖冷余熱未散抜内容而廣集經論

章疏之要文草庵室中聊記大小新古之向端仰願我山本尊

文永之年 五月十七日

290

27

9

觀音薩埵哀此深志伏乞佛法擁護春日權現照此願誠一期終焉之暮施引接於兜率内院三會下生之曉開悳解於唯仏

恕蹟而已

右筆華嚴宗末葉法印權大僧都宗性

年齡六十三

夏臘五十一

悳

函号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

弘元年五月十七日 昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~291~~

二校了

P

8

64 9

(端書)

「弘長元年辛酉勝講寛源問宗性法印但問題許也」

「建久四年癸酉勝講順高問弁暁大僧都」

「文暦之年撰玄記第一巻三十講宗性問良禎法眼」

「寛治二年法勝寺御八講宗弁問宗性大僧都」

12

「華厳宗文義抜草」(二)

64 (表題)

華厳宗文義抜草第二

権大僧都宗性

○冊子本

113
9
1

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

[redacted]義教草[redacted]

[redacted]義教草[redacted]

[redacted]

[redacted]

293

9

文永元年甲子八月晦日酉時海住山十輪院草之畢　自去孟春之比至季秋之候結構華嚴宗文義抄第九第十兩帖之間或訪旧跡或凋今案記錄難詞欲注答趣之處癈記之身愚昧之

文永元年八月晦日酉時海住山十輪院草之畢　自去孟春之比至季秋之候結構華嚴宗文義抄第九第十兩帖之間或訪旧跡或凋今案記錄難詞欲注答趣之處癈記之身愚昧之

（奥書）

上生内院業因以此撰仰功併願三会得脱良縁

右等華嚴宗末葉沙門權大僧都宗性

年齢六十三

夏臈五十一

昭和　年　月調

宗性上人研究会

© Hiraoka Shoshu

~~204~~ 31

9

性不草寫者多依書損初先草寫後重清書聚彼草本多此別
枚且多不指枚当一紙且多相傳門弟両人也願以習学華厳
住持佛法之徴功必多上生内院値遇慈尊之業因乃至功徳
所及利益不限而已 已

右筆華厳宗末葉権大僧都宗性 (印)

年齢六十三

夏龍五十一

以此枚處奥書畢若有致其枚之人者可蒙冥罰也(罰)

(西) (本ハン)

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~294~~ 31

9

性不草率者多依書損初先草率後重清書聚彼草本多此別
枚且多不指枚当一紙且多相傳門弟両人也願以習学華厳
住持佛法之微功必多上生内院値遇慈尊之業因乃至功徳
所及利益不限而已 已

右筆華厳宗末葉権大僧都宗性

道印 年齢六十三

夏龍五十一

以此枚處本字寛畢 若有致其妨之人者可蒙冥罰也(罰)

西 本八

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

295

32

P 9

12

【華嚴宗文義抜】

○金沢文庫蔵

9 11

64

(興書) 本奥書

建長写本云

※文永元年甲子八月三十日酉時於海住山十輪院抄出之畢自去建長五年季秋之候於本寺始抜第一司至于文永元年南呂之今於當山終記第十帖前後及十二週歳聚經訪章疏之要文由茍足自爾條猥摧愚昧之心肝號之花嚴字文義抜欲傳未来際末法終更無顧後愧昆之誹謗偏冀續當宇之法命者也

本尊觀音薩埵 知見・此志

八字摧捜春日權現哀愍此勤一期

文永之年 五月十七日

昭和 年 月調

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 33 2628
266 33
函号 冊
P
9
終焉之暮垂引攝接於兜率之雲三會說法之曉施落度於薗芯之露而已
右筆花界宗未葉法印權大僧都宗性
年齡六十三
夏臘五十一
（年譜）
宗性上人関係資料集収録
嘉元 年 五 月 十七 日
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

No. 35 2627
297
函号冊
P
昭和 年 八月十九日
〔宗性上人研究会〕

八月十九日 山城海住山十輪院ニテ看病臨終要記ヲ抜ス

（12）

（看病臨終要記）（表題）

○巻子本

103
67
1

9

看病臨終要記 椎大僧都宗性

（奥書）（表紙裏書）

文永二年乙丑八月十九日於海住山十輪院結構軸表紙奉書外題畢

宗性

但シ本書ニ奥書ナシ

抄出終ル

宗性上人関係資料集原稿
© Hiraoka Shoshu

~~208~~

35

函号冊

P

九月三日 奉 山城海住山十輪院ニテ大智度論ヲ 異本読ム

【大智度論 巻第三十三】

聖諦藏

聖 唐-5 納4

(表題)「大智度論巻三十三」

(端書)の表紙裏ニアリ

(表題)「大智度論第七十三」

一回 巻七十三

聖護藏

聖 唐-5 納9

文永元年甲子九月廿三日 再校於海住山十輪院結構

奉書外題書之

法印宗性

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集原稿(年譜)

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~289~~ 33

二校了

函号冊

(年譜)

6オ (奥書) の表紙ノ裏ニアリ

文永元年甲子九月二十三日酉時於海住山十輪院結構

9

表紙奉書外題畢

「二校了」

法印宗性

12ウ 「目 ― 」 (四十一)

ば (表題)

「大智度論第四十一」

聖護藏

聖
唐-5
納4

ば (奥書) の但シ表紙裏ニアリ

9

文永元年甲子九月二十七日申時於海住山寺口口院口口口口口奉書

(「宗定」) (「甲」) (「鞠」) (「構表紙」)

外題畢

法印宗性

8オ の但シ本書ハ唐経ニカギル

© Hiraoka Shoshu

~~300~~

文永二年乙丑（一二六五）
三月二十日 山城海住山十輪院ニテ法華経傳記ヲ見ル
（六十四歳）
〔法華経傳記〕三
冊子本
111
153
5-1

法華経傳記巻第三
（内表紙）

法華経傳記巻第三

沙門釋宗性

法花経傳記巻第三

傳得僧增仁之

僧證運矣

~~301~~

38

(表紙裏書)

文永二年丑三月二十日 時干 於海住山十輪院結構表紙奉書

外題畢

法印宗性

(内題)

「法花経傳記巻第一 僧祥撰集

「法花経傳巻第二 僧祥撰集」

○但し本書ノ奥書ナシ。

平岡史料館

© Hiraoka Shoshu

文永二年三月二十日

39

302

9

6t

(表紙)

法華経傳記巻第三四

功内釋宗性

6t

(内表紙)

法花経傳記巻第三四

傳得僧增仁

僧澄運矣

6t

(表紙裏書)

文永二年乙丑三月二十日 時年 於海住山寺輪院結構

奉書外題畢

法印宗性

12

(法華経傳記巻第三四)

9 冊子本

111
153
52

© Hiraoka Shoshu

~~303~~

40

（内題）「法花経傳卷第三　僧祥撰集」

（奥書）「法花経傳卷第四　僧祥撰集」

大治五年四月十二日一交了　僧宴

坂下を書いてあり

~~304~~

9

6オ 12

「法華経傳記 五之」
（表題）

6オ

法華経傳記卷第五之
沙門釋宗性

6オ

（内表紙）

法華経傳記 第五六
傳得僧增仁之
僧澄運矣

© Hiraoka Shoshu

~~305~~

6オ
（表紙裏書）

9
文永二年乙丑三月二十日午時於海住山十輪院結構

表紙奉書外題畢

法印宗性

6オ
（内題）

8
「法華経傳巻第五
「法華経傳巻第六

僧祥擬集」
僧祥擬集」

9
大治五年歳次庚戌四月十一日書写畢

一校已了、

末尾

43

~~306~~

12 「法華経傳記」七、八

9 冊子本

111
153
54

(表題) 6オ

法華經傳記卷第七八

沙門釋宇性

(内表紙) 6オ

法華經傳記卷第七八

傳得僧增仁

僧澄運云

(表紙裏書) 6オ

文永二年丑三月二十日午時於海住山十輪院

結構表紙奉書外題畢 下

法印宗性

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

45

~~397~~

41

6ホ
（四題）

8

「法華経傳卷第七
「法華経傳記卷第八」

傳祥撰集」

6ホ
（奥書）

9

一枚已ニ

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

45

~~307~~

8

6オ 内題）「法華経傳卷第七 僧祥撰集」

6オ 奥書）「法華経傳記卷第八」

9 一枚已ノ上

平岡史料館

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

45

~~388~~ 15

9

12

〔法華経傳記〕九十

10冊
子本

111
153
575

6オ（表題）

法華経傳記巻第九十

沙門釋宗性

6オ（内表紙）

法華経傳記巻第九十

傳得僧增仁

僧澄運校

6オ（表紙裏書）

文永二年五月二十日辰午 於海住山寺輪院

結構表紙奉書外題畢

法印宗性

奈良国立博物館 奈良国立文化財研究所 東京国立博物館 京都国立博物館 奈良国立博物館 奈良国立文化財研究所 東京国立博物館 京都国立博物館

© Hiraoka Shoshu

（内題）

「法華經傳記第九」

（奥書）

依舊記及口傳雖綱本從虛實意在勸後信矣

已依舊記及口傳現身親聞略撰集

庶言圓細語帰中道　身聞俱證先生忍

© Hiraoka Shoshu

~~393~~

9
「諦花経傳記巻第十
64
(奥書)」
9
大治五年四月十四日 書留了
一校了

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

（年譜）

宗性上人資料集原稿

P

（ ）

五月二十二日、山城國海住山寺十輪院ニテ事談ヲ抄ス

「事談」ト云ヘル　○巻子本　高山寺海藏

事談巻第一　權大僧都宗性

（表紙裏書）

文永二年乙丑五月二十二日甲申於海住山寺十輪院

結構軸表紙奉書外題畢　法印宗性

○但シ、本書ノ抄出終時ノ奥書ニテシ。

© Hiraoka Shoshu

No. 47

310

二校了

七月心頼尊ヨシテ華嚴経綴入法界品ヲ書写セシム
大方廣佛華嚴経〈六十 8 ○巻子本 9 聖乙 仏 納2/6 6
（表題）大方廣佛華嚴経 綴入法界品 六十 6
（内題）華嚴経巻第六十 6
（奥書）文永二年春秋之比書写之畢 依東大寺尊勝院法印宣
性之誂也 執筆 大法師頼尊
同七年六月十一日 於東大寺尊勝院一校畢 依僧正聖
房之仰也 僧宝或
同日 奉納経藏畢

〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

~~311~~

十一月三日 山城海印寺ヲ東大寺勅願ノ末寺トス

【東大寺続要録】諸院篇 ○冊子本 ○東大寺宝庫

末寺

山城國

海印寺 宇性法印院務之時被返付之

被 院宣偁山城國海印寺者、是雄僧都之建立、嘉祥明時之定額也、而草創年積、花構空疎、剰近年以降、或号寮領、或入人家、全相傳以佛地物、多他用者、戒律之所禁、格條所誡也、自今以後、如元宜号東大寺別院、勅願末寺、早企蘭若一宇之営作、可致華嚴三昧之練行者、院宣如此、悉之謹状

文永二年十一月廿二日 左大辨雅言

文永二年十一月廿二日

© Hiraoka Shoshu

No. ~ 49　　2635

312

50

函号 冊

P

文政二年十一月二十二日

萬勝院主法印御房
表書侍部卿法印御房云々

昭和　年　月測

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 50 2636

313

函号 冊

P

9 9 12

64 64

【梵網経要文抄】

梵網経要文抄

（奥書）

文永二年中冬之候於東大寺尊勝院護摩堂南面庇新

学向所書写之畢当之上生内院之業必結値遇弥勒之縁

而已下

右筆葉巌宗未葉法印権大僧都宗性

末

年齢六十四

夏蒭五十二

（表題）

権大僧都宗性

是日

尊勝院ニテ梵網経要文抄ヲ抄ス

○冊子本

113
80
1

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 一 51

二校了

314

52

P

文永三年丙寅（一二六六）（六十五歳）

四月八日始之限三七日華嚴宇枝葉枝草之枝之招、

「華嚴宇枝葉枝草」（一）

〇冊子本

113
1
9-1

なお、華嚴宗枝葉抄

（表題）

華嚴宇枝葉枝草第一

權大僧都宇性

（内題）

「華嚴宗枝葉抄 第一」

（端書）

「安元三年震筆御講 由并睦律師 文暦二年寂勝講

觀俊由并睦律師 寛元三年法勝寺御八講 寛元三年法勝寺御八講 寛平由宇性僧都」

「寶治元年法勝寺御八講 弘親由宇性大僧都」

「建保元年仙洞寂勝講 円経僧都由良兼僧都」

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

P

6ウ

6オ

(奥書)

文應二年二月中旬以信禪得業之本誂頼尊大法師令書
写畢

(奥書)

弘長二年(1262)二月二十九日時午於東大寺俗足院別所之草
庵校之畢去年四月十二日初請書當卷之論義此巻今日
終其校出之微功周端數多餘百年之陰空移及両年懈怠
之至深可悲之者欤但老々年秋七月二十日兩面被補東
大寺別當職之間去年一週忽忙無隙就中中夏之末初参
摩竟寂勝講證義初秋之始重勤法勝寺御八講證義暮秋
之天上皇之臨幸兼他事之窮冬之比拜堂之經営責身
心仍疎学之身強以癈退後学之輩可生賢聖等抂此

文永三年四月八日

昭和32年4月16日 測

6オ

(奥書)

[redacted]

5 10 15 20 25

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本交合了

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

2636-3

310

51

二校了

函号冊

9

所生恩業奉資 春日大明神之法楽依此修学勝効必遂上生兜率天之願望。

[redacted]

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

原本交合了

文永三年四月八日

昭和32年4月16日 調

© Hiraoka Shoshu

二校了

~~317~~ 9

P

函号 冊

6オ（端書）の末尾より

仁治三年撰述記第六巻三十講ニ實源由聖禪ニ」

6オ（奥書）

文永三年丙寅四月八日時于於東大寺俗足院別所之草菴校出之了此再倫義之秋文ニ有冬比於西住山十輪院多分記錄之謬脫ニ滅之疏樸陽直瑞之秋去三月之始住山并之後自或禪僧之辺借得其本之間於此ニ寫所書添也字性適歸本舟猶ト草菴之困居耶雖嗜修学未并華嚴之字義ニ然而多用後昆惠解廣集經論章疏之要文ニ多勤初心ニ信狼記疑由會通之便抵厥ニ此微功ニ上生内院之業願者此願力ニ遂值遇ニ為尊之望矣ニ

右筆華嚴字未学法印權大僧都宗性

年齢六十五

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

56

~~318~~

二校了

P

函
号
冊

(年譜)

9

夏籠 土十三

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

9

P

6オ(内題)

8「華嚴宇枝葉抄 第二」

6オ(奥書)

※文永三年丙寅十二月二十二日 時於東大寺俗房別所草庵
抄之畢此論義之秋文永年冬比於海住山十輪院多書出之
樸陽道璿之疏藍谿之成之秋 文永三年三月之初辞山寺之後自或
禅僧之処借得其本之間今年夏秋之候於此庵室漸々書添
之問答之言此程所記録也旦多断初心之疑網旦多用後学
之恵解 古聚経論章疏處々之要文聊注新古論義重々之
難差弥勤為專加見此愚誠春日擁現哀愍此微功一期終焉
之暮施引接於兜率之雲三会談法之暁勧偕入於唯心之月
願去父母恩愛之親族永離流転於五道三有之御現在同法

(年譜) 宗性上人 厚本 第二冊 補

文永三年四月八日

昭和32年4月16日 調

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

No. 57

~~320~~

二校了

9

(表紙ニ「十五事談巻第七 華厳院」ト)

(奥書)

文永二年(四)五月二十二日(壁)申於海住山十輪院結構軸表紙

法印宗性

奉書外題畢

8 但シ本奥書ハ本書ノ奥書ナラズ

9

(本文)

斯識之善友必遂再会於蓮華鶏足之砌殊別覚遍僧正之唱滅也捨穢土詣浄土実弘法師之告別也自外院移内院一々所詳尚各々得成就而已 已

右筆華厳宗末葉法印権大僧都宗性

年齢之十五

夏臘廿十三

~~六本奥書~~

文永三年四月八日

昭和32年4月16日調

[宗性上人研究会]

宗性上人関係資料集第3

© Hiraoka Shoshu

~~321~~

二校了

6ホ

「紙背奥書」

弘長元年三月十八日以信禅得業之本誂取尊得業令書写畢

9

同年同三月日時未於東大寺勧足院別所草庵記録之畢

東大寺別當華嚴宗末葉法印権大僧都宗性

年齢満卅六十

夏臈四十八

昭和 年 月測

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 59

322 59

二校了

P

9

6ポ

〔紙背文書〕

尊勝院擊鳴華下禪衆之中與夜打企欤之由有其聞之
者永追却院家擯出花嚴宇候之学僧之中未義及候、
此條自本如烦誡之沙汰候之上就今被仰下之旨、殊致嚴
密沙汰候也宇性恐惶謹言

九月廿日

法印宇性請文

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

函号冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

~~323~~

60

二校了

P

8 6ポ 9

華嚴宗枝葉抄草第三

權僧正宗性

6ポ（表題）

12

華嚴宗枝葉抄草（三）

○冊子本

9

113
1
17-2

6ポ（目録）「華嚴宗枝葉抄第五」

6ポ（端書）。

「叡禎三年探玄記第三卷三十講宗性由筆幸「建保三年仙洞最勝講範信僧都由道性法眼」「仁治三年法勝寺御八講長親由宗性」

但シ、宗性ノ諸講ニ參ジ給ヒシノ年次多ク收ム。

勤スルコト

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

頌 号 冊 （年譜） 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

~~324~~

二校了

P

9

(奥書)

文永七年庚午四月十日申時於東大寺尊勝院護摩堂南面
拔之畢去歳秋冬之比於知足院管見之所勘書出釋文今
年春夏之候遇本院禹寧之例及記錄尚答頗以之爲上
生内院之業願依之結値遇等尊之縁翻此善錄葦所遇但
非一別二親師範一室同法之早世必逸再會於龍華三
會之月勉之道群類四生含識之沉苦速移生處於鵝王九
品之蓮而已

右筆華嚴宗未葉權僧正宗性

年齡滿七十

夏臘五十八

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

9

(奥書)

文永七年庚午四月十日申時於東大寺尊勝院護摩堂南面
拔之畢去歳秋冬之比於知足院管見之所勘書出釋文今
年春夏之候遇本院禹寂愚客之便又記錄尚答願文之外上
生内院之業願依之結緣遇茅葺之緣酬此善緣葦所迴向
非一別二親師範一室同法之早世必遂再會於龍華三
會之月勉之道俗類四生含識之沉苦速移生處於鵝王九
品之蓮而已

右筆華嚴宗未葉權僧正宗性

年齡滿七十

夏臘五十八

© Hiraoka Shoshu

~~325~~

二校了

「華厳宗枝葉抄第六」

（端書）

「建長元年仙洞最勝講ニ経論大僧都由宗性大僧都」

「仁治二年法勝寺御八講ニ長親由宗性律師」

「弘長元年法勝寺御八講ニ経玄由宗性法印」

「仁治二年石清水八幡宮十六會講ニ房源撰講由宗性律師」

○但シ宗性ハ講論ニ参ズルニヨリ、各年次ノ条ニ收ム

© Hiraoka Shoshu

No. 63 2644

326

63

二校了

9

(奥書)

文永七年庚午中秋八日酉時於東大寺知足院草庵抄之畢

幸七月中欲終其功之處參法勝寺中八講、講義着之間、

彼二師汐法、依計會此一帖抄出所遂急也、頗依此微功、

速晩速 速晩 速 速 速

No. 64

~~2645~~

~~327~~

二校了

P

昭和三年四月八日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

函号 冊

(年譜)

宗性上人関係

9

夏藤五十

8P

「五十七」

&

の但し巳ハ、宗叡本ノ華厳宗杖並手数第六(113-20-03)ト相異スルトコロナリ。

© Hiraoka Shoshu

二校了

P

8

の但し[redacted]ハ宗祖本ノ筆写宗祖真蹟第六(117 205 03)ト相異スルトコロアリ。

[redacted]

9

夏藤五十八

8P

「五十七」

© Hiraoka Shoshu

~~328~~

二校了

P

9

6ホ

（縁背奥書）

文永七年青陽之候借請尊海法印之本訛伏海阿闍梨之書
写之畢 同春三月十六日辰時於東大寺知足院之草庵令自
校點之畢 以之勿往生内院之業以多値遇龍華之縁而已
抑昨日十五日時此院家長老正御房上人覚證入滅畢 彼
人者文十七也予自者文十九也前後相違之別悲涙乍抑秩
帰佛信法之條所校點之也後覚之條耳 ○ 以不檜事

檜

秩

澄

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~329~~

二校了

P

12 「華嚴宇 枝葉枚草」四

6ポ（表題）

○冊子本

113
1
17-3

7

華嚴宇枝葉枚草第四

權僧正宇性

6ポ（題）

8 「華嚴宇枝葉枚第七」

6ポ（端書）

「文永七年十月廣筆御八講信定大僧都由宇性前權僧正」

8

「寶治二年三月聖覺法印十三年忌辰出都大集十講委後大僧都由宇性大僧都」

函号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No. 67 ~~2644~~

~~330~~

二校了

P

9

昭和三三年四月八日

昭和32年4月17日調

其

文永八年辛未五月二十一日辻於東大寺知足院之草庵被始行 宸筆御八講之時宗性入彼人数之由兼有尺簡之間多被精談之用意暮秋之比付華嚴宗章疏之法華経論義雖相扶出之勤期日近々二諦令々不終微功務令参勤果而今年自青陽春初至朱明夏半再抽其志重励其勤以之為値遇善哉之業因又奉資春日大明神之法楽仰願佛神聖哀宿業哉然往詣内院見佛聞法随従下生降迷開悟乃至法界平等

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

331

二校了

9

談

文永八年未六月十五日酉時於東大寺知足院草庵投之畢去
年之冬初自十月七日法皇於西郊亀山殿仙洞御被始
行 宸筆御八講之時宗性入其人数之由兼有風聞之間
勿彼精談之用意初後九月之比付華嚴序章疏之法華経
論義雖始抄出之勤終急之身座送日月不終微功歟今参

(奥書)
因題目華嚴宗投葉投第八

利益而已

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

年齢満七十
夏臘五十八

昭和32年4月17日

文応三年四月八日

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

9

勤業而今年自青陽春初至朱明夏終再抽其志重励其勤
以之現値遇善氏尊之業因又奉資春日大明神之法身仰
願佛神垂哀　宿望成就性詣内陣見佛聞法隨從下生除
迷
述用悟乃至法界平等利益而已

右筆華嚴宇末葉權僧正宇性
年齢満七十
夏臈五十八

末

(綴目端書)
已上奈良年四月九日下
園城寺定円法印自所勤修送之也

奈良三年四月八日

昭和32年4月17日測

宗性上人御筆 原簡

© Hiraoka Shoshu

70

~~335~~

12 「華嚴宗枝葉抄草」(五)

(表題)

0冊子本

113
74

華嚴宗枝葉抄草第五

權僧正宗性

(内題)

「華嚴宗枝葉抄 第九」

(内題)

「華嚴宗枝葉抄 第十」

定業轉不轉事、

天台宗學者所存之趣願為不審之

間 去文永八年九月一日相尋園城寺定圓法印之處

同二日所勘送之也 為散後日之不審聊記當時之次第

334 71

9

而已

已上文永八年九月二日園城寺定円法印所勘送之也

集之輩可存此義欤

定業轉不轉事 天台宗人々所存多不審之間 文永八年九月一日相尋円成并定円法印之處 同三日所勘送之也 後賢之輩可准耳

已上文永八年九月三日園城寺定円法印所勘送之也

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

72

~~335~~ 72

9

(奥書)

文永九年壬申五月一日晴丁於東大寺勧定院草庵抄之了
去年之暦自春至夏所有所存之旨就花嚴宗之決花経
論義少々抄出之了自尒以降其志猶未思其勤重勵之
花嚴宇章疏中就決花経第八巻并普賢経之論義十条
所相聚之也去年素秋玄冬之比書出経論章疏之要文
今年暮春孟夏之間記録古義今案之難答以此勤奉資
春日權現之法楽答其志往生兜率内院之賤官書夜遊
見佛聞法之望朝暮預滅罪生善之益近国里諸有縁
之群類處至親疏無辺之衆生一々済度如々引接而已

右筆華嚴宇末葉權僧正宇性

年廿七十

: 73

73

~~336~~

9

夏藺土十九、

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

337

9

（紙背文書）

○華嚴寺僧申状

康大寺華嚴寺学侶等謹言

請早有乗明沙汰蒙裁許多武峯三綱辨璽寺主被收公

字領大和國田部庄内事

當庄者本願光明大僧都寄入一字重色之地也而失預所盛永少納言以當庄□(多)武辨璽寺主之許稱取借上自彼辨璽之許令收公一庄不叙用領家下知此條言詮道断狼藉也縦雖一代之預所可差置彼物之由契約可觸申子細□領家之處無左右收公之條理豈可然哉如此公領之習一任歷代之領家處分地猶以被改起者例也況於預所非法之沙汰哉事次第絶常篇然而但例臨時之宣仮併以勘如一宣者微何事如之哉

↓つづく

~~335~~

75

9

早任道理欲被佛止彼辨璽幸主非今之詭妨仍勤子細言上

如件

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

~~339~~

9

80字性書状

東大寺花厳学領、大和國田部庄事、学僧解状如此、子細
見于状候歟、可令申入給候也、恐惶謹言

八月十六日　　字性

謹上　権右中弁殿

本圀史料筐

© Hiraoka Shoshu

77

~~340~~

9

8 法眼長暁書状

大安寺領近江國野州北庄未納未事、出納法師状如此候、子細見于状候、領家領前縦雖得替被弁未納未事、為定例之上者、有限日吉上分物被致其沙汰者、尤可為令手候歟、依衆議執啓如件、恐々謹言、

十月五日　　法眼長暁

謹上　大安寺別當法印御房

平凡史料室

© Hiraoka Shoshu

341

8

9

8の兼勝陀政所宛行状（全面墨注）

兼勝陀政所宛行　伊賀國里田新庄内水田事

合拾肆町参段者　一色所當来百至者

銭別七斗代坪付在別紙

法橋俊快

右當庄預所職者、依故聖玄法眼之寵、俊快法橋令知行之由、近年仕勤務奉対領家依有不和之事、令奏聞事由之處、依致俊快不法被付寺家之由被下　院宣畢、雖然俊快歎申存和与之儀、

© Hiraoka Shoshu

~~342~~ 79

8

9

8の字性書状

太安寺領近江國坂田北庄雑掌訴状如此、子細具状候欤、
任道理可有御成敗候也、恐々謹言、

十月三日　　宇性

謹上　相模式部大夫殿

© Hiraoka Shoshu

（

四月十九日ニ聖禪ノ疱ヲ訪ヒニ俱舍論二十八卷中ノ論題ニツキ尋

又ニ

明思抄」三十八下

ノ大谷本佛敎全書本

問ニ過無漏三無色ニ不退淨四無色ニ叛可有耶ニ答可有此叛

也（中畧）

文永三年丙寅四月十九日ニ罷向聖禪擬講之疱室相尋此

事之處ニ（中畧）

但シ、本書ヲ校スルコトニ寶治二年三月四日ノ奥書ニ

厚木校合ス

文永三年四月十九日

© Hiraoka Shoshu

（又引三）

12

四月三十三日ニ聖禪ノ病ヲ慰ム又ニ 俱舍論二十八卷中ノ論

題ニツキ

9

「明思抆」三十八下

又ニ

○右準備教全書本

9

向ニ捨無漏三無色ニ不捨ノ味相應淨四無色ニ類平有耶ニ

答可有此類也（中畧）

文永三年丙寅四月二十三日巖阿聖禪擬講之病室ニ相尋此等不審之處同二十六日注送之狀云（下畧）

○但シ本書ヲ抆スルニハ宝治三年二月四日ノ奥書ニ

一、文永三年四月二十三日 厚東ニ校了

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

No. 1441 · 82 2657

315

82

五月三日 聖禅擬講[redacted]ノ病ヲ訪フ

朝曇 (三十八下)

同・来 走望地業ニ可感初静處衆同方果耶 答 可感初静處衆同方果也 (下畧)

文元三年丙寅五月三日時罷 聖禅擬講之病室 皆学此義畢

6年

但シ、本書ヲ抄スルコトヲ宣旨三年二月四日ヲ以テ

文元三年五月三日 厚本ニ校了

© Hiraoka Shoshu

函号 册

~~316~~

P

12

七月十八日 尊勝院ニテ 宋求 沙門 書寫セル 文殊師利菩薩所說宿曜經ヲ校了。

「文殊師利菩薩所說宿曜經」(上) 一巻子本

101 177 2-1

(表題) 「文殊師利菩薩所說宿曜經序

時進、試鴻臚卿大興善寺三藏沙門大廣智不空奉 詔譯」

(奥書) 字性自筆

文永三年丙寅七月十八日午時、於東大寺尊勝院謝宗成法師加一交了。

字性法印直文字畢。

(年譜) 宗性上人資料集原稿

文治三年七月十八日 厚本三校了。 昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P 1

9

十月三日 興福寺貞慧ニ対シテ倶舎論中ノ疑問ニツイテ尋ヌル又、

12

「明恵故上人の大日本佛教全書本

尚経部宗意計受想思ノ所変有時等拝ノ所名ノ王上假立名當思上假立故答可有二義辺也（中略）

此事多諸相宇論義委細之趣如唯識論第四巻尋思故等可見之

文永三年丙寅十月三日時仟於東大寺勝院対面興福寺貞慧擬講之次相尋此題之處彼擬講云経部宗意談受想思ノ所変有之時貪瞋等雖心所ノ心之分位思之差別云義當世学者殊所稱歟也所謂心王為貪瞋等心所ノ心王之外無別體故假名ノ心之分位也心王為貪瞋等心所ノ所依思造作力故

問題

文永三年十月三日

昭和 年 月 日

© Hiraoka Shoshu

318 95

P 2

9

云思之差別也有此三辺之義門故處々解釈非相違歟

8ウ ↓

但シ本書ヲ校スルコト寛治三年三月四日ノ年ヨリ見ユ

函号冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~319~~

十二月七日 知足院三千 華嚴宗枝葉抄 上 始

「華嚴宗枝葉抄」一冊 ○冊子本

113
2053
D-1

(表題)

華嚴宗枝葉抄第一

宗顯

(内題)

「華嚴宗枝葉抄第一」

(端書)

「安元三年 震筆 [illegible] 講」 「文暦三年 [illegible] 勝講 顯俊 [illegible] 」

「寛元三年 法勝寺 [illegible] 講 [illegible] 」

(奥書)

文永八年 [illegible] 十一月二十四日 [illegible] 於東大寺 知足院 [illegible]

~~319~~

十二月七日 知足院三千 華嚴宗枝葉抄 七冊
「華嚴宗枝葉抄」一

113
20
5
17-1

(表題)

華嚴宗枝葉抄第一

宗頭

(内題)

「華嚴宗枝葉抄第一」

(奥書)

「安元三年震筆加講」「文曆二年實勝講觀後向弁暁律師」

「寛元三年法勝寺加講寂年向宇性僧都」

文永八年林十一月二十四日時於東大寺知足院草着了

© Hiraoka Shoshu

350

探玄記第四卷三十講引見此尺之時依演義抄十願十藏非是別位得多向端信不成位何妨有同又藏願等皆他會答尚有別同之尺一週此愚案畢

9

(端書)

寶治之年法勝寺御八講長親向宗(性)大僧都

建保六年仏洞寂勝講口経僧都向良禹僧都

8

建久五年寂勝講頼恵向聖覚已講

建暦之年仏洞寂勝講頼恵僧都向顕尊大僧都

(奥書)

9

文元三年丙寅冬十二月七日巳時於東大寺和足院草庵以頼恵法印自筆之草本写之畢見朱点先主之筆跡忽往事之涙閑袂當欲暮之歳未顧餘算之悲銘肝且彼云此哀哉痛哉而已

戒

~~351~~

9 華嚴末葉法印宗性記之

6オ（瑞書）

8「仁治之年探書記第六卷三十講寅彦厚因聖禪」

6オ 夏書

9

文永三年丙寅四月八日時午於東大寺知足院別所之草庵校出之畢此等論義之次文永去年冬比於海住山十輪院多分記錄之樣陽道珍之疏蘊奧廣之成之次去三月之始於神山寺之後自或禪僧之辺借得其本之間於此學窓所書添也宗性適歸本寺猶卜草庵之閑居聊嗜修學未升華嚴之宇義然而為勤勸初心學侶覽記疑難會通之便抽為開後輩昆惠解廣集經論章疏之要文願以此微功早為上生內院之業所祭此意誠速遂值遇慈尊之望焉

© Hiraoka Shoshu

~~352~~

9

右筆華嚴宗未葉法印權大僧都宗性

年齡六十五

夏臘五十三

9

6ホ

(夏歟)

于時文永九年六月廿九日於東大寺尊勝院書写之

於文尺者私略之不審之時者可引見正本也

花嚴末葉沙門(ば)尺宗顯(花押)

6ホ

(花押)

平岡史料箋

© Hiraoka Shoshu

「34表之年法勝寺御八講ヲ経ト同宗(性)法印」

宗(性)甚睡華多謗義者之間不及第二重難

「仁治二年石清水八幡宮十六僧講房厚ヒ講ト同宗(性)律師」

「安貞三年正月最勝光院御八講宗(性)同智円律師」

「文永四年贈皇太后宮御八講宗(性)同華経法印」

「嘉禎三年探当記第三巻三十講幸慧同宗(性)」

○但シ本書中ノ宗性ノ参勤セル諸ノ八講ニツイテハ、各ソノ年次ノ条ニ収ム

(奥書)

○但シ本書中ノ前号本ノ奥書ハ、華厳宗枝葉抄草第三(113-1-2)ノ文永七年中秋谷ノモノト同文ノ故略ス、

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

91

~~353~~

9

12 「華嚴宗枝葉抄」 ○冊子本

6オ（表題）

華嚴宗枝葉抄第三

相傳頼兼

宗顯

113
205
17-2

6オ（内題）

8 「華嚴宗枝葉抄第三」 一ほアキ

6オ（奥書）

ばう（裏）

同三年丙庚十二月二十三日晴午 記錄此論義難答之次依思出往事、耳書入之也彼得業着去年正月六日之朝入滅畢 毎見故人書置之言悲無又可同訪之方修学之枝群雖欲朝

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

92

~~354~~

9

於乎死明匠之畢世誰人不傷嗟之哉

華嚴所末葉沙門宗性記之

6ポ（端書）

8「一乗院三十講覚晴已講向之畢」

6ポ（奥書）

8。但シ本奥書ハ華嚴宗枝葉抄第廿一草第一ノ中ノ文ヲ以テ写ス

本書中

6ポ（奥書）

三十巻ノモノト同文ノ故略ス、

9

于時文永九年七月十五日於東大寺尊勝院書写了

尺文私略之不審之時者可引見正本也

花嚴宗末葉 沙門尺字顕

末

日本國史料叢

© Hiraoka Shoshu

93

~~355~~

12
「華嚴宇枝葉抄」六
64(表題)
8
9
冊子本
113
1205
7-3

9
華嚴宇枝葉抄第六
宇題

64(内題)
8
「華嚴宗枝葉抄第六」
一字アキ

64(端書)
8
「文永七年寅勝講房暁尚宇(性)法印」
「文永四年探玄記第三巻三十講度實尚貞賢」
「建長元年仙洞寅勝講経海大僧都尚宇性大僧都」
「仁治三年法勝寺御八講長親尚宇(性)律師」

© Hiraoka Shoshu

91

357

64 (奥書)

于時文永九年八月八日於康大寺尊勝院書写之了

尺文中間粗略之不審之時者正本可引見之

花厳未葉 功門尺宗賢記

64

8P

○但シ本書中ノ字性ノ参勤セル諸ノ講ニ於イテハ各ソノ年次ノ条ニ収ム

依此相傳 条

八宗職於超寺寺之

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

94

357

6オ

(奥書)

于時文永九年八月八日於東大寺尊勝院書写之了

尺文中間粗略之不審之時者正本可引見之

花厳末葉沙門尺宗顕記

6ウ

8オ

↓ 但シ本書中ノ字性ノ参勤乞ル諸ハ講ニツイテハ各ソノ年次ノ条ニ収ム

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

~~258~~

(紙背文書)

一〇ほ顕申状

伊賀國黒田新庄者、弘安年中　後白川法皇御時、顕恵法印
為百口学生供新庄殊入力而申立□□當庄畢、即於彼領
家職相傳知行、敢無相違□□而以彼領家職譲尊勝院弁暁
法印、其後為尊□(勝)院領、即勤花嚴会役而令供新御仏有違
乱、件根文之状付西室之處、定顕法印限永代譲賜会顕畢、然而
旁依有子細、於彼庄領家職相副定顕法印譲状、令譲進東大
寺別當僧正御房畢、於向後者更不可懸花嚴会役顕恵并暁
相□(副)手継等、同雖令相副之、依相文余事、毀其□(画)而可副進案
文也、但為當庄代所譲賜西南院散在田薗畢、彼此相傳
向後更不可有違乱□有殊子細被避出領家職於勧寺寺之
所

~~359~~

9

聞者口相傳之根之欲 区賜字額之状如件

文永八年 正月 日

平岡史料館

© Hiraoka Shoshu

~~300~~

9

12「華嚴宗枝葉抄」七 8

6オ（表題）

華嚴宗枝葉抄第七

宗顯、

9 0冊子本

113
205
ワ-七

6ウ（内題）

8「華嚴宗枝葉抄第七」

6オ（端書）

8「文永七年十月 寂筆御講 信超大僧都 宗性 前權僧正」

6オ（奥書）

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

~~361~~

9

文永七年暮秋之比、為自来十月七日欲被相行宸筆御八講儀、古修学之次、入法華三昧、説法華経玖事、天台宗人之耳存不審之旅、相尋園城寺定円法印之處、注送詞云、

審

62

(端書)

8

「寛治之年三月聖覚法印十三年忌辰五部大乗十講、表後大僧都尚宴性大僧都」

8P

↓ ○但シ、本書中ノ宴性ノ参勤也、諸ノ講ニハ、各ノ年次ノ条収ム

9

已上文永八年四月九日園城寺定円法印所勘送之也、

文義為委悉後学可有秘之書写之後返遣彼本畢、

61

(奥書)

8

○但シ、本書中ノ写本ノ奥書ハ、華厳宗枝葉抄草第四(113-3)ノ文ヲ示ス年

五月二十四日ノモノト同文ノ故略ス、

~~362~~

(奥書)

于時 文永九年九月九日 於東大寺尊勝院書写之了

尺文中間又略之 不審之時者可引見正本也

華嚴宗末葉沙門 (花押) 尺源顕

相傳公海之

© Hiraoka Shoshu

~~363~~ 100

12 「華嚴宗枝葉抄」八 ○冊子本

6ウ (裏題)

8

9

7

華嚴宗枝葉抄第八

權僧正 [illegible]

113
1
17-5

6ウ (内題)

8 「華嚴宗枝葉抄第八」 二字アキ

6ウ (奥書)

9

已上文永八年七月十三日 圓城寺定圓法印所注送也

已上文永八年四月九日 圓城寺定圓法印所勘送之也

文義為参悉後学可祕之書寫之後返遣彼本畢

~~364~~

101

9

已上去仁治二年五月　後嵩倉院御入講之時、延暦寺智圓法印所注送之也

已上文永八年四月九日園城寺定圓法印所勘送之也文義為參考後學可秘之書写之後返遣彼本畢

此釋學者深令秘藏之由日来傳聞之間去寛治元年之秋九月二十一日相尋延暦寺智圓法印之處所注送之也

柱3

函号册

~~365~~

二校了

102

9

(奥書)

文永八年辛未六月五日酉時於康大寺知足院草庵拔之畢

去年之冬初自十月七日法皇於西郊亀山殿仙洞欲被始行 宸筆御八講之時宗性入其人數之由兼有風聞之間多彼精誠之用意初後九月之比付華嚴宇章疏之法華経論義雖始拔出之勤發(後)之身定送日月不終徽(徹)功懇念參勤畢而今年自青陽春初至朱明夏終再抽其志重勵其勤以之宛値遇善氏尊之業因又奉祈春日大明神之法華仰願佛神垂哀宿望成就往詣内院見佛聞法隨逐下生降迹開悟乃至法界平等利益而已

右筆華嚴宇末葉權僧正宗性
年齡滿七十
夏蒲五十八

文永三年四月八日

〔宗性上人研究会〕

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

二校了

(綴目端書)

「去寛治元年九月三十日所記送之也」

(裏書)「今以年十月廿四日於筥足院書畢之」

「華嚴信種義要文抄一巻永四年八月三日酉時於西山高山寺

山本房抱之」

二ヶ所アテ

~~356~~

103

12 「華嚴宗枝葉抄八」

6オ（表題）

9

華嚴宗枝葉抄第八

權律師道璿

9 1冊子本

113
205
7-5

6オ（内題）

8 「華嚴宗枝葉抄第八」 ニホアキ

6オ（奥書）寫本ノ

8 ○但シ奥書并ニ、字性自筆本ノ華嚴宗枝葉抄第八（113-205-7-5）ト異事ナキヲ

以テ略ス、

6オ（奥書）

9 曆應二年三月廿一日 逃 訖

寶一（助公ヵ）之書寫之畢、

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

~~367~~ 104

9

此併啓興隆佛法三親師匠等一切聖衆出離生死證大菩提也

同年月廿三日一次了

權律師覺聖 二十五 四十九

廿

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

~~368~~ 100

9

12 「華嚴宗枝葉抄」九 8

6オ（表題）

華嚴宗枝葉抄第九

權僧正宗性

9 1冊子本 113 1 17-6

6オ（内題）

8 「華嚴宗枝葉抄第九」 ニなアキ

6オ（端書）

5 「建保四年寂勝講兼性尚道證已講」 澄

「建長三年三月二十二日律金剛院依義八講宗性尚定學大僧都」

6オ（奥書）

9 文永九年申生六月三日酉時於東大寺知足院草菴校之畢

~~369~~

100

9

去年之暦自春至夏聊有所存之旨就華嚴尓之法華経論義
十々枚出之畢自今以降其志猶未休其勤重勵之華嚴尓章
疏中就法華経第六并第七両巻之論義十条所類聚之也去
年素秋玄冬之比書出経論章疏之要文當年青陽朱明之候
記録古義今案之難答以此勤奉増春日權現之法楽答其志
願生々世々奉守護尓之實宮晝夜礼一生補處之聖容朝暮偕三
無差別之深理近日有縁之群類遠至無辺之衆生一々令済
度々施引接而已

右筆華嚴宗末葉權僧正尓性

年齢七十一

夏龍之十九

~~370~~

107

12 「華嚴宗枝葉抄」九 ○冊子本

6オ (表題)

9

華嚴宗枝葉抄第九

權律師覺聖

6オ (内題)

8 「華嚴宗枝葉抄第九」 一ナアキ

6オ (奥書) 本

8 ○但シ本書中ノ写本ノ奥書ハ字性自筆等本ノ華嚴宗枝葉抄第九 (113-16) ト異事本ヲ以テ略ス

6オ (奥書) ○宇類事

9 于時 文永九年十一月十日 辰 於東大寺尊勝院書写之

113 205 7-0

© Hiraoka Shoshu

~~371~~

156

9

3、尺文中間私又略之ヒ尤為懈怠ヒ

花巖末葉功門尺字顕

9

6ぱ

○覚聖筆

暦應二年二月廿一日ヒ所被略文仕正本書入之畢ヒ

權律師覚聖 六十五

同年月廿三日一交了ヒ

372

193

12
「華嚴宗枝葉抄」十
6ぱ（表題）
9
冊子本

113
1
7-7

9
華嚴宗枝葉抄第十

權僧正宗性

6ぱ（内題）
一字アキ
8
「華嚴宗枝葉抄第十」

6ぱ（奥書）
9
已上文永八年九月二日園城寺定圓法印所勘送之也
當宗学者可存此旨矣

已上一交畢
雜抄 世々疑文智證大師御作也

不開史料室

© Hiraoka Shoshu

~~373~~

110

9 已上去年松尾勝月房上人慶政所、被注送之趣也、

6オ 綴目端書

8 「文永八年四月三日書之」

平岡史料室

© Hiraoka Shoshu

~~374~~

111

12
「華嚴宗枝葉抄」十
(表題)
8
9
1冊
1
113
205
7-7

9
華嚴宗枝葉抄第十
字題

6オ
(内題)
5
「華嚴宗枝葉抄第十」

(奥書)
文永九年壬申五月一日暫於東大寺加足覩草庵抄之了去年之暦自春至夏聊有所存之旨就花嚴宗之法花経論義少々抄出之畢自尒以降其志猶未休其勤重勵之花嚴宗章疏中就法花経第八巻并普賢経之論義十条前類聚之也去年素

6P

平岡史料箋

© Hiraoka Shoshu

~~375~~

112

秋芸冬之比書出経論章疏之要文當厚暮春盂夏之候記錄古義今案之難答以此勤奉增春日權現之法集答其志願生兜率内院之資宮書夜遂見佛聞法之望朝暮願滅罪生善之益近自真俗有縁之群類遠至親疎無辺之衆生一々済度各々引接而已

右筆花嚴房末葉權僧正宗性

年齢七十一
夏臈五十九

64°
(奥書)

于時文永九年十一月廿三日於東大寺勝院書写之了

尺文中尚私又略之了

花嚴房末葉玖門尺宇顕

64°
(表紙)

厚本二校了。

© Hiraoka Shoshu

370

13

二校了

P.

9

12

文永四年（丁卯）（一二六七）

二月三日後鳥羽院御忌御八講ニ參ズ（六十六歳）

【諸宗疑問論義抜書】（端書）

8

「文永四年後鳥羽院御八講宗性問聖憲法印」

○冊子本

113
18
22-22

8

6

9

向經文說淨妙國土相云雜華經中ニ廣分別文ノ者所云雜華經者指華嚴經歟答云此事或云不來此土經或云指華嚴經之二釋在之若依指華嚴經云釋意者華嚴經中無明東方淨妙國土相之文云疑可有也會之云

6

○下略以下欠

向三七日安樂行可用好伴耶答

○半欠

○但シ、本書ヲ抜スルコト、寛元三年十月二十八日ノ奥ニ見エ、文永四年二月二十三日

昭和 32年 5月 26日 調

厚本交合ス

© Hiraoka Shoshu

No. 113
377
2674

二校了

三月十三日 長講堂御八講ニ參ズ

諸宗疑問論義 (主二) 自正三年 至文永二年 ○冊子本 (端書)

文永四年長講堂御八講宗性問聖憲法印 (端書)

問 六根浄人今前化衆得秘密益故 答 ○下略以下欠事

問 善賢行者浄諸根罪障見普賢色身者限三生内故 答 経文并解釋意可限三生内見 ○下略

○但シ、本書ヲ校スルニ、寛元三年十月二十日ノ条ニ見エ、

文永四年三月十三日

113
17
22-22

厚本交合

昭和32年5月26日調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

P

三月二十五日 知足院ニテ文華凡月至要抄ヲ抄ス。

【文華凡月至要抄】 一冊子本

113
150
1

(表紙)

文華凡月至要抄

權大僧都宗性

(奥書)

金光明後釋 實喜二九 三十一不用 同年五二十三 用了。

文永四五年已埜裏 裏 厩勝講第二座講師宗性 此因縁宗性親倍其座聽聞此事感歎之餘 書其本說之處

文永四年三月二十五日

(宗性上人研究会)

國号冊 (年譜) 宗性上人資料集原稿 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

函号冊

P

同之年記、長講堂御八講、参会之次、不忘年芽、自懐中取出、失師房源法印自筆草本借之、仍即時染櫛筆

○綾古今集眞名序

○但シ、本書ニハイテハ、中巻掲載ノ寫眞ヲ参照セラレタシ

（奥書）

文永四年丁卯三月廿五日巳時於東大寺俄足院草庵依堂童子行房之誂草之了、夜前今朝之間、如形草之、条々散々痛哉、歎哉、

沈印房性恵

○類聚名義抄ノ逸文ニハイテハ、中巻掲載ノ寫眞ヲ参照セラレタシ

年月日 昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No. 116

2677

392 1-7

12P

七月三日 法勝寺御八講ニ參ズ

【法勝寺御八講問答記】 一冊 ○

113
27
1145

当用

文永四年 上卿右大将藤通雅 威儀師嚴運 8P

奉行 權右中弁藤経仕 威儀師相秀 3P

講師

法印權大僧都 宗性

證誠

6P 東 宗性 法印

興 実慶 法眼

山 兼智 〃〃

6P 山 静明 〃〃

寺 慶怡 住吉生 四十五 才

興 印寛 七 才

6P 興 初 尊請大法師

寺 頼兼 權律師

6P 山 実嚴 權大僧都

寺 房盛 〃〃

興 行寛 權ノ〃〃

6P 寺 顧兼 〃〃〃

6P 東 宗覚 十五 才

興 経誉 十五 才

興 初 房雅 十五 才

聽衆

6P 寺 慶怡 住吉生 四十五 才

興 印寛 七 才

6P 東 宗覚 十五 才

興 経誉 十五 才

興 初 房雅 十五 才

文四 年七月三日

昭和 33 年 4 月 15 日 調校了

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

393

118

函号冊

P

昭和四年七月三日

昭和33年4月15日 謄写

口 固

固 講讃経文云々如来成道後初七日間即説花厳経云耶

在表白 一字アキ 初日朝座講師宗性 問者慶恰

山二云勘 6P
山初弁眞 6P
山初云盈 6P
寺初芝弁 6P
寺初信雅 6P

固 仁王般若経中付助歎喜等十地所断之相、介ハ於七八九三地色心 (煩悩) 究習氣同断耶 6P 作子

9P

レビ

© Hiraoka Shoshu

P

永四年七月三日

昭和33年4月15日謄校了

童童子僧参之間以預賜花苔

夕座実厳　尚者宗顕

中御門宰相宗雅　8p　奉行弁

侍従大納言為氏　8p　花山院中納言兼雅　8p　藤中納言経俊　8p

行香　公卿　一定　咒　三礼　導清大法師

證議之御欲證義事講師時更重難者倒也仍錯

8p

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

P

第二日
朝座 行覚 ―なアキ
向着 玄親 ―なアキ

第三日
夕座 実憲 ―なアキ
向着 弁真 ―なアキ

頼業 ―なアキ
向着 経誉 ―なアキ

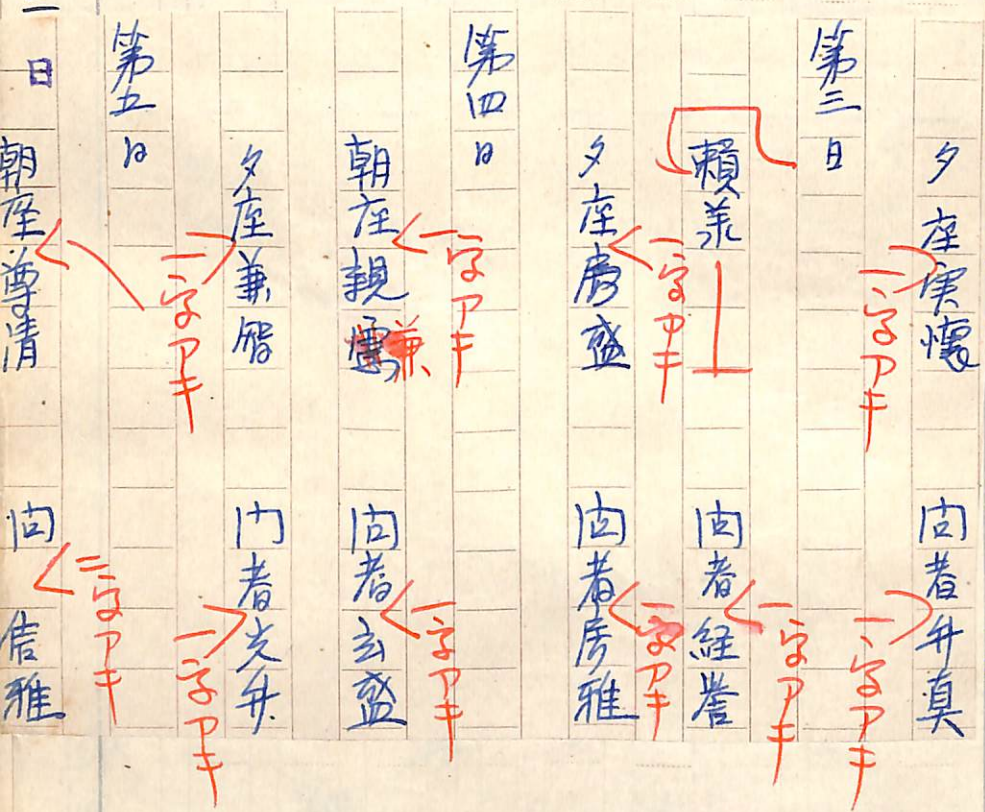
第四日
夕座 房盛 ―なアキ
向着 房雅 ―なアキ

第五日
朝座 親憲 ―なアキ
向着 玄盛 ―なアキ

夕座 兼胤 ―なアキ
向着 玄弁 ―なアキ

朝座 尊清 ―なアキ
向着 信雅 ―なアキ

© Hiraoka Shoshu



© Hiraoka Shoshu

1468 120 2681
306 12

4

文永四年七月三日

本請辞返 6p

謄義権僧正啓 山

興 法印実性 権別當兼 8p

供養法権大僧都実厳 一字アキ

奉行弁已下相加

倶舎香以前退出了

平宰相時継

右大将通雅 侍従大納言資 土御門大納言宣実

行香 卯

見参 法印 一字アキ

結座 ㄴ 結座 ㄴ 一字アキ

静明 一字アキ

(以下同者異)

同者印實

公卿

倒時調聲 信雅 一字アキ

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1468 120 2681

396 121

4

文治四年七月三日

本請僻退 6P

山 證義權僧正智円

興 法印実性 權別當兼 8P

奉行弁已下相加

供養法權大僧都実最 一字アキ

例時調聲 信雅 一字アキ

平宰相時継

右大弁宰相 雅言

右大将 通雅 侍從大納言 兼 土御門大納言 宣実

俱行香以前退出了

卯 分御 卿

行香 見顧法印 一字アキ

(以前各異)

結 一字アキ

結座 一字アキ

靜明 一字アキ

内者印實

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

No 121 2682
307
133

二校了

講師 彦剣 信超 実禅
聞請 静明 実巌 実慶 彦盈
丁衆酔庭 良信 廿四 印
聞請彦雅
○冊子本
113
17
1

諸師願こ出華厳宇論義抜上
の但し本書ヲ抜スルコト。貞応之年三月九日ノ条ニ見ユ。↑印

法勝寺御八講
○中署

文永四年
初日朝座講師法印権大僧都宇性 聞者経怡(慶)
○但し問答ノ要文ハ法勝寺御八講問答記(1270)ト異ルヲ以テ略ス。
マタ本書ヲ抜スルコト。文永五年是歳ノ条ニ見ユ。↑印

文永四年七月三日

昭和33年10月抜き
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

二校了

P

講師 虎渓 信超 虎禅
閲請 静明 実巌 実慶 虎盈
丁寧往返 良信 廿四 8p 閲請 虎雅

○但し、本書ヲ校スルニ、貞享之年三月九日ノ条ニ見エ、↑8p

諸師頌ニ出ル華厳字論義抄 上
○冊子本
113
17
1

文永四年
法勝寺御八講
○中署
初日 朝座講師法印権大僧都宗性 閲者経怡(実ヵ)
○但し問答ノ要文ハ法勝寺御八講問答記(1129)ト異ルヿナキヲ以テ略ス。

マタ、本書ヲ校スルニ、文永五年是歳ノ条ニ見エ、↑8p

文永四年 七月三日

昭和 23 年 × 月 校了

© Hiraoka Shoshu

~~397~~

122

二校了

P

講師　彦渕　信超　実禅

閲請　静明　実巌　実慶　彦盈

丁衆辞退　良信（廿四）卩　閲請　彦雅

○但シ、本書ヲ校スルニ、貞応元年三月九日ノ条ニ見エ、↑卩

諸師顧ニ出華厳宇論義抜（上）

○冊子本

113
17
1

法勝寺御八講

○中署

文永四年

初日　朝座講師法印権大僧都宇性　問者経（慶）怡

○但シ問答ノ要文ハ法勝寺御八講問答記（1320仍）ト異ルヤキヲ以テ略ス。

マタ、本書ヲ校スルニ、文永五年是歳ノ条ニ見エ、↑卩

文永四年七月三日

昭和23年×15月校了

© Hiraoka Shoshu

No. 122 2683
398 123
二校了 P
函号 冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和32年5月26日調
文永四年七月十八日
原本文台
〔宗性上人研究会〕

12P

七月十八日贈皇太后宮源通子御忌御八講ニ参ズ

【諸宗疑問論義抄】三十 自正元二年至文永三年 ○冊子本

113
18
22-22

8P

「文永四年贈皇太后宮御八講宗性問尊経法印」

（端書）

6P

問経文云諸佛興出世懸遠値遇難難文今者故奈大師意弥勒出世後何劫諸佛出世歟云々奈大師釈云弥勒佛後第十五減九百九十五佛次第出興歟也

8P

（端書）

6P

「文永四年贈皇太后宮御八講宗性問尊経法印」

問経文説會衆善小行帰廣大一乗旨今者感人天果報善報成々佛因可云耶答可為成佛因也

309

121

P

嘉四年八月八日

12P

八月八日 京都高山寺ノ 江内ヘ兵衛入道ノ百日忌辰ノ願文ヲ記ス

【江内兵衛入道百日忌辰願文】 ○巻子本

（表題）

江内兵衛入道百日忌辰願文 法印釋宗性

6P

（端書）○宗性自筆

「文永四年弐辰八月八日未時於西山高山寺勤仕江内兵衛入道百日忌辰唱導之時願文也」

（本文奥書）

文永四年六日 日

弟子沙弥明智 菩敬白

103
66
1

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

124
~~2686-2~~
~~400~~
125

函号 冊

12P

文久五年酉（一三之八）

二月十一日 相足院ニテ諸御用人講啓白等草ス

【諸御用人講啓白等草】（表題）

○冊子本

113
101
1

（年譜）

（文十七歳）

「諸御用人講啓白等草」

権僧正宗性

諸御用人講啓白等草

権僧正宗性

文久五年二月十一日

昭和33年4月15日 3

宗性上人資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 125 ~~4691~~ 2686-3

~~401~~

123

P

國号冊

(奥書)

文永五年 辰戊 二月十一日 酉時 於東大寺加足院草庵草之了

6P

6P

為後日 為加院御八講也

沈印宗性

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

文永五年二月十一日

昭和 33.4年15校了

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 126 2686-4

402 127

函号冊

P

(奥書)

文永七年庚午(所)後九月十八日(申時)於東大寺尊勝院西面学問所重草之了(第二度也)折節霊疫脚病(6p)討禽内痔外痔競発之間身心雖精(6p)神衣裳雖汗穢(痔)震筆(筆)御講既為近々期日不繰万事(令)忽(ママ)忘仍不顧(汚)恥悪令記録了後覧之人可哀其志而已

権僧正実性

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

文11年二月十一日

昭和33年4月制校了

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

~~403~~ 125

二校了 P

二月三日 後鳥羽天皇御忌御八講ニ參ズ

【諸宇叙向論義故】三ヒ

（端書）

「文永五年 後鳥羽院御八講宗性問聖憲請 印」

自延三年 至文永年 ○冊子本

113
18
22-22

（年譜）

向経文云毗盧遮那遍一切處文 介者遍一切處者毗盧遮那翻名故 若毗盧遮那者翻光明遍照故遍一切處者非毗盧遮那翻名也但毗盧舎那此云遍一切處者是則義翻也非翻 正名故、

（端書）○前項ニ合ゼ

向今経意以五品位量六根内義可有耶 若如樂大師釋云大師有時依普賢觀判五品位在六根内也○下略

○但シ本書ヲ按スルニ、實ニ三年十月三十八日ノ条ニ見ユ

厚本文合ス

文永五年二月三日

昭和32年5月26日

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

二校了 P

二月三日後鳥羽天皇御忌御八講ニ參ズ

【諸宇疑問論義抄】三上 (端書)

「文永五年 後鳥羽院御八講宗性問聖憲法 印」

自正安三年至文永二年 ○冊子本

113
18
22-22

(端書)

問経文云眦盧遮那遍一切處文 介者遍一切處者眦盧遮那翻名欤 若眦盧遮那者翻光明遍照故遍一切處者非眦盧遮那翻名也 但眦盧舎那此云遍一切處者是則義翻也非翻名欤 (端書)○前項ニ合ズ

問今経意以五品位量六根内義可有耶 若如樂大師釋此事云大師有時依普賢觀判五品位在六根内也 ○下略

○但シ本書ヲ按スルニ、建三年十月三十日ノ条ニ載ル、

文永五年二月三日

厚本文合ス

昭和32年5月26日調

© Hiraoka Shoshu

123

函号冊

P

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年月日

昭和年月調

8P

○但シ、本書ノ本文ニツイテハ、中巻巻末ノ寫眞参照サレタシ

調伏異朝怨敵抄

法印權少僧都宗性

12P

12P

【調伏異朝怨敵抄】

○冊子本

113
111
1

是月、経性（荘厳房）ノ住房ニテ蒙古國牒状ヲ披（寫）シ、合セテ

調伏異朝怨敵抄ヲ抄ス

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

~~414~~ 130

（奥書）

文永五年二月二日（二十二日）之候於西郊龜山殿大多勝院道場勤仕後
鳥羽院御八講之間此程寄宿経性称阿房之住房之次借
請彼房主之本即誂其房主令書写之畢當時天下無雙勝
事只有此事歟仍為後覧所書留之也依諸仰之拝受傳
不被遣之畢委細之事追可尋記之而已

華嚴宗 末葉 清印 釈宗性

年齢六十七

夏臘五十五

末

文永五年二月

○但シ二字性ノ後鳥羽院御八講二巻ヲルニト、二月二十二日ノ条ニ見エ、

© Hiraoka Shoshu

~~415~~ 13

9P

(奥書)
文永五年戊辰五月 8P
禁裏仙洞勝講第二座講師宗澄法印(山) 8P
所願中出此因縁宗性即偕其座親聴聞之感激之余尋其
本談之處同六月已三月毛講堂御八講参会之時彼法印
不忘去年芳約自懐中取出先師宗源法印自筆折紙借之
仍所書寫彼本也

8P
○但し宗性ノ仙洞禁中最勝講ニ参ズルコト、五月二十日ノ条ニ見ユ、

文永五年二月

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集(年譜)

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 131 ~~2699~~

~~416~~ 132

二校了

P

三月十三日 長講堂御八講ニ參ズ

【諸宗疑問論義抄】 三十 8P ○冊子本

(端書) ↑6P

「文永五年長講堂御八講宗性問聖實法印」

向山家大師付一乘圓宗依事經分別正依傍依不同并普賢觀經爲正依經爲當如何 若普賢觀經者是法華結經与 明一乘圓頓之修行談六根懺悔之勝用故同所結法華可屬正

向圓頓行者除六根障可同時耶 若円頓行者除六根障可同時也 破此同時之釋此旨分明也 ○下略

(端書) ○前項ニ合ス

依經也 ○下畧

文永五年 三月十三日

昭和 32 年 5 26 月調

厚本交合子

宗性上人関係資料集原稿

(年譜)

113
18
22-22

© Hiraoka Shoshu

No. 131 ~~2699~~

~~416~~ 132

二校了

P

12P

三月廿三日 長講堂御八講ニ參ズ

【諸宗疑問論義抄】 廿二 8P ○冊子本

(端書) ↑6P

113
18
22-22

8P

「文永五年長講堂御八講宗性問聖實法印」

9P

向山家大師付一乘圓宗依事經分別正依傍依不同ノ者普賢觀經爲正依經爲當如何 若普賢觀經者是法華結經ト云ヒ明一乘圓頓之修行談六根懺悔之勝用故同所結法華可屬正

6P

(端書) ○前項ニ在リ

依經也 ○下畧

9P

向圓頓行者除六根障可同時耶 若円頓行者除六根障可同時也 破ル同時之釋此旨分明也 ○下略

文永五年三月十三日

昭和32年5月26日謄

厚本文合子

宗性上人研究会

© Hiraoka Shoshu

6

132

133

113
函
14号
1
冊

P 1

12.

四月四日 尊勝院三宇 華嚴經探玄記十四ヲ撰ス

【華嚴經探玄記】十四 9P

○冊子本

111
14
1

(表題)

華嚴經探玄記卷第十四

9P

性鍛之

9P

(表紙ウラ)

8P 8P

經廿八 廿九

論十、十一、十二

文明五 年 四 月 四 日

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

134

P 2

113 函 14 号 1 冊

（内題）「華嚴経探玄記第十四 下盡第十地 京兆魏国三蔵法藏述」 8P

（奥書）以宮本交了 8P

寶暦二年四月廿日

（奥書）。宗性自筆。 6P

文永五年歳次戊辰四月四日時於東大寺尊勝院西面合探玄記第十四巻并十地論第十、第十一、第十二、奉幾之畢。宗暁得業受宗厳得業受仏洞房論義用意也 9P

法印前権大僧都宗性 一字アキ

年齢六十七 夏箱五十五 9P

文永五年四月四日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

（年譜）宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 國 14号 1 冊

P 3

（奥書）性鑁自筆

仁治三年壬寅八月五日於西山高山寺義林房奉見

多師範例兼廿人令許被傳了

多生々生々值遇結緣善解善行每座修學聽聞必董習

本誠期本願大益

求法老比丘 性鑁 生年滿卒

文永五年 10月 10日
昭和 年 月調
（年譜）
宗性上人資料集原稿
（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No. 135 ~~702~~

~~419~~ 135

函号・冊

P

12P

四月十四日 知定阿ニ于西八条殿御八講啓白草草于抜入

【西八條殿御八講啓白草草】 ○巻子本 103/68/1

(表題)

「西八條殿御八講啓白等草 文永五年 8P 法印釋宗性」

(奥書) 6P

文永五年 6P 戊辰 四月十四日 時記 於東大寺加足院草庵草之了

建治元年十九日 西八條殿御八講初座講師也 法印宗性

9P

文永五年 四月十四日

昭和 年 月 日

〔宗性上人研究会〕

函号・冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No. 136
420
703
127

二校了

四月十九日 勝静院三尊仏 先師（年譜）

二参ゾ

（端書）6P

【諸宗教由論義抜】 三十 8P

○冊子本

113
18
22-22

12P

文永五年四月十九二十両日於勝静院被修先師十三年忌御八講

御八講宗性問聖覚法印」

問経中付説二乗聖者尚倍得脱相且住果声聞中未法華會座不尚倍類可有耶 答。※欄筆 8P

（端書）6P 前項ニ合ジ

問法華教主可ニ応身耶 答。※欄筆 8P

（端書）6P

文永五年四月勝静院御八講時ニ多用意記之」

問当時花嚴可有別座耶 答。※欄筆 8P

9P 18P

文永五年四月十九日

昭和 年 月 測
宗性上人関係資料集原稿
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

四月三十八日 知足院ニテ仙洞最勝講啓白莽草[redacted]ヲ校ス

[redacted]次テ仙洞最勝講時人人草ヲ校ス

【仙洞最勝講啓白莽草】 ○巻子本

103
32
1

（表題）

【仙洞最勝講啓白莽草 文永十年 法印釋宗性】

（奥）[redacted]

文久三年四月三十八日

昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕 （年譜） 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No. 138 2708

422

130

P

函号冊

(奥書)↑6P

文永五年戊辰四月二十八日聊於東大寺加足阿草庵草之畢

9P

爰多自来五月三日被招行 仙洞最勝講南白講師也

清印宗性

8P↓

但シ、宗性ノ仙洞最勝講ニ参ズルコト、五月三日ノ条ニ見エ、

文永五年四月二十八日

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 139 2706
423
14)

12P

【仙洞最勝講時人人草】 ○巻子本

(表題) 6P

仙洞最勝講時人人草 文永五年 8P

法印釋宗性

(端書) 6P

文永五年欲勤仕仙洞最勝講々師時如林房上人所書送之言也

(端書) 6P

文永五年欲勤仕仙洞最勝講々師時管二品卿頼卿所書送之言也

(端書)

文永五年欲勤仙洞最勝講々師時明心房上人所注送之

文也 6P

○但シ、宗性ノ仙洞最勝講ニ参ズルコト、五月三日ノ条ニ見エ、文永五年四月二十八日

103
33
1

國号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 〔宗性上人研究

© Hiraoka Shoshu

424

二校了

P

11

12P

五月三日 [redacted] 仙洞最勝講ニ参ズ

〔仙洞最勝講并番論義問答記〕 ○冊子本 113 30 44

文永五年仙洞最勝講問答記 自去月三日於左京
高名仙洞被始行之 8P

奉行 左大弁宰相雅言

勘申 威儀師嚴暹 今文從儀師相秀

證義者

法印前權大僧都宗性 三 6P 聖憲 初 6P

講師

宗性 十 6P 聖憲

文永五年五月三日

昭和55年1月調

〔宗性上人研究会〕

宗性上人関係資料集第一輯

© Hiraoka Shoshu

法印權大僧都実伊　宗慶

定円　權大僧都尊憲

憲実　權少僧都実寛

大法師　宝綵初 6P　信弁初 6P

本請講師權少僧都行寛　辞退之處被召專憲畢

初日朝座講師宗性　同着堂憲　在表白

問全文明経意理智俱多法身躰狀　答被全文明経文云唯有如々如々智是名法身　理智俱多法身躰見（下略）8P

問證密経中云三地菩薩生淨土　文今着今此三地者香象大師　如何釋之耶

文応元年五月三日

昭和33年1月調

〔宗性上人研究会〕

函号冊　（年譜）　宗性上人関係資料集原稿　25

© Hiraoka Shoshu

No. 142
426
2709
115

二校了

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

答見擇玄記解秋云解深密經中三地菩薩生佛淨土者彼約七地明義即初地當彼第三也文略

下座證義者云御願證義者兼講師之時值重難者例也其上講答明々也鐘云、

行香

次願 諸印衆擇大僧都宗性 三礼 大法師信弁 性一字

文治五年五月三日
昭和 年 月調
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

143 ~~137~~

二校了

141

9P

P

今御 御

内大臣家経　右大将通雅　師中納言経俊　平宰相時継
源宰相資平　左大弁宰相雅言　別當　公孝
仁和寺三位宮氏

8P

用自殿下　基平　雖有着座行香以前被退出畢

着座講師聖憲　問者宗性

問経文。妙身大師解釈中縁覚聖者起一百七十八心一座證覚之余者其中下八地能治道無間解脱等四道中何攝耶
答見妙身大師解釈云縁覚先曽雖八地或一座證覚更於九地次第而修更起無間解脱二道ハ下八地中雖不断惑趣行次第法不故也之ト略

ハ雖

© Hiraoka Shoshu

二校了

428

145

問梵網経文云千百億釋迦各接微塵衆倶来至我所聽我誦佛戒文今者千百億釋迦接微塵衆至盧舎那佛所聽誦菩薩戒樹下成道後欤

答依彼経現文千百億釋迦接微塵衆至盧舎那佛所聽誦菩薩戒雖似樹下成道後理實而言樹下成道後不可有此化儀故可云樹下成道前也故宗師解状中此旨所述也但千百億釋迦者於因旦立果名故無相違也

下座證義者云師願證義者兼講師之時道重難者例也鏈云

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~2412~~

~~1496~~ ~~429~~

110

二校了

4

第二日

朝座 講師寅伊 ―なアキ 向着宇慮

暮座 講師宇慮 ―なアキ 向着寅伊、

第三日

朝座 講師定円 ―なアキ 圓 向着尊憲

暮座 講師尊憲 ―なアキ 向着定円 圓

第四日

朝座 講師憲実 ―なアキ 向着宴慮

暮座 講師寅慮 ―なアキ 向着憲実

第五日

朝座 講師定紀 ―なアキ 縁 向着信弁

文和五年五月三日

文和五、五、三

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

碁左講師信弁　向者定縁
雖為結座重難有之

咒願詩甲前権大僧都宗性　三礼大法師信弁　奉用ア半
行香　奉用ア半

今御
御

右大臣基忠　二条前大納言資季　中宮大夫雅忠
左衛門督通頼　権中納言伊頼　中宮権大夫隆顕
左大弁宰相雅言　右衛門督師親

即布施　二字ア半
右大臣以下取之　被
各従物一重也

文治五年五月三日

昭和31年1月調

© Hiraoka Shoshu

431

113

二校了

P

9P

諸僧自取之退出畢下 詣印璽憲之 勅鍚於中門廊

權大僧都憲実請取之与與 従僧畢下

最勝於中門被吏之下 今

初日 御 御

開自殿下 辱平 畢 内大臣家経 右大将通雅

© Hiraoka Shoshu

文11五三
113
30
4-4

二校了

師中納言経俊　平宰相時経　源宰相資平
左大弁宰相雅言　別當今孝　継
仁和寺三位宣氏、花山院三位中将頼兼

第二日

二条前大納言資季　花山院大納言時継
摂川宰相高宣　源宰相資平　入道三位顕氏
前平宰相成俊　左大弁宰相雅言

第三日

関白殿下基平　実
中宮大夫雅忠　権大納言基具
土御門大納言定実、花山院中納言長雅

師中納言経俊　平宰相時継　左大弁宰相雅言

文11五年五月三日

東大寺圖書館
© Hiraoka Shoshu

149
2716
1500
433
150
二校了
113
18
22-22
6
113
30
474
ヌ11 土 三

第四日

二条大納言良教　権中納言伊頼　法性寺前宰相顕雅

堀川宰相雅定　左大弁宰相雅言　右衛門督師教

沿部卿三位季範

第五日

左大臣基忠　二条前大納言資季　中宮大夫雅忠

左衛門督通頼　権中納言伊頼　中宮権大夫隆顕

左大弁宰相雅言　右衛門督師教　仁和寺三位重氏

沿部卿三位季範

[redacted]

原本校了

（原本校了）

ヌ11 土 年 五 月 三 日

8P

↓

但し、本書手放スベカラズ、正嘉二年七月六日、筆ニ見之、

東大寺圖書館
© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. 150 2717

434 151

二校了

函号 冊

P

諸宗疑問論義抜(三)

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

自正元二年
至文永二年 ○冊子本

113
18
22-22

原本完了

(端書)6P

「文永五年仙洞御八講 宗性問 聖憲法印」

問講讃経中付説離染得果相且妙楽大師解釈中縁覚聖者起一百七十八心證覚之命者下八地能紹道無間解脱菩四道中何道摂耶 暹云妙楽大師更於九地次第而修更起無間解脱二道無間解脱道摂云也 釋

(端書)○前項ニ含ム

問梵網経文云千百億釋迦各接微塵衆俱来至我所聽我誦佛戒文者千百億釋迦樹下成道後至盧舎那佛所聽受菩薩戒処暹云宗師釋尋文旨未有千釋迦千千百億釋迦各接有縁皆至舎那所受菩薩戒藏然後各坐道場示成正覚樹下成道之前見○下略 ○但シ本書ヲ抜ス処ニハ、実ニ三年十月十八日ノ年三月ニ、

文永五年 五月三日

昭和32年5月26日調

〔宗性上人研究会〕

151-201

© Hiraoka Shoshu

~~435~~ 152

二校了

P.

函号 冊

諸師顧己出華嚴宗論義抄 上 自元得三年夏 至文永二年夏 ○冊子本

仙洞最勝講

○中署

文永二年 ~~三年~~ 俱舎

初日 朝座講師法印權大僧都宗性 問着法印權大僧都聖憲

問金光明経意理管法身歟

問深密経中云三地菩薩生佛淨土云々 今着今此三地着相衆大

師如何釈之耶

○但シ、本書ヲ按スルニ、文永五年是歳ノ条ニ、

8P

113 17 1

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~435~~ 153

二校了

P.

諸師顧己出華嚴孚論義抄 上 自元祿三庚寅 至文政二庚寅 ○冊子本

仙洞最勝講

113
17
1

○申署

文政二年 一定ナキ

初日 朝座講師法印權大僧都孚性 因着法印權大僧都聖憲

向金光明經意理管法身無欠

向遐齡經中云三地菩薩生佛淨土云々 今着今此三地着得衆大

師如何釈之耶

○但シ、本書ヲ按スルニハ、文政五年是歲ノ条ニ、

8P

© Hiraoka Shoshu

436

151

二校了

12P

4P

五月六日 [redacted] 仙洞番論義ニ參ズ

【仙洞最勝講并番論義問答記】 ○冊子本 113 30 ヤヤ

文永五年仙洞番論義問答記 五月六日於冷泉高倉仙洞被行三日最勝講第四也

奉行 左大弁宰相雅言

勤仕廳 威儀師嚴運

公文 從儀師相秀

8P

着座僧細

興福寺別當法務權僧正 頼円 圓

聖憲 法印權大僧都 実伊

法印前權大僧都宗性

文永五年五月六日

頭号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

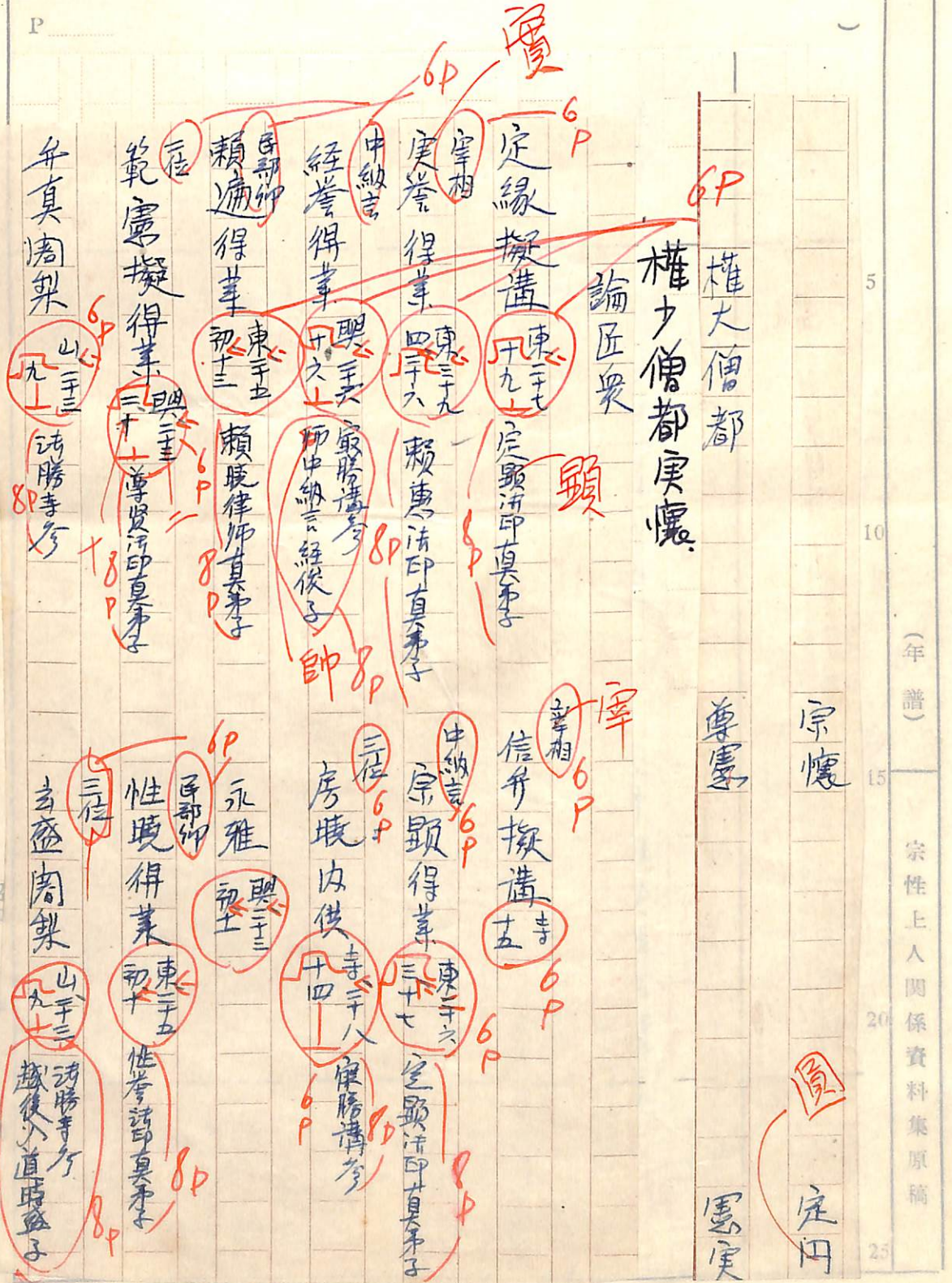
© Hiraoka Shoshu

437

151

二校了

P



文治五年五月六日

昭和 年 月 訓

© Hiraoka Shoshu

二校了。

P

今信得業 興 十九 二九

徳大寺大相国禅門子(実基) 6P 貫

学雅園梨 山 三十三 二九 6P

禅源園梨 山 三十三 初九 6P

大数言 6P

行雲園梨 山 三十三 初九 8P

玄性論師真孝 8P

光弁内供 寺 三十二 七 6P 法勝寺参 前宰相教長子 8P 頼

中納言 6P

信雅 寺 三十七 六 6P 法勝寺参 左大弁宰相雅言孫子 8P

継尊 興 三十 初八 6P

花山院大納言師継 8P 師 子

信顕 興 三十 初七 8P

三条坊門大納言道孚

配文

華厳宗 報恩記第十四 8P

天台宗 8P 8P 止

諸相宗 瑜伽略纂要 8P

三論宗 中論云 8P

文化十五年十月二日

© Hiraoka Shoshu

~~1504~~ ~~2721~~

~~439~~

二校了

~~84~~

文政十一年十月六日

番 法務權僧正 頼円 辞印講經義者 被勤仕番役許

一番 宝綴答 信弁向 寶 返向 圓 證 8P

二番 庚誉答 房暁向 返向

三番 宗顕答 弁真向 返向

四番 経誉答 玄盛向 返向

五番 光弁答 範雲向 返向

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1503~~ ~~2922~~

~~440~~

二校了

65

文化十五年五月六日

六番　信雅答　頼遍問

返問

七番　尊雅答　公信問

返問

八番　永雅答　禅海問

返問

九番　性暁答　信覚問

返問

十番　行儒答　継尊問

返問

文化十五、五、六

○但七本書手抜スルニト正嘉三年七月廿一条ニ見エ、

原本校合了

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1505~~

~~440~~

二校了

157

六番　信雅答　頼遍問

返問

七番　尊雅答　公信問

返問

八番　永雅答　禪海問

返問

九番　性暁答　信覚問

返問

十番　行儒答　継尊問

返問

文永十一、十、六

文永十一年十月六日

の但し本書手枝えいこと正嘉二年七月廿日ノ条ニ見ユ、

原本校合了

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

441 151

12P

五月二十日 [redacted] 禁中 最勝講ニ參ズ

【最勝講問答記】 一重本 8p ○冊子本 113 32 3-3

文永五年最勝講問答記 自五月廿日於五条内裏被行之

奉行 皇后宮大進兼朝 一字アキ

勅在廳威儀師嚴運 一字アキ

公文威儀師 相杳 一字アキ

證義者 8p

興福寺別當法務權僧正頼圓 第二度 8p

法印權大僧都宗性 第三度 8p 前

講師

文永五年五月二十日

昭和 年 月調 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 [宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

~~2724~~

~~1504~~

~~412~~ 150

113
32
3-3

(2)

法印前權大僧都宗性 弟子度 8p

權大僧都尊憲 弟四度 8p

寛寛 弟三度 8p

宗澄 弟五度 8p

憲康寛 弟四度 8p

權少僧都賴兼 初度 8p

房盛 弟二度 8p

寛恵 弟三度 8p

兼誉 弟二度 8p

大法師房昳 初度 8p

聽衆

寛誉 三東 6p

賴昭 四興 6p

経誉 二興 6p

房暁 二寺 6p

玄親 新 6p

弁眞 新 6p

玄盛 新 6p

公信 新興 6p

光弁 新寺 6p

信雅 新寺 6p

初日朝座講師宗性 ~~二字~~ 8p

頭中將是虎仰御願意趣 ~~二字~~ 8p

向者房暁 有老归 8p

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

413

160

函号 冊

P

向、経文。始義大乗意、十遍向不退之義、香象大師引何論文證此義耶、

向、香象大師依起何論意、地前菩薩一日見報身智耶、

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

文応元年十月二十日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

167 2926
4505
414
16

(3)

行香

公卿

興福寺別當法務權僧正賴玄 三礼 大法師虎珍

内大臣基平 左大臣基忠

太政大臣師実

左大弁宰相雅言

新宰相中将具房

(雅俊) 蒼産講師宗澄 向着実誉

第二日

朝座講師尊慧 向着玄親

夕座講師実覚 向着弁真

永久五年五月二十日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

161 2729
1509
415

文化五、廿二

第三日
朝座講師憲実　問者頼昭
夕座講師頼美　問者経誉

第四日
朝座講師房盈　問者公信
暮座講師實惠　問者光弁

第五日
朝座講師兼誉　問者信雅
暮座講師房玘　問者吉盛

咒
権僧正結座為々也　看車難者創也　鐘三下
（正面参照）

行香一反ヲヒキ
更衣興福寺別當時房権僧正　頼円　三礼大法師房玘

文化五年五月二十日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1509~~

~~415~~

4

第三日

朝座講師憲実　問者頼昭

夕座講師頼美　問者経誉

第四日

朝座講師房盈　問者公信

暮座講師覚恵　問者光弁

第五日

朝座講師兼誉　問者信雅

暮座講師房珠　問者寺盈

咒

權僧正結座為々也　有重難者創也　鐘ニ下ケ

（以下同筆ニ）

行香一反アキ

更衣興福寺別當請坊權僧正頼円　三礼大法師房珠

文和五年五月二十日

文和五、廿二

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1510~~

~~416~~ 163

45

内大臣左大将　土御門大納言宣実

大殿大納言　権中納言伊頼

浦中納言経俊　卿　別當　公孝

已上行香公卿六人也　近年無其例歟

南白殿下　基平　BP

堀河大納言　基具

基具

施山院三位中将頼兼　堀川三位中将

朝座雖有出仕簾座以前被退出了

内大臣已下御布施取之　但土御門大納言定実不取御布施

被退出了。

吉續記

原本校合了

○但し本書ヲ校スルニ文永三年四月七日ノ年号見エ。

文永十一年　五月二十日

十三日　晴（曇）　陳目、先朝奉行也、　家勝講功人被仕之、

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

163 2729
1511 117 101
11甲 32 3-3
6 5

廿日、天晴、今内、自今日被始行最勝講、藏人皇后宮權大進奉行也、所々懸翠簾、御殿御裏東儀、御殿五个間、上母屋并庇御簾、每間懸幡花鬘、東障子壁并懸覆御簾、懸滿花鬘二間障子并妻戸等放之、敷證義座 畳四帖 北第一間為御聽聞所、常證義座 台盤所東三个間為上御、御壺禰被出押出、道場已下御裏東儀如常、今御座北上東西行、臂折敷之、如除目座、閑白大臣料、敷畳四畳一帖、出居座東簀子敷之、左方堂童子座北簀子敷之、台盤所西東上南面、右方堂童子座、出居座 畳北面 上樋南簀子敷之、今御座 南庭引通幔、不撤透渡殿、尤可撤欤如何、諸御着殿上、左大臣已下着座、宇時證義并衆僧等參集、頃之、閑白殿令參給、入無名門代、昇自小板敷、令着御椅子

文明十五年 五月二十日

文明十五 五廿

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1512~~

~~418~~

185

~~87~~

前給、頸弁已下予等鏁居小庭、事具三由、光朝以文房、内々奏之、頸弁申事由、参小板敷、蔭関白殿御目、帰出、仰陣食、次頸辨仰鐘、参小板敷召藏人光世仰之、藏人召圖書寮仰之、召仰出納可仰歟、次出居昇、唄散花三間左右方堂童子賦花筥、予勤左方堂童子、今一人沿部權少輔兼俊、予取花筥授下臈、取自分賦證義、入堂間、(裏儀也)

退入、着堂童子座(東上南面)散花了、収花筥退入如常、右方堂童子勘解由次官宣藤、因幡前司顕兼也、出居(今秋朝臣 長忠朝臣)

~~忠光朝臣~~ 次頸中將着出居座、起座経簀子、入自第二間、下導師座下、仰御願趣、帰路如前、帶劔給朝座了、有行香、藏人光世取火舍、行香了、関白殿已下着殿上、此

文小五、廿二

文小五 年五月二十日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1513

419

103

118

文永元年十二

此間有賜給宣、右大臣殿令參行給、

[redacted]

[redacted]

[redacted]

次被相召座

[redacted]

[redacted]

仰之如前、予夕座堂童子勤仕之後退出、初日參仕今御

[redacted]

[redacted]

[redacted]

也、（以下裏）

86

十四日 天晴、 參內 最勝講結願 殿下自閑所令參給、
直衣
於直廬着御束帶令參給、 仍御殿下、 內大臣、 權大
納言、 皇后宮大夫、 大殿大納言、 權中納言、 師中納言、
別當、 花山院三位中將、 堀川三位中將等、 着殿上、 押
身中行事障子、 頭弁申事由、 其儀如前々、 則以頭弁被仰
鐘、（中略）（今日雨奉幣のことあり）朝座 未終頭之間、 関白殿令早
出給、 朝座講演了、 仍御帰着殿上、 有庸永朝臣
申畢、 次被始夕座、 頭弁申事由、 同奉鐘事、 仰之如前、
出居已下如昨、 夕座了、 有行香、 蔵人光世把火舎、 行
香了、 仍御已下取禄、 予取禄、 小舎人於小庭傳之、 内

文永十年十月二十日

文永十、十、廿五

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

9 167 2735
1515
451 163
10

文永弘安、十五

放還、藏人佐設朝取之、自餘令御藏人傳之、

退下（平野）

引3傳

奈五 年五月二十日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1516~~

~~452~~ 103

~~4~~

113
32
3-3

[redacted]

卿（第一日ノ出仕分卿ノ二ケ所ニ記ス）

[redacted]

二条大納言良教　権中納言伊頼　平宰相時継

仁和寺三位重氏

第三日　出仕分卿

内白殿下　内大臣　花山院大納言師継

右大将通雅　中宮大夫雅忠　中宮権大夫隆顕

平宰相時継　源宰相資平

第四日　出仕分卿

二条大納言良教　左衛門督通頼　大条二位顕氏

前平宰相成俊　新宰相中将具氏　右衛門督時教

文治五年五月二十日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

2734
1517
453 170

113
150
1

治部卿三位季範

「文華秀麗集」（表題）

金光明最勝王経（経釋異）

東大寺圖書館藏

6冊之本 原本校合了

113
150
1

寶亀二九二十一不用、同年五二十三用畢、

文永五年 已已 已 禁裏仮勝講第二座講師宗澄法印祈願間中出此目録、宗性親倍其座聽聞此事感歎之餘尋其本説之處、同六年 已已 長講堂御八講參會之次、不忘去年芳契自懐中取出先師宗源法印自筆草本借之、仍即時（奥見）

原本校合了

○但シ、本書手枝スルニ、文永四年三月廿二十五日ノ条ニ見エ、

文政十年十月二十日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~454~~ 171

二校了

「諸仏願心出華厳宇論義抄」(上) 自示保三年夏至永久五年夏

家勝講

○中暑

永久五年

初日 朝座講師法印権大僧都宗性 向着房暁

向経文。相叙大乗意十週向不退之義。香象大師判何論之證

此義耶

向香象大師依起何論意地前菩薩可見報身如来耶

○但し、本書写校スルコト、永久五年是歳ノ条ニ見エ、

永久五年五月二十日

© Hiraoka Shoshu

函号 册

是歲夏當陽御出家并御逆修元年記ス

（ ）

P

（當陽御出家并御逆修記文永五年） 8p

○巻子本

103
65

當陽御出家并御逆修記文永五年 法印釋宗性

五日 天晴時々時雨灑上皇今日有御出家儀

戒師 天台座主法親王 唄師 前權僧正房全

權僧正経海已上香染 8p 前手 法印公誉 證

權大僧都田禅已上法眼 手袈裟 雜役僧 權大僧都憲實

少僧都公尋 公什已上鈍色 小袈裟 8p 8p

© Hiraoka Shoshu

(17)

P

函号 冊

御法名 盡覺 兼思食定 事了 即布施

戒師

綾被物一重 前陸白 奏忠賢卿

布施二裹 白布各七端 絹裹 花山院中納言

左衛門督 取之

布袴 御裝束一具 納手裹 兵部卿 取之

直衣 御裝束一具 同 二条大納言 良教

鈍色裝束一具 二条前大納言

長絹十疋 輔中納言 富小路中納言

綿二裹 各百両 通世 時継

次唄師二人

口訓

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P（ ）

函号 册

（年譜）

綾被物一重 右大臣 土御門大納言 8P 手長棟望

布施一果 右源宰相 藤宰相 畳具氏 8P

銚子 碁束一具 納平裏 花山院中納言 富小路中納言

長絹五足 絹裏 8P 大条二位 別當

綿五十兩 同 左大弁 右衛門督

次第手長人

色目同前

被物春宮大夫 右大将 8P 布施 忠方朝臣 資宣、

銚子 碁束 藤宰相中将 源宰相 8P 長絹 手長 平宰相 左大弁

綿 高二位 新宰相中将

事了、僧退出

年 月 日

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

函号 册
（年譜）
宗性上人資料集原稿

P

次於大多勝院被相御逆修、公卿開白已下可候、
西公卿座 8P 次弁公卿着定、前座 次僧昇
僧正仙朝日度 大師 權僧正經海已上參源 沈印聖憲法眼 8P
実伊 銭色 甲紫袈裟 8P 權大僧都祐宇 信昌 憲実、小着座
大僧正 隆證 勸護大師子引懺法 仙朝 經海 雖僧正別之、
次導師說法 聖憲 事了、賜布施
導師
先綾被物一重 開白 手長 資宣朝臣
裏物 花山院中納言
次又 被物四重 9P 兵部卿 卿
土御門大納言 二条前大納言 8P
春宮大夫
銭色装束 前宰相中将
色々布二疋子 具房朝臣 以良朝臣

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

173

P

雑僧
仙朝僧正
被物 前左衛門督 手長 五位殿司 男物 手掌相
経海僧正
被物 右大将 男物 唐ノ朝臣
實伊法印
被物 中宮大夫 男物 資宣朝臣
祐宇僧都
被物 權大納言 男物 俊國朝臣
信玄僧都
被物 花山院大納言 男物 郡仲朝臣

函号 冊 (年譜) 宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

177

P

© Hiraoka Shoshu

5

10

15

20

25

壇実僧都

被物 春宮大夫 墨物 経幸朝臣

已上 関白御布施 御室御□□□□□□之

次被始御誦法 請僧不改法服袈裟等

今夜被始讃広三壇

隆澄僧正 尊勝

仙朝僧正 法花

経海僧正 阿弥陀

已上二壇 雑事 中務卿宮

一壇 三条前大納言

今日参仕公卿

前関白 関白 前左大臣 右大臣 兵部卿

6ウ

二条

177

P

函号 冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

□寅僧都

被物 春宮大夫 □物 経幸朝臣

已上 □白御布施 御室 経□□□□□□之

次被始御誦法 請僧不改法服盤盌等

今夜被始讃 広三壇

隆澄僧正 □勝

仙朝僧正 法花

経海僧正 阿弥陀

已上二壇 雑事 中務卿宮

一壇 三条前大納言

今日参仕公卿

前関白 関白 前左大臣 右大臣 兵部卿

関 年 月 日 昭和 年 月 日

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

二条大納言　二条前大納言　土御門大納言　春宮大夫
右大将　中宮大夫　權大納言　前藤大納言
春宮權大夫　花山院中納言　左衛門督　中宮權大夫
輔中納言　富小路中納言　葉室　藤宰相中将（直世）
平宰相　前藤宰相　六条二位　源宰相　左大弁
別當　新宰相中将（基氏）　8P　右衛門督　高三位（親経）　8P
今日出家人々
二条前大納言（法名了心）　8P
前源大納言（法名如覚）　8P　立辻前宰相（了覚）　8P
右京權大夫重名朝臣　兵庫頭権成覚種　8P
六日　廿二日　御導師聖憲
源大納言入道　進被物三十重（別三重被物）　8P
左大将進法眼慧乗　成行・進（宿）　衣

年　教月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

105

170

P 9p

函号 冊

七日 未三日 今日 御導師実伊法印 今日引物 8p

中宮大夫雅忠 8p 被被物五十 進 一日別五 進 重 残預差仕等

女房大納言局 重 8p

皆水珠念珠 鬚結紅葉枝

色々裹物八 納綿

右中将資宣朝臣 釵八腰 入綿袋

八日 未四日 8p 御導師実伊

聖護院宮 納棄来孫(マヽ)(ママ)一足

入道相國 釵八 鬚菩提子念珠

馬八足 置鞍 以具相鞍繪其向村濃蒔也

金銅伏輪 唐皮切付 水鶏口(ママ)濱

打次差縄

(年譜) 宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

180

P

（　　）

函号冊

春宮大夫　牛八頭　　紅色裝束八具

九日　御導師還実僧都　進　進物

有宝宿弥　被物八重　8p　裏物八　各紙色々布七端

刑部卿弓　宿衣八　練色二　蔵黄二　白二　8p

蔵人所　雑色二人

皇室中納言入道　香呂筥八合

為衡入道　牛八頭　馬三足預等

十日　御導師聖憲　天晴時々雨又日強　進　進物

保寿院宮　横皮八　8p　法服裝束八具

前右府　分　8p　牛八頭

前藤宰相　8p　雅　牛八頭　馬三足預等

年　月　日

昭和　年　月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P （ ）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

十一日 三七日 御導師聖憲 今日進宮物次第

加布施

物衣一襲 上白薬芽白十 唐織物黄青裏

褒合

引物

進 后

口別 被物二重 裏物二入綿 水珠念珠

綿横皮

近衛前関白 牛八頭

十二日 御導師実伊 自夜雨ふる晴

安嘉門院 銀代被物二重 絹裏八入綿

五辻宰相入道 被物卅進

頭弁 束方

禦八迚一迚別力者装束之具 両足口袋 各一具

相納之

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

（年譜）

P

預新昏三足　置黒鞍　舎人新水干袴等相具之

十三日　御導師聖霊

関白　浅眼　馬八足　不置鞍

權大納言　綾被物八重　口綾被物八重　黒被物八　各納袴等　布五段

綿襖皮　懸綿一具　銀釵八腰

十四日　四七日　雨下　御導師聖霊

梶井宮御沙汰

左大弁　被物廿進

輔僧綾東八具　口別　袈裟　長絹衣　綾袴　二小袖　帯　扇　已上納手黒

宿衣八領　立文　各納綿百両　黒手黒

馬八足　不置鞍　着口綾衣　有菊肉

© Hiraoka Shoshu

函 号 冊

P 9p

預裝束三具　美仕裝束三具

十五日天晴 8p 御導師聖霊

御宝　水珠念珠八連　懸仏華枝　錦横皮八

四条前中納言　被物并進　裏物并　各納綿卒両

十六日　阿弥陀　導師聖霊寅　引物

大殿　水珠念珠八　各懸銀錫杖

高金(ママ)司　灌仏布施　次色々綿并物等裏 8p 仕風流

各裝束一帖

船(ママ)裏一 8p 以萠様裏之納染物十切云々

前宰相　被物并進　綿八懸子　各卒十両 8p

十七日　導師聖霊

東二条殿　被物并六進　裏物八　各裏綿四十両 8p

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P

9p

樓大納言 色々五衣八具 8p

内府禅門 法眼八具

永康 八葉車八両 各懸牛頸具、牛飼装束并楯持装束 召僧牛飼者也 今遣之、雨皮又今有也、

敦朝 被物八重 裹物八、納綿 色布八懸ヶ 8p

十八日 庚寅 伊法印

大納言 二品 納物 副三重 8p 今年人重 僧正三人 精進 8p

綿横皮八 裹物八 綱異綿 8p 余木 8p

裹之 8p

一位宰相中将御方 頓八合 蒔繪 8p

別當 被物八重 8p

裹物八 各納異綿 8p

不置鞍餅之 8p

© Hiraoka Shoshu

P

十九日　聖儒詩印

前左府　被物五十重　銀念珠八連　鹿毛錫杖

茂通朝臣　薄墨染絹衣八具　在袋裏相

納言　黒木綿

紙墨法印　檀紙千帖　居文臺二脚　各五十帖

廿日　黒實

座主宮　銀如意八　各鹿水晶念珠

綿横皮八

内府　法眼八具　黒打黒不在黒

源宰相　被物十六重　進口別二進　黒衣物八　納黒綿

廿一日　聖儒詩印

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

女房南御方 硯箱 蒔絵 (絵年譜)

屏風諸帖 績紀

檢校官 被物卅進 裏物八入 異綿

中宮權大夫 隆政

高三位 讃経 被物八重進 裏物八

廿二日 導師 憚實

土御門大納言 綿横皮八 銀釵八 長伏輪坂 廿三又

銭色装束八具

平宰相 被物十六重進 布黒衣八具 袈裟 白袖 二小口 相具之

廿三日 先師仏供養 導師聖憚

新院御所法 今日唯法事 被行 曼荼羅供

年 月 日 昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P

大阿闍梨　座主宮

讃衆若干

御布施

大阿闍梨

綾被物十重　倒布施一裏

浅服一具　綿横皮一帖

銚色袈裟一具　綾一懸子大足　8匁

絹一懸子五足　8匁　糸一懸子百両　8匁

綿一懸子百両　色々布二裏各浅木布十両　8匁

童慈衆四具

已上関白已下取之

讃衆各一進一裏

年　月　日　昭和　年　月調
（年譜）
宗性上人資料集原稿
© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

大阿闍梨 座主宮
讃衆若干

御布施
大阿闍梨
綾被物十重 倒布施一裹
浅服一具 綿横皮一帖
銭色甚束一具 綾一疋 六足 8p
絹一疋 五足 8p 糸一疋 百両 8p
綿一疋 百両 色々布二裹 各浅木布十段 8p
童甚束四具
已上 下 関白已下取之 下
讃衆各一進一裹

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

193

P

9P

十中納言已下取之、

廿四日　御導師　禦齋

月花門院　水精念珠　八連　誂賜八具

殘齋三位局　念珠菩八（は結花枝）8P

定顯法印　日別（續）8P　被物二進　果物二合納綿四十兩

行實（北西）8P　輿八迫　色目　肉頭弁（但疏号無之、）8P

前源中納言　8P馬八足　傳

今日入夜（成終）行　関東御使常陸次郎左衛門尉（行清）8P

參入御逆修御訪動金五百兩　御綿五百足進之、

仍輔卿參殿御前申入之、明日各可被知行僧（之）8P

廿五日　聖霊法印

大宮院

函号　冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P

冊

口別 綾被物五重 横皮一帖
絹一疋 綿一屯子四十兩
墨物二 各納白布五段

関東所進
口別 砂金五十兩 以薄様裹之 折紙
口別 帖絹五十疋 屯子二 各廿五疋積之
砂金・仰御取之 絹殿上人取之.

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

115

P

函号冊

口別 8p
綾被物五進 横皮一帖
絹一疋 綿一疋子四十兩
墨物二 各納白布五段 8p
8p
関東所進
8p 口別 砂金五十兩 次薄様墨之 8p 居折 昔
8p 口別 帖絹五十疋 疋子二 各廿五疋積之
砂金 令御取之 絹殿上人取之、

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

~~155~~ 100

二校了

P

12P

是歟 諸御願已出華嚴字論義抜ヲ抜[redacted]ス、

諸御願已出華嚴字論義抜 上冊子本 113 117 1

(表題) 6P

諸御願已出華嚴字論義抜 上

自永保二年夏
至文永五年夏

權大僧都宗性

文永五年是歟

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~455~~ 130

二校了

P

文引五年是歲

函号冊

12P

是歲 諸御厨子ニ華嚴字論義抜ヲ抜書ス、

諸御厨子ニ華嚴字論義抜 上冊子本 [113 117 1]

(表題) ↑6P

諸御厨子ニ華嚴字論義抜 上

自永保二年夏
至文永五年夏

↳ 横大僧都宗性ノ

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 456

二校了

花嚴宗公家已出論義

嚴勝講

（端書）の次第

「永得二年嚴勝講頓嚴尚延快已講」

「永得三年嚴勝講行俊尚延快已講」

「實治二年嚴勝講行俊尚延快已講」

「實治三年嚴勝講經尋尚延快已講」

「康和五年嚴勝講禪仁尚勝暹已講」

「元永五年嚴勝講慶範尚弁曉已講」

「安元三年嚴勝講尋忠尚弁曉律師」

「治承三年嚴勝講公胤尚弁曉律師」

元暦二年已五月廿三日於大内被始行修嚴勝講會今上踐祚之後去年被行大嘗會了仍今年始行之奉書繪使着

© Hiraoka Shoshu

457

192

二十枚了2

釋迦如来多寶古祥二支 天 一鋪 畫三尊 奉書寫紺紙金字寂
勝王経一部十巻 此内三尊并御経第一匁初座供養之
開眼 表白 神分 祈願 勧請 其佛 題名 里之支 佛名 敬化 勧請 尺佛
是 [redacted] 作 [redacted] 釈経 題名
自余九匁座々次第供養 下座神分後半題三支 佛名無敬化自余各々同上 6号

第三日 初座并暁律師 向着 観俊
○中畧

同二年 無花嚴講師
文治三年
第二日 夕座并暁僧都 向着寅歳
○中畧 ○中略 8P

如細所手書着此座向着仁侠也而朝座次後以寅歳可

手 歳

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

458

193

二校了 P 3

多同者之由被仰下了仍勤當座同候了、

同四年 無花嚴講師 8p 仅

同五年

初日 暮座ヲ晩大僧都 内着御書 毒 井

建久元年 今年無四華嚴講師 8p

同二年同 同三年同

同四年

初日 朝座權大僧都幷曉 8p 内着頌高

同五年 無花嚴講師 8p 同六年同 同七年 同八年

同九年 8p 不被修 正治元年 同二年 建仁元年

同廿二年 同三年 皆無花嚴講師

元久元(年) 同二年 建永元、 同二、 兼元二、 同三、

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

~~453~~

二校了 P4

同四、建厂元、不被行之　同二、不被修之　同三、建保元年

建保元、同二、同三年

建保四年

第二日夕座構乃備都道性　向着往舜

證誠云（中畧）公家不可用如此有憚論義花嚴宗又無論議欤

於此論義者不可加重難云々

第四日夕座已講道證　向着兼性

（中畧）

同五年

第五日　夕座講師已講道證　向着雲快

同六年　無花嚴講師

兼久元年　無花嚴講師

函号冊　（年譜）　宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

460

二校了

同二年無花嚴講師　同三年不被行之
貞應之年同　同二年同　之仁之年同
嘉祿之年　同二年但無花嚴講師
安貞之年依之
嘉祿三年十九日被始行南院
第二日夕座講師道證僧都　向者公玄
同二年無花嚴講師（中歟）　實喜之年同無　實喜三年七月十六日
第二日朝座權少僧都道證　向者信全
同三年　無花嚴講師
貞永之年

第二日暮座道證　向者長俊
天福之年不修之
文曆之年同　嘉祿之年同

© Hiraoka Shoshu

461

二校了

P 6

嘉禎二年
廿三日 初日 朝座講師庸良禎 囚者尊賢 8P
同三年 無花嚴講師 曆仁之年 8P 同四年 無花嚴講師
近應之年 無花嚴講師
仁治之年 8P
同二年
第五日 暮座講師宇性 初 8P 囚者源兼
仁治三年
第四日 夕座講師權律師宇性 囚者賴源
同三年 依凍暗不被修 8P
實之々年
第五日 朝座講師權律師宇性 囚者宗舜
同二年

© Hiraoka Shoshu

二校了

461

P 6

嘉禎二年
廿三日 朝座講師南良禎 問者尊賢

同三年 無花嚴講師 暦仁之年 8P 同四年 無花嚴講師

延應之年 無花嚴講師

仁治之年 8P

同二年

第五日 暮座講師宗性 初 8P 問者源兼

仁治二年

第四日 夕座講師權律師宗性 問者賴源

同三年 依凍暗不被修 8P

寛元々年

第五日 朝座講師權律師宗性 問者宗舜

同二年

© Hiraoka Shoshu

~~462~~

197

二校了

P 17

第三日　朝座講師權少僧都宗性　問者源兼

同三年

第二日　朝座講師權少僧都宗性　問者覺增

寶治二年

第二日　夕座講師權大僧都宗性　問者靜成

建長元年

初日　夕座講師權大僧都宗性　問者仕親

建長二年

初日　夕座講師法印權大僧都宗性　問者公海

弘長元年

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　問者實深

函 号 冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~462~~

107

二校了

P 17

第三日　朝座講師權少僧都宗性　問者源兼

同三年

第二日　朝座講師權少僧都宗性　問者覺增

寶治二年

第二日　夕座講師權大僧都宗性　問者靜成

建長元年

初日　夕座講師權大僧都宗性　問者仕親

建長六年

初日　夕座講師法印權大僧都宗性　問者公海

弘長元年

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　問者實深

© Hiraoka Shoshu

~~463~~

二校了

P 8

文永五年
初日　朝座講師法印権大僧都宗性　向者房暁
仙洞御勝講
弘安四年
第四日　朝座講師法眼道性　向者権律師範信
建暦三年
第四日　朝座講師法眼道性　向者大法師親縁
建保三年
第四日　朝座講師法眼道性　向者権少僧都範信
承久二年
第三日　朝座講師権大僧都道性　向者権大僧都範信
貞治二年

頌号冊　(年譜)　宗性上人関係資料集原稿
昭和　年　月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

~~463~~

二校了

P 8

函号 冊

文永五年　朝座講師法印権大僧都宗性　向者房暁
初日

仙洞家勝講

弘元四年　朝座講師法眼道性　向者権律師範信
第四日

建暦三年　朝座講師法眼道性　向者大法師親縁
第四日

建保三年　朝座講師法眼道性　向者権少僧都範信
第四日

承久二年　朝座講師権大僧都道性　向者権大僧都範信
第三日

貞治二年

（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

~~464~~

二校了

P 9

函号 冊

建長元年　第三日　朝座講師權大僧都宗性　向着權大僧都長俊

建長二年　第三日　暮座講師權大僧都宗性　向着權大僧都長俊

建長三年　第二日　朝座講師法印權大僧都宗性　向着法印權大僧都長俊

建長四年　初日　暮座法印權大僧都宗性　向着法印前權大僧都智円

建長五年　初日　暮座講師法印權大僧都宗性　向着法印前權大僧都智円

暮座講師(欠脱)法印權大僧都宗性　向着法印權大僧都経俊

(年譜)
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

二校了

~~455~~

200

P 11

建長六年
第二日　朝座講師法印權大僧都宇性　向着法印權大僧都信義

建長七年
初日　朝座講師法印權大僧都宇性　向着法印權大僧都経海

建長八年
初日　朝座講師法印權大僧都宇性　向着法印權大僧都重俊

文永五年
初日　朝座講師法印權大僧都宇性　向着法印權大僧都聖憲

仙洞番論義
建永二年　「範尊向道性」
承元二年　「仲舜向道澄」
承元三年　「房舜向道澄」　「公命向道暁」

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

~~466~~

二校了

P 11

201

兼元四年 「頼華向道暁」 「貞遍向道縁」

建長元年 「尊俊向良観」

建長七年 「顕猿舜向良性」

建長八年 「範忠向宗暁」

法勝寺御八講

兼宝五年

第百 朝座講師大法師幷暁 向着慶範

安元二年

第百 朝座講師大法師幷暁 向着慶範

治承三年

第百 暮座講師権律師幷暁 向着幷忠

治承五年

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 [宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

~~407~~

二校了

P12

202

初日　暮座講師權律師弁曉　由者融観

寿永元年

第二日　朝座講師權律師弁曉　由者玄澄

元暦元年

第三日　暮座講師權律師弁曉　由者信憲

元暦二年

第二日　暮座講師權律師弁曉　由者実慶

文治二年

第五日　暮座講師權少僧都弁曉　由者聖弘

文治三年

第二日　暮座講師權少僧都弁曉　由者瑜憲

文治四年

國号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿 昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

~~468~~

二校了 P13

203

初日　暮座講師樺大僧都弁曉　囲者性舜

建久二年

第五日　暮座講師樺大僧都弁曉　囲者成豪

建久八年

第七日　暮座講師樺大僧都弁曉　囲者尊栄

建暦二年

第二日　朝座講師法眼道性　囲者公尊

建保三年

第四日　暮座講師大法師道澄　囲者公全

建保四年

第四日　暮座講師大法師道澄　囲者經圓

建保五年

© Hiraoka Shoshu

二校了

P14

第四日 幕座講師大法師道澄 由者成兼

建保六年

第四日 幕座講師大法師道澄 由者成兼

貞應三年

第三日 朝座講師權律師道澄 由者仁玄

嘉祿二年

第五日 幕座講師權少僧都道澄 由者円弁

天福元年

第四日 朝座講師法眼良禎 由者範成

延應二年

第五日 朝座講師大法師宗性 由者源兼

仁治二年

函 号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

P 15

函号冊

第三日　暮座講師權律師宇性　由者長親

仁治三年

第四日　暮座講師權律師宇性　由者静成

寛元々年

第二日　朝座講師權少僧都宇性

寛元二年

第二日　暮座講師權少僧都宇性　由者房渕

寛元三年

第二日　暮座講師權少僧都宇性　由者敏午

寛元四年

初日　暮座講師權大僧都宇性　由者實尊

寶治之年

（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和　年　月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

二校了

P16

203

初日　暮座講師權大僧都宗性　内者長親

寶治二年

初日　朝座講師權大僧都宗性　内者宗弁

建長六年

初日　暮座講師法印權大僧都宗性　内者源覚

建長七年

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　内者隆源

正元元年

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　内者實深

文應元年

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　内者源幸

弘長元年

函号冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和　年　月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

二校了

207

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　国者経尭
文永四年

初日　朝座講師法印權大僧都宗性　国者経怡
兼安五年　維摩會
講師　幷樓大德

初日　暮座国者法眼公慶
第二日　朝座国者權律師覺憲
第三日　暮座国者法橋心曉
第四日　朝座国者法橋藏俊
第五日　暮座国者大法師晴秀
第五日　暮座国者大法師賢信
第六日　朝座国者大法師勝詮

函号冊　（年譜）　宗性上人関係資料集原稿
© Hiraoka Shoshu

二校了

203

函号 冊

第六日　暮座同者大法師脊秀

建保二年

講師道性法眼

初日　朝座同者権大僧都当信

初日　暮座同者権少僧都定玄

第二日　朝座同者権少僧都範信

第三日　暮座同者法眼春字

第三日　朝座同者権律師賢印

第三日　暮座同者法眼親縁

第四日　朝座同者大法師増弁

同　朝座副同者大法師玄遍

第五日　朝座同者大法師公縁

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和　年　月調

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

二校了

203

第六日　朝座　国者大法師璋円
第七日　暮座　国者大法師円擇

貞永元年

講師良禎法眼

初日　朝座　国者権大僧都憲円
同　夕座　国者権律師玄通
第二日　朝座　国者権律師円恵
同　夕座　国者大法師良通
第四日　朝座　国者大法師玄良
同朝座　副国者大法師公尊
同夕座　国者大法師縁鎮
同夕座　副国者大法師尋性

幽号冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和　年　月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

二校了

210

P

第五日　朝座　副向着　大法師成信
同　夕座　向着　大法師宣憲

第六日　朝座　向着　大法師定宗
同　夕座　向着　大法師重尊
同　夕座　副向着　大法師尊海

近應之年
講師　宇性大徳
初日　夕座　向着　權大僧都良盛
第二日　朝座　向着　權少僧都尋性
同　朝座　副向着　大法師真誌
同　夕座　向着　權律師公尊

第三日　朝座　向着　權律師宇誉

昭和　年　月調

〔宗性上人研究会〕

函号冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. ~~476~~

二校了

回 夕座 向着大法師 實印
第四日 朝座 向着大法師 章俊

回 夕座 向着大法師 縁鎮
第五 朝座 副向者大法師 良教
第六 夕座 副向者大法師 重尊

○但シ向各ノ要文ハ略ス、又字性ノ関係ノモノハ各年次ノ条ニ収ム

© Hiraoka Shoshu

No. ~~476~~

二校了

回 夕座内着大法師實円
第四 朝座内着大法師尊俊

回 夕座内着大法師縁鎮
第五 朝座副内着大法師良敏
第六 夕座副内着大法師重尊

○但シ内各ノ要文ハ略ス、又字性ノ実像ノモノハ各年次ノ条ニ収ム

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 210 2736

477

二校了

諸講雑載 12P

[redacted]

○弘誓院御八講 (10P)

諸宗疑問論義抜 (12P) 自延喜 (8P) 至文永 (6P) 年

○冊子本

113
18
22-24

文永五年弘誓院御八講定性向専英大徳都 (18P)

向證明法華願唯限多寶一佛故 若不限多寶一佛也 (9P) ○下略 (8P)

(端書) ○前項ニ含ム

向付自明門九句中可摂後三相違耶 若可摂之也 ○下略 (8P)

但シ、本書ヲ校スルコト、実ニ二年十月三十日ノ条ニ見エ、 (8P)

文ニ五年是用歟 由

原本之合ヲ

昭和 32 年 5 月 26 調

函号冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

二校了

諸講雑載 12P

諸宗疑問論義抜 三十二 自正三年 至文永六年 ○冊子本 113 18 22-24 8P

○弘誓院御八講 10P

文永五年弘誓院御八講序 性尚專英大僧都 8P

端書 ○前項ニ含ム

向證明法華顯唯限多寶一佛故 若不限多寶一佛也 ○下略 8P

向付自明門九句中可攝後三相違耶 若可攝之也 ○下略 8P

但シ、本書ヲ抜スルコト、実ニ三年十月三十日ノ条ニ見エ、

文永五年是用歟 由

厚本ニ含ム

昭和 32 年 5 月 26 日調

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

478

213

二校了

9P

○仙者寺御八講 10P

【諸宗雑問論義抜書】 8P

○冊子本

113
18
22-22

(端書)不 6P

文永五年仙者寺御八講宗性問聖憲法印

8P

問経文云多有僧俗貴賤依吏民之介者所云貴者約別教四教次位如何釈之耶 若宗師秘別教四教十地如是也 ○下略

(端書)○前項ニ含ム 8P 6P 6P

問補処菩薩住兜率天尚必経四千歳歟 若必可経四千歳也

○下略

8P

○但シ本書ヲ抜スルニト、康元二年十月三十日ノ条ニ見エ

文明十一年是用歟 田

昭和32年5月26日調

厚本交合了

© Hiraoka Shoshu

2737

No. 478

二校了

213

函号冊

9P

○仙香寺御八講 10P

【諸宗綮肯論義抜】(三十二) 5P

○冊子本

113
18
22-22

8P

(端書) 6P

文永五年仙香寺御八講宗性問聖憲法印

問経文云多有僧俗貴賤男女等不者可云聖者約別教四教位如何釈之耶 若宗師釈別教四教・十地如是也 ○下略

(端書) ○前項ニ合ス 8P 6P

問補處菩薩住兜率天時必経四千歳歟 若必可経四千歳也

○下略

8P

○但シ、本書ヲ按スルニ、建長三年十月二十八日ノ条ニ見エ

文引上 年号是用歳曲

昭和 32 年 5 26 月調

厚本交合了

宗性上人関係資料集原稿

(年譜)

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 211 2606

211

函号 冊

12P

正月三十三日 倶舎論十六七巻三十講聴聞抄ヲ校ス

文永六年己巳（一二六九）

10P

10P

「倶舎論十六七巻三十講聴聞抄」（表題）

6P

「倶舎論十六七巻三十講聴聞抄 沙門秋度実」

「文十八歳」

○冊子本

113
131
1

倶舎論第十六七巻三十講聴聞抄

沙門秋度實

文永六年正月三十三日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No. 211 2606

211

P

文永六年正月三十三日

昭和 年 月調

函号 冊

12P

文永六年己巳（一二六九） 10P

正月三十三日 倶舎論十六七巻三十講聴聞抄ヲ校入 10P

〔倶舎論十六七巻三十講聴聞抄〕 〔文十八歳〕

（表題） 6P

〇冊子本

113
131
1

倶舎論十六七巻三十講聴聞抄 沙門秋慶実

倶舎論第十六七巻三十講聴聞抄

沙門秋慶實

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

215

P 1

自文永六年正月二十三日 被招行去年關分俱舍三十講
問答記

被談俱舍論第十六七卷

無量義經講師 實誉大法師 聞問者 實玄

互為 幸源

序品 講師 幸源 問者 實專

互為 實誉大法師

方便品 講師 盛舜 問者定樹

互為 慶寶

譬喻品 講師 慶寶 問者定憲

互為 盛舜

信解品 講師 慶尊 問者 實尊

頭号・冊
(年譜)
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

215

P 1

通号・冊

自文永六年正月二十三日 被始行去年關分倶舎三十講
問答記

被談倶舎論第十六七巻

無量義経講師 實誉大法師 聞問者 實玄

一 互為 幸源

席品 講師 幸源 問者 實專

一 互為 實誉大法師

方便品 講師 盛舜 問者 庄樹

一 互為 慶寶

譬喩品 講師 慶寶 問者 庄憲

一 互為 盛舜

信解品 講師 慶尊 問者 實尊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

P2

— 五多良叡

薬草品 講師良叡 聞者良顕

— 五為慶尊

授記品 講師良重 聞者樹恩

— 五為顕實

化城品 講師顕實 聞者顕円

— 五為良重

弟子品 講師實樹 聞者永盛

— 五多祐舜

人記品 講師祐舜 聞者定慶

— 五為實樹

法師品 講師賢恵 聞者實済

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

函号 册

2-7

P3

互為 快憲	見塔品 講師 快憲	問者 仁俊
互為 賢恵	提婆品 講師 頼兼	問者 英賢
互為 信等	勧持品 講師 信等	問者 俊遍
互為 頼兼	安楽品 講師 貞等	問者 春信
互為 近覚	涌出品 講師 近覚	問者 定俊
互為 貞等	寿量品 講師 定芸	問者 實玄

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

218

P 4

（　　）

函号 冊

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和　年　月調

	互為縁宗			
分別品	講師縁宗	問者尊源		
	互為定藝			
隨喜品	講師親尊	問者円朝		
	互為盛玄			
功徳品	講師盛玄	問者光澄		
	互為親尊			
不輕品	講師定成	問者顕尊		
	互為永賢			
神力品	講師永賢	問者円道恵		
	互為定成			
傳累品	講師快尊	問者玄継		

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

219

P 5

一亙爲字藝　葉玉品講師字藝　問者宣舜

一亙爲快等　妙音品講師發等　問者乾暁

一亙爲字継　普問品講師宗継　問者隆實

一亙爲數算

© Hiraoka Shoshu

二校了

220

P

文永元年甲子（二十八歳）

二月三日後鳥羽天皇御忌御八講ニ参ズ

諸宇疑問論義被ル（三十二）

○冊子本 建正之二年 文永元年

113
18
22-22

端書

文永六年後鳥羽院御八講宇性尚房順法印

端書の前項ニ云ク、

向経之付説懺悔滅罪相旦宇師釋俗諦懺悔引今経何文耶

向云師解釈中引華厳経於菩提場中見普賢菩薩文介者不可難有人義引此文歟若為難有人義引此文也

○下略

○下略

○但シ、本書ヲ按スルニ、文永二年十月三十日ノ条ニ見エ、

文永元年二月二十二日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

二校了

221

P

124

諸宗疑問論義本抜十 自建長七年 至同八年

（端書）

8P

文永六年後烏丸院御入講之時思出一十四年之往事用之畢 講師房順誌印

建長八年長講堂御入講之時永源大僧都奉之来用之 同宇師尺ス俗諦俄悔ヲ引今経文ヲ何文耶 進云尺ス此事ヲ荘厳俄悔ト引リ 云々

8P

○但シ本書ヲ初スルニアラズ、仁治三年八月晦ノ条ヲ見ヨ。

○冊子本 113 19 9-9

一校了

國号冊

（年譜）

宗性上人関係資料集第

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

222

P

昭和六年三月一日

函号冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

12

三月一日 勘定陀ニ于亀山殿御逆修願文集ヲ校ス

亀山殿御逆修願文集 ○冊子本 113 104 1

(表題)

「亀山殿御逆修願文集 法印釋宗性」

(奥書)

亀山殿御逆修願文集

法印釋宗性

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

龜山歿御逆修願文集

法印釋宗性

東大寺圖書館

113
10冊
1

© Hiraoka Shoshu

221

一

亀山殿御逆修願文

敬白

勤行逆修善根事

初日

奉造立三尺皆金色釋迦如来像一躰

奉書写色紙妙法蓮華経一部八巻

奉摸写素紙妙法蓮華経六部四十八巻

無量義経一巻

観普賢経一巻

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

無量義経一巻

東京古書組合

© Hiraoka Shoshu

奉書写色紙妙法蓮華経一部八巻

無量義経一巻

観普賢経一巻

阿弥陀経一巻

© Hiraoka Shoshu

観普賢経六巻

阿弥陀経六巻

般若心経六巻

二、七日

奉造立一尺五寸皆金色阿弥陀如来像一躰

奉書写色紙妙法蓮華経一部八巻

無量義経一巻

観普賢経一巻

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

三、七日

奉造立一尺五寸綵色普賢菩薩像一躰

© Hiraoka Shoshu

225

奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷

无量義經一卷

觀普賢經一卷

阿弥陀經一卷

般若心經一卷

四七日

奉造三一尺五寸皆金色弥勒如来像一躰

奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷

无量義經一卷

觀普賢經一卷

阿弥陀經一卷

般若心經一卷

東京古書會館書

© Hiraoka Shoshu

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

結願日

奉造立三尺皆金色薬師如来像一躰

© Hiraoka Shoshu

五七日

奉造立一尺五寸皆金色阿弥陀如来像一躰

奉書写色紙妙法蓮華経一部八巻

各量義経一巻

観普賢経一巻

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

六七日

奉造立一尺五寸絵色地菩薩像一躰

奉書写妙法蓮華経一部八巻

各量義経一巻

観普賢経一巻

東大史料編纂所図書館

© Hiraoka Shoshu

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

結願日

奉造立三尺皆金色薬師如来像一躰

奉書写妙法蓮華経一部八巻

弘量義経一巻

観普賢経一巻

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

此外奉図絵釈迦如来阿弥陀如来等像各七鋪毎日一躰

相替開眼奉摸写素絖妙法蓮華経十四部合二十巻弘量義

観普賢阿弥陀般若心等経各十四巻毎日一部同次供養矣

史料調査会

© Hiraoka Shoshu

奉書寫妙法蓮華經一部八卷

無量義經一卷

觀普賢經一卷

© Hiraoka Shoshu

右佛像経典靡錄如斯夫以三世之如来雖多化導殊勝者釋迦善逝一代之聖教雖博功能甚深者妙法真文拔濟之計不可得称者欤弟子謀以小量猥受大縁(緣)聖明不普照皇華異永平之政仁風難遠扇民草隔靡然之聞外蓂堦(カイ)梯之名内有虚閑之性清涼栄衰之花朝逐謝舜蕙於日慎紛陽始之月夜長約尭遊於雲心以降言圃之梧碧洞之宴樂山樂水池蓮之復宮桧之秋栽吉歳来経始之理莫不慨然須止架魔以養餘生然猶陛下之為中子常訪漢文節倹之蹤

木上之為長嬌孝守天経孝行之儀青闈儲皇者頂孫也翠幌仙院者息女也万機之繹雖決一日二日之急務諸蕃之謀倫欲蓄今世後世之餘資側聞普賢菩薩白佛言若四輩男女能解法戒知身之女約未終之時逆修三七請召衆僧轉読尊経得福多不

© Hiraoka Shoshu

右佛像經與觀錄如斯夫以三世之如来雖多化導殊勝者釋迦善逝一代之聖教雖博功能甚深者妙法真文拔濟之計不可得称者狄弟子譯以小量猥受大縁縁聖明不普照皇華異永平之政仁風難遠扇民草隔靡然之聞外慕堤梯(カイテイ)之名内有虚閑之性清涼榮衰之花朝遂謝舜薫於日慎紛陽始之月夜長約充遊於雲心以降言圃之楢碧洞之宴樂山樂水池蓮之復宮桧之秋栽寿歳未経始之理莫不慨然須止禁魔以養餘生然猶陛下之為中子常訪漢文節倹之蹤

木上之為長嫡孝守天経孝行之儀青闈儲皇者負扆孫也翌懐仙院者息女也万機之繆雖決一日二日之急務諸姜之謀倫欲蓄今世後世之餘資側聞普賢菩薩白佛言若四輩男女能解法戒知身之女約末終之時逆修三七請召衆僧轉読尊経得福多不

東洋文庫圖書館

© Hiraoka Shoshu

237

佛言其福多量隨心所願獲其果實仕斯隨願往生之妙文令修
悉知具足之要　仍擇支干之曜宿歩清淨之軌儀姓名自言律似
春之天迭于黄鍾告節之候初換相并三七箇日白毫相光之尊
容数躰並座寶蓮開示之教文諸部連帙加之素曉憖誌之聲六
根露淨黄昏例時之勤雙林日薄修三壇護摩之秘實凝方緒懇
篤之精誠志之至深福不可量千時當鳳城西畔之仙阪排竜緒
甲勝之仁祠緑水近漲波瀉畢竟之空青山高敎月楔常在之巔
所嶋者鷲路之硯徳七八口薜蘿接襟所唱者奥山之清唄千万
聲釋梵徹聞風槐露棘之引法莚乃是高陽高辛之才子紅蘭紫
菊之殘王砌多非一色一香之妙花

國母仙院伴　　殼念於象外

太上天皇迴仙蹕於簡中作善之趣錄矣赫哉方今先知令号一

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

年當厄會之多慎術家之告畏途名聊是以就保延嘉應之佳謨
迫遍故知新之勝躅或迫極尊之徵歸或謝甲卒之分直旁褊弟
土之對不顧草眠之負使仍妙莊嚴之舊事獨蓋善名畏之往回
落雙葉於霜朝罪根之清除有恃裁三衣於嵐夕迦葉之附屬不
疑梯緣至焉善願就矣宜知諸天垂哀愍之思四王施護持之力
昔魏闕南面之本主也懇帝載而格衆民今釋尊末法之遺弟也
崇佛陀而利万邦於戲齊太祖皇帝之殖善根也設法座於顯陽
殿之裏魯愚微躰身之祈覚葉也展梵莚於極霞觀之傍彼者一
日所修之惠地也此者七分全獲之福田也以古比今豈不恥古
仰願三寶照視吾志禅洞是開幹避莽於老伴之鶴唳剥不遠得
順次於来迎之雲車請先聳功德之上分奉資祖考之二陵依此
白善之力弥增紫磨之餝

承明門院

先妣贈后遊化于

東大寺圖書館

233

安養之寶土託生于真如之華界凡厥苦海沈陸之群萌悉航結
緣之尊卑頓成佛道令衆亦尒敬白

文永五年十月　日

作者民部卿経光卿

請書

夫以

神武踐祚以来備太中尊之主八十七代
持統嗣基之後得太上帝之君三十一人雖多先聖明王之後徽
適稟曰嗣者積善之慶也雖憖忍謝寡受之前踪猶掌朝務者拔
群之運也於是譯居九五位雖屈而三遇幸遇天然之師遂愛盧

謙之道　正嫡脫屣同胞受圖面見德華之相並方梓巨細二
代諮詢心決政事之匪一金子各伴均一之秀色玉孫忽耀明雨
之重光顧
國母尊崇之令礼名世榮比擬之舊式反鴻化於淳朴之思弥切
聞駁議於才英之心不懈澆薄之俗雖難改深厚之策何默止莫
事而不成莫志而不遂之故也況亦人間之煙壽雖未謝身後之
菩提常名忘止観真月之明静也翫餘輝而期暁了法花頼海之
深廣也尋本朝而猷流轉共成現當不生疑惑依何宿因得此大
幸誠是施慈仁之一德帰佛法之巨益者欤佛法者雄猛世尊之
坐金剛坐一音随機之風始扇龍猛菩薩之閑鐵鍱塔三部遍餘
之水忽澄梵篋傳来漢明帝之霊夢兼示唐玄宗之殿
信云彰然後

東北大學圖書館

欽明　用明之間秉漸之流布逢境聖曆延曆之後上秉之修
練盈朝頭密相並紹隆一揆二教之詮共廣諸行之益雖區出家
修道者教化之金言也其功遙及七世逆善福業者普廣之素問
也願德皆歸諸已回茲遂雙華剃除真實之本懷修六根廻向全
得之良回就龜山之麓有甲地之境為用老後之禪棲兼卜塵外
之逍洞鷰花村之春興有為之遊樂雖名由風葉葦之秋望各常
之觀念已有使往来久矣年月積矣傍于山傍于水漸成聚漸成
色方今擬大多勝院号餝道場向端嚴尊像号延梵席唱七八口
之僧侶限三七日之光陰演說諸法之壇前奏鳧遂助鷲嶺子之
聲讀誦斯経之窓下酬月屬似光明身之現三口三時之讃摩連
壇建座号勤修朝暮之勤相續鐘磬之響各絶加之憐愍之筆
施賑恤之恩

東京大学国書館

© Hiraoka Shoshu

國主皇帝下　聖旨而宥五刑之輕重
太上天皇廻仙蹕而增一善之威儀三仙院助白業而称華懸諸
大王伴舟懇而連竹園今當玄律之吉曜便勲瑜伽之軌儀仍奉
畫繪胎蔵金剛両界曼陀羅各一鋪奉書寫金字妙法蓮華経一
部八巻各量義経一巻観普賢経一巻阿弥陀経一巻般若心経
一巻奉模寫素絵妙法蓮華経二十部百六十巻各量義経二十
巻観普賢経二十巻阿弥陀経二十巻般若心経二十巻唱天台
座主法親王為大阿闍梨耶雲納曼羅而接襟也宛然梵唄山之
聽梶宣林司之陪座也壮自冠蓋里之観縫之園備莫不鄭重悉
業及終頭善願既満足然則禅定德久遥国杉山和尚百年之脊
行薫修功積心結蓮華聚九品之来縁分此功徳敬奉廻施
祖考二陵　一承明先院或汉十善登十号之位或改五陣備五

東大寺圖書館

（西奈四）　奈良共同印刷納

© Hiraoka Shoshu

230

增之光已此贈后離苦得樂重請天衆地類適受法味六趣四生
悉到善處敬白

文永五年十月二十三日　弟子沙弥　敬白

作者菩二位長成卿

請書前闕白殿下

敬白

請諷誦事

三寶衆僧御布施麻布　端

右奉　仰俾就一代教主之實語聞七分全得之巨益延嘱顕
密卧　之侶勤修三七箇日之善方今両郎昜荣羅丹青並像一
条法華経摺書分郎卜下旬之吉曜勲上来之軌儀高叫九乳不

待霜女之威遍達十方宜籍天衆之聽必依秘密之法力宜成現當之

殿念者奉

仰所請如件敘白

文永五年十月二十三日別當　奉

作者請書回前

文永六年己巳三月一日未時於東大寺知足院之草菴馳筆畢去

二月二十三日自西郊出洛陽之次罷向土御門油小路宿二位良賴卿之許借請此本之間為備校曉所書寫之也七旬之今甚雖多其詮被引宿執手自染翰墨相承之筆可哀其志而已

右筆華嚴宗末葉法印釋宗性

年齡六十八

復騰五十六

©Hiraoka Shoshu

亀山殿御逆修願文 別紙二品良賴卿為黒之別紙又書写之

敬白

勤行逆修善根事

初日

奉造立三尺皆金色釋迦如来像一躰

奉書写色紙妙法蓮華経一部八巻

　　各量義経一巻

観普賢経一巻

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

奉摸写素紙妙法蓮華経六部四十八巻

　　各量義経六巻

© Hiraoka Shoshu

観普賢経　六巻

阿弥陀経　一六巻

般若心経　六巻

二七日

奉造立一尺五寸皆金色阿弥陀如来像一躰

奉書寫色紙妙法蓮華経一部八巻

无量義経　一巻

観普賢経　一巻

阿弥陀経　一巻

般若心経　一巻

三七日

奉造立一尺五寸深色普賢菩薩像一躰

東大寺図書館

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷

無量義經一卷

觀普賢經一卷

阿弥陀經一卷

般若心經一卷

四七日

奉造立一尺五寸皆金色弥勒如来像一躰

奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷

無量義經一卷

觀普賢經一卷

阿弥陀經一卷

般若心經一卷

東京手圖書館

© Hiraoka Shoshu

奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷
　　　　　　　　　　　　紺畫軸經一卷
　　　　　　　　　　　　觀普賢經一卷
　　　　　　　　　　　　阿弥陀經一卷
　　　　　　　　　　　　般若心經一卷
四七日
奉造立一尺五寸皆金色弥勒如来像一躰
奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷
　　　　　　　　　　　　紺畫軸經一卷
　　　　　　　　　　　　觀普賢經一卷
　　　　　　　　　　　　阿弥陀經一卷
　　　　　　　　　　　　般若心經一卷

五七日
奉造立一尺五寸皆金色阿弥陀如来像一躰
奉書寫色紙妙法蓮華經一部八卷
　　　　　　　　　　　　紺畫軸經一卷
　　　　　　　　　　　　觀普賢經一卷
　　　　　　　　　　　　阿弥陀經一卷
　　　　　　　　　　　　般若心經一卷
六七日
奉造立一尺五寸深色地苅篓薩像一躰
奉書寫妙法蓮華經一部八卷
　　　　　　　　　　　　紺畫軸經一卷
　　　　　　　　　　　　觀普賢經一卷

東大寺圖書館

（西奈四）　奈良共同印刷納

© Hiraoka Shoshu

233

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

観普賢経一巻

名曼義経一巻

阿弥陀経一巻

般若心経一巻

此外奉画繪釋迦如来阿弥陀如来等像各七鋪毎日一躰

相替開眼奉摸寫素紙妙法蓮華経十四部百二十巻名曼義

観普賢阿弥陀般若心等経各十四巻毎日一部囙以供養矣

奉造三尺皆金色藥師如来像一躰

奉書寫妙法蓮華経一部八巻

結願曰

東大寺圖書館

右佛像経典甄錄如期夫以三世之如来雖多化導殊勝者釋迦善逝一代之聖教雖博功能甚深若妙法真文拔濟之計不可得稱者欤弟子譯以小量猥受大縁聖明不普照皇華異永平之政仁風難遠扇民草隔靡然之聞外慕堦梯之名内有虚閑之性清涼榮衰之花朝逐謝辞蕙於日慎汾陽姑射之月夜長約竟遊於雲心以降言圍之楓碧洞之宴樂山樂水池蓮之復宮桜之秋藏去歳来経始之理莫不慨然須止築慮以養餘生然猶陛下之蔭為中子常訪漢文節倹之澤太上之為長嬌孝守天経孝行之儀青蘭儲皇者順孫也翼恨仙院者息女也万機之餘雖決一日二日之急務諮善之謀偏欲薗今世後世之餘資側聞普賢菩薩白佛言若四輩男女能解法戒知身之女約末終之時連修三七請召衆僧轉讀衆経得福多不

© Hiraoka Shoshu

佛言其福无量隨心所願獲其果實仕斯隨願往生之妙文令脩
悉知具足之要仍擇支干之曜宿勢清淨之軌儀始自玄律似春
之天迫于黄鍾告節之候初後相并三七箇日白毫相光之尊容
數躰並座寶蓮開示之教文諸部連快加之素暁幟法之聲六根
露淨黄昏例時之勤雙松日薄脩三壇護摩之秘密凝万緒懇篤
之精誠志之至深福不可量于時當鳳城西畔之仙阪排亀緒甲
勝之仁祠緑水近漲波瀉畢竟之空青山高峩月模常在之巔所
山疾者鶩路之頑徳七八口薜蘿接襟所唱者奥山之清唄千万聲
釋梵徹聞風楓露林之列法筵乃是高陽高辛之才子紅蘭紫菊
之殘玉砌各非一色一香之妙花
國母仙院伴　殿念於象外
太上天皇廻仙蹕於簷中作善之趣鏘矣赫哉方今先知命号一

東大寺圖書館

年當厄會之多慎術家之告畏途各聊是以就保延嘉應之佳漠
追温故知新之勝躅或遁極尊之徴跡或謝甲卒之分直旁禍弟
土之封不顧草眠之貢便仍妙荘嚴之舊事獨慕善各畏之往因
落雙華於霜朝罪根之清除有恃裁三衣於嵐夕迦葉之附属不
疑機縁至焉善願就矣定知諸天垂哀愍之恩四王施護持之力
昔魏闕南面之本主也懇帝載而抱衆民今釋尊末法之遺弟也
崇佛陀而利万邦於戯斉太祖皇帝之殖善根也設法座於頭陽
殿之裏魯愚敢賦身之祈覚蓋也展梵莚於栖霞觀之傍彼者一
日所脩之悉地也此者七分全獲之福田也以古比今不恥古
作願三寶照視吾志禅洞是開翠嶺等於老伴之鶴浄刹不遠得
順次於来迎之雲童請先鞭功徳之上分奉資祖考之二陵此白
善之力弥増紫磨之錦　承明門院
先妣贈位故　花于安

© Hiraoka Shoshu

養之寶土託生于真如之華界凡厥若海沈陸之群蒭慈航結緣之尊卑願成佛道令衆亦尒敬白

文永五年十月　日

作者民部卿経光卿

清書

夫以

神武踐祚以来備太中尊之主八十七代

持統繼基之後得太上歸之君三十一人雖多先聖明王之後轍

遁棄曰嗣者積善之慶也雖慣君謝虞受之前蹤猶掌朝務者按

群之運也於是譯居九五位雖歷兩三廻幸遇天然之師遂愛慮

謙之道　正嫡脫屣回眸受嘱面見德華之相並万機巨細二

代諮詢心決政李之匪一金子各伴均一之秀色玉孫忽耀明兩

之室光顧

國毋尊崇之今礼无世栄比擬之舊式反鴻化於淳朴之恩殊切

聞駮議於才英之心不懈涜薄之俗雖難改深厚之策何默止莫

事而不成莫志而不遂之故也況亦人間之緣奉雖未謝身後之

菩提常无忘止観真月之明静也翫餘耀而期暁了法花願海之

深廣也尋本源而猷流轉共成現當不生疑惑何宿因得此大幸

誠是施慈仁之一德帰佛法之巨益着欣佛法者雄猛世尊之坐

金剛座一音随機之風始扇龍猛菩薩之開鐵錬塔三部濫觴之

水忽澄梵篋傳来漢明帝之霊夢兼示賢聖瀉得君玄宗之穀信

云彰然後

東大寺圖書館

（西奈四）　奈良共同印刷納

© Hiraoka Shoshu

欽明　用明之間東漸之流布遠境聖曆延曆之坂上乘之倦
緣盈朝顕密相並沼隆一揆二教之說共廣諸行之益難區出家
修道者教化之金言也其功遙及七世遂善福業者普廣之素問
也厥德皆帰緒已回茲遂雙華剃除真實之本壞修六根廻向全
得之良因就亀山之麓有甲地之境為用老後之禅棲兼卜塵外
之幽洞鶯花村之春興有為之遊樂雖无由風葉峯之秋望无常
之観念已有使往来久矣年月積矣傍于山傍于水漸成聚漸成
邑方今擺大多勝院号銀道場向端嚴尊像号延梵席唱七八口
之僧侶限三七日之光陰演說諸法之壇前寒鴈遥助舊鶯子之
聲讀誦斯経之窓下皓月屢似光明身之現三口三時之護摩連
壇連座号勤修朝暮之勤相續鐘磬之響无絶加之憐窮乏之筆
施賑恤之恩

國主皇帝下聖旨而宥五刑之軽重
太上天皇廻仙蹕而增一善之威儀三仙院助白業而移華堂者
大王伴母懇而連竹園今當玄律之吉曜便墊瑜伽之軌儀仍奉
畫繪胎蔵金剛兩界曼陁羅各一鋪奉書寫金字妙法蓮華経一
部八巻无量義経一巻観普賢経一巻阿弥陀経一巻般若心経
一巻奉摸寫素紙妙法蓮華経二十部合六十巻无量義経二十
巻観普賢経二十巻阿弥陀経二十巻般若心経二十巻唱天台
座主法親王為大阿闍梨耶雲納曼羅而接禮也宛然梵唄山之
聽梶宦棘司之陪座也壮自冠蓋里之観縛之園備莫不鄭重恵
業及終頭善願既満足然則禅定徳久遥固松山和尚百年之昔
行薫修功積必結蓮葉聖衆九品之来縁分此功徳敬奉廻施
祖考二陵　承明先院或以十善登十号之位或改五陣備五

東大寺圖書館

（西奈四）奈良共同印刷納

© Hiraoka Shoshu

智之光已妣贈右離苦得樂室請天衆地類遍受法味六趣四生
悉到善處敬白
文永五年十月二十三日　弟子沙弥　敬白

敬白
請諷誦事
三寶衆僧御布施麻布
右奉　仰俾就一代教主之實語闘七分全得之巨益延喉頭
蜜臥雲之信勤修三七箇日之善方今両部曼荼羅丹青並像一
耒法華経摺書分部下旬之吉曜勤営上耒之軌儀高叫九乳不
待霜女之威遍達十方定鷲天衆之聽必依秘密之法力宜成現
當之殿念者奉　仰所誦如件敬白
文永五年十月二十三日　別當　作者清書同前

春　青律　夏　朱律　秋　素律　冬　玄律
已上管二品良賴卿之自筆也
經光卿筆
龍錄
大縁者住持事也　廳然十七ノ事也　惶惚者
天経者孝行事也
玄圃者院御所也経始者始也
仁者樂山　智者樂水
敬

東大寺圖書館

（西奈四）奈良共同印刷納

© Hiraoka Shoshu

雙杉曰薄着雙杉曰被禦影薄也

高陽高辛着十六族之内也　仙輙者スミカ也

草踈着民也　清除者　象外着仙家也

長成卿草

天然之帋着　魏闕着禁中也

淳朴者スナハナル事也　明而着東宮御事也

窮乏着獄囚也　蓋着車也　駮議者

絶頸者洛也　霜女着霜也

文永六年己巳三月十日時巳罷向管二品良賴卿之亭土御門油小路

習讀龜山殿御逆修願文而通之時仕彼口狀所記置之

也後晩之筆可哀其志而已　法印釋宗性

東大寺圖書館

（西奈四）奈良共同印刷納

© Hiraoka Shoshu

233

P

弘安六年三月一日

昭和 年 月 洲

〔宗性上人研究会〕

函号 冊

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

（奥書）

文永六年（巳巳）三月一日（時未）於東大寺知足院之草菴馳筆畢去二月二十三日自西郊出洛陽之次罷向土御門油小路菅二位良頼卿之許借請此本之間為備後覧聊書写之也七旬之今甚雖無其詮被引宿執手自染翰墨相承之輩可哀其志而已

輸墨

右筆蓮厳宗末葉法印釋宗性

年齢六十八

夏籠五十七

240

P

（奥書）

文永六年
己巳
三月十日
時己
6p
習讀靈山殿御述修顯文而通之時
寵向菅三品良頼卿之亭
法印釋宗性
立佛門油小路
6p
6p
後
下

昭和二六年三月一日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

函号 冊 (年譜) 宗性上人資料集原稿

P

四月五日 後嵯峨法皇東大寺ニ御受戒ノタメ御幸アリ、菩薩戒ヲ權僧正定済ニ受ケ給フ、此時宗性羯磨師役ヲ勤仕ス

(表題) 6P

〔太上法皇御受戒記〕 冊子本 113 110 1

(宗性自筆) 6P

「文永六年巳四月廿日 太上法皇於當寺戒壇院御受戒之時、宗性勤仕羯磨師役」 8P

太上法皇御受戒記 9P

年 月 日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

法皇御受戒記

文永六年己巳四月三日 天晴 8p 出御 大炊御門殿御宿 宇治平等院 予不拝見之 下 巳

四日 天晴 9p 未明入御 下 南都 予於手掻門 裏頭 乗見物之 下

御供衆

公卿

中院大納言雅忠 權大納言基具 四条前中納言隆行 時継

卿中納言経俊 ・ 衣笠中納言 平宰相 顕継

源宰相資季

新宰相師親

© Hiraoka Shoshu

213

P

函号 冊

殿上人

高倉中納言 持通 頭左中弁 資宣 頭左中弁 経任

永康 為世 兼頼

棟望 忠世 俊定

雅憲

卿

上童二人

今出川 故大相國公相息

兵部卿 隆親息

下北面

官人

勝原信成（安カ）

同親康

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

3

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

光清　藤宣貞　平種有

源　康顕　[illegible]時　藤基

同信昌

召次

秦久則　同憲躬　同久頼

同頼詮　同久能　同武時

入御　書定顕法印之住房

次時許於御房有番論義

番　顕別當權僧正前法務定清

一番　信禅大法師答　貞顕大法師問

返問

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

215

P

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

問　二番　使円大法師答　定春大法師問

問　返問

問　三番　顕實法師答　顕尊法師問

問　返問

問　初迎　隨喜導師

伺返事ニ即有延年　當寺一方

興福寺二方

年　月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

5

© Hiraoka Shoshu

函号册

210

P

白拍子一遍舞之下

初當寺毗沙王殿

次興福寺近命殿

後興福寺口王殿也下

予爲羯磨役之間不具拜之下

五日 天晴

午一點 和上 羯磨 ㊢教授 ㊢三僧 口口兼惠來

使者

諸僧出仕 集會所 戒壇西廊乙陣棟

大十師

棟

6

年 月 日 昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

217

P

和上　權僧正定清

羯磨　法印前權大僧都宗性

□校　法印權大僧都兼範

隆賢大徳　葉師寺 8P

賢慶房 6P
成尊大徳　興福寺　東金堂

慶意房 6P
專藝大徳　興福寺　西金堂

禪圓房 6P
尊賀大徳　東大寺　法花堂

四頭房 6P
覺永大徳　東大寺　法花堂

英俊大徳　招提寺

長円房 6P
快俊大徳　東大寺　法花堂

尊行房 6P
定恩大徳　東大寺　中門堂

© Hiraoka Shoshu

P

堂達

善良房 6P
教孔大徳 興福寺 西金堂
祥蓮房 6P
尊恵大徳 興福寺 東金堂

小十師

鞨磨功弥 8P

俊助 堺川内大臣入道是實息 8P
勝恵 今生ノ故大相國公相息

法皇御出仕 御輿

公卿

右大臣道雅

兵部卿隆顕 中院大納言雅忠

年 月 日 昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

8

© Hiraoka Shoshu

213

P

函号 冊 (年譜) 宗性上人資料集原稿

權大納言基具　四条前中納言隆行　師中納言經俊
右笠中納言　平宰相時継　源宰相資季
新宰相師顕
殿上人
高倉中将茂通　頭左中弁資宣　頭右中弁経任
和上　權僧正定清　遲參　即幸以後參集會所、不及着座有行列
法皇先着御成壇院北面東廂外陣
其後引列　成壇西面自東第二、同廂前為一龍
外上座　次第着座
和上　并鞠鞠磨師弟子先數草座、自脇(ヲ)其上數座具、

年 月 日 昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

9

© Hiraoka Shoshu

253

P

函号 冊

自本堂三礼了、自南面着座、取直草□
是後弟子、兼置居箱香呂箱、香呂兼自手持也、
其後讀師
鞨磨請和上、教授請鞨磨、鞨磨請教授
教授請七讀師(ヲ)(ハヒ)
此間法皇入御案内
諸僧退下西軒廊
於此時初脱脊梵荒履草蹋(ヲ)(ハヒ)曰之由、七讀師等申之、
然而仕(可空白)(ヲ)(ハヒ)之曰記、自初用草蹋(ヲ)(ハヒ)了、
入堂之時、正面三間之内、自東第一間入堂内、南面西端
石橋(ヲ)登(テ)中壇(ヲ)左還一退(ニテ)6ヲ
南面西端ノ石橋(ヲ)登(テ)三菩薩寶前一度三人三度礼之、

6ヲ

(宗性上人研究会)

年 月 日 昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(0

© Hiraoka Shoshu

251

函号 冊

P

初番和上　羯磨　七讀师一韻也　下

二番　次三人、　三番　頭三人、　四番　嚩賀末与教授師

二人三礼為之、　其後着本座

請使以後行列之間、或弟子、或從僧為持具是本座　弟子

等自西南北端石橋一聲　下　道具置儲之、　諸僧着本座　等自西南北端石橋一聲　之後打鐘、　其後行列弥戒

下　從西南　下　南面東西二石橋之中和上自東石橋一聲

和上床前　羯磨　宗性　起座西面了、　北端了　石橋　下

羯磨自西橋一聲　於塔前着、　三礼為之、

着座　其後羯磨持三礼為之、　次唄、　口口為之、

次略神分為之、　為表白以前之間、祈願略之了、　下

次表白　為之、　次羯磨請和上　和上請羯磨

8P　8P　8P　6字　6字　6字

年　月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

函号 冊（年譜）

宗性上人資料集原稿

11

© Hiraoka Shoshu

P

次、勧請　次三帰　次大戒奉授之了、次廻向

其ノ次第如本式文也

其後講讃教経　導師

唄和上定請大徳勤仕之　散花小十師勤仕之

其後導師伝神分　次表白　次勧請　次釈経

次廻向　次後唄

其後羯磨師、教発戒縁　次和上作弾指、発起法縁

次口向差問縁人　先教上句　羯磨答

次羯磨向　教授答

其後羯磨師、教発戒縁　次和上作弾指、発起法縁

次口向差問縁人　先教上句　羯磨答

次羯磨向　教授答

其後動弥戒　和上羯磨

常式動弥戒　和上羯磨別人勤之

法皇法受戒之時、具足戒和上

羯磨兼勤仕之

遺

年 月 日　昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

12

© Hiraoka Shoshu

253

P

函号 冊

憲

五月十七日 知足院二于 34誓願御八講所得疑問論義抄下

34誓願御八講所得疑問論義抄第十七度 一冊子本

34誓願御八講所得疑問論義抄 中 度

法印釋字性

昭和 年 月調

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

251

P

（端書）

「文永六年弘誓院御八講専英問宗性法印」

8p

「文永六年弘誓院御八講専英問宗性法印」

「文永六年弘誓院八講宗性問専英大僧都」

「文永六年弘誓院御八講、宗性問専英大僧都」

8p

但シ、宗性ノ弘誓院八講ニ参ズルコト、五月十九日ノ条ニ見ユ

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

255

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

十一

五月十七日 知足院三十劫誓院御八講所得疑問論義被召度」

「劫誓院御八講所得疑問論義被第七度」 ○冊子本 133 ノ1

(表題)

「劫誓院御八講所得疑問論義被第七度 沙門釋宗性」

(奥書)

文永六年巳丑五月十七日晩於東大寺知足院別所草庵以彼御校本多本草之草畢多明後日吐劫誓院御八講初座講師第三座問者也 互多興福寺専英大僧都也 尤可謂古習学之處日未殊多為先 明朝亦欲上洛之間依無寸隙不及沈思仍沙華一乗之論義因明八門之疑問条々散在一々疎漏若後学止嘲但察其志唯欲呪咀寧慶拝見大聖尊之聖容而已 月前欲拂小僧年来之疑霧而已

文永六年 五月十七日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

253

函号 冊

P

右筆華嚴字末葉 法印權字性
年齡六十八
夏臘五十六

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

えい六 年五 月十一日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

二校了

257

P

函号冊

十月十九日 ○弘誓阿伽人講二今ゾ 12P

【諸宇疑問論義抄 三十二 ○冊子本 113 18 22-22 8P

端書 ↑6ウ

文永六年弘誓阿伽人講宗性問尊英大僧都 8P

問経文云尒時東方五百万億諸国土中梵天宮殿等ヲ 8P 説何事耶 若東方五百万億国土中梵天王来大通智勝仏成道菩提樹下請転法輪ヲ此之意也 ○下略 8P

端書 ○前坂ニ今ゾ ↑6ウ

問相違自比量相違相違決定過可相並耶 若依子嶋上綱傳且可在今此三過不相並ヲ義也 ○下略 8P

文永六年是歳

昭和 32年 5 26 許可

厚本交合了

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No.

253

函号冊

P

(奥書)

已上今度難苔之趣大概如此也

同年同月二十六日最勝講結願僧事之次轉任権僧正

勉者奉對此講師回明尚苔以今度可結定故也備後覚

聊所記録也

権僧正宗性

8P

○但シ、実性本事ヲ救スルコト、實之二年十月三十八日ノ条ニ見エ、

又、宗性ノ最勝講ニ参ジ、権僧正ニ任ゼラルルコト、三十二日条ニ見エ

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和32年5月26日調

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

258

図号冊

【弘誓阿㝹八講所得疑向論義抜第七度】 ○冊子本

（端書）6ウ

文永六年弘誓阿㝹八講専英向宗性請印

問、経文云万八千妙土、皆加金色文、顕何事耶、

答、釈尊眉間白毫、光明照東方万八千土之時、所照國土金色云、此文意也、○下略

（端書）6ウ

文永六年弘誓阿㝹八講宗性向専英大僧都御

問、尊要中挙問難云、又彼九因望違於常又雖非劫勇此但為法文介者非劫勇者為第六句為當第七句欲

文永六年是歟

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

宗性上人関係資料集原稿（年譜）

113 37 1

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

260

8P↓

「瑞書」文永六年ヲ以テ誓願ノ講、宗性問専英大僧都」

8P

ノ但シ、両答ノ内容ハ諸宗疑問論義抄第三十二（113822-22）ト異ル事ヲ以テ略ス、

8P

「文永六年ヲ以テ誓願ノ講、宗性問専英大僧都、」

ノ但シ、両答ノ内容ハ諸宗疑問論義抄第三十二（113822-22）ト異ル事ヲ以テ略ス、

P
昭和 年 月調
［宗性上人研究会］
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
© Hiraoka Shoshu

261

函号冊

P

五月二十六日 宗性權僧正ニ仕ヘテ、

諸宗疑問論義抜 三十三 8ウ 一冊子本

113
18
22-22

（端書）「文永六年 6ウ

「文永六年弘誓院御八講、宗性問講英大僧都、」 8ウ

一 但シ問答ノ要文ハ、先ノ弘誓院ノ八講ノ条ニカケル 8ウ

モノハ要事ナキヲ以テ略ス、マタ本書ヲ抜スルコト前之三年十月二十六日

（奥書）「文永六年五月」 6ウ 一条ニ見ユ、

同年同月二十六日、最勝講結願僧事之次、轉任權僧正、慶者

奉對此講師 因明問答以今度為結究故、為備後覧

耶所記録也、

權僧正宗性

9ウ

自最勝講ニ参ジ、結願日ノ僧事ニ

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

（ ）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

（法勝寺御八講問答記）一冊ノ本

（紙背文書）

113
27
117-14

宗性 ○ 宗性勧状

□珠蒙 天恩優修学労、補権僧正状

□朝 ㊃ 之中、長者宣旨被許権僧正者、兼前之例也、爰

字性七旬之間、久温故知新、鑽仰之微功一朝之中猶継

花厳倶舎両宗之法命、顧其紹隆、仏法之勤誰人可競申哉、

是一 次雖不専学真言宗、亦非無随分之勤、衣鉢無顧自行

不怠、傳梅尾之遺風、修花厳之観行之時依観門相隣、

取但真言宗、何況當宗僧正不学真言宗、當寺道快僧正雖

未遂入壇被許権僧正、園城寺覚智僧正□学真言宗、

偏募顕宗公請之労、令補権僧正、兼□学真言宗之寺

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

函号 册

（ ）

P

9P

唯顕宗僧正自門他門有倒、其身雖賤、労効超群、連其勤、雖疎微功過、為後日此勧学、寧不許一階昇進哉（是二、8P）次招興福寺頼円実性両僧正者、口年之後進也、有何由緒、而被超越哉、若依器正権別当者、宗性亦已被許別当、豈可為興福寺権別当哉（是三、8P）諸篇道理一身相兼評定之處、尤依哀憐者歟、望請　天恩優此等道理、被許権僧正者、弥学両宗之衆丁歳之　聖運而已、宗性誠惶誠恐謹言

文永四年十二月二十五日　法印宗性

（年譜）
宗性上人資料集原稿
年 月 日
昭和 年 月調
（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

261

P

函号 冊

12P

七月八日 宗性、興福寺東金堂御塔修造用途ヲ奉加ス

（三明對面抄）（二）8P。冊子本

（紙背文書）9P

興福寺東金堂塔修理料

○宗性奉加状、 9P

敬奉加 東金堂御塔修造用途事

合龕眼壹千文者

右、奉加結縁志者、為父悲母為始有縁七者、殊割寄專

9P

專法師、專教法師為滅罪生善、離苦得樂、出離生死、

證大菩提、往生極楽、往生内院也、兼宗性為滅罪生

善、離苦得脱、臨終正念、遠離魔障、出離生死往生

内院値遇弥勒、見佛聞法、龍華初會、列回聞衆、遂再會、

（年譜）

宗性上人資料集原稿

文永六年 七月八日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

205

P

函号冊

於蔦趙之回洽談往事、於大聖之御前、乃至法界、平等利益也、
仰願七堂三尊冥衆、殊別ハ春日權現大明神、知見證
明、此願成就 敬白
文永六年巳七月八日

9p

巳 16ヒ

巳 16ヒ

（年譜）

宗性上人資料集原稿

文永六年七月八日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

205

P

函号 冊

於薦拔之回法談往事、於大聖之御前、乃至法界、平等利益也、
仰願七堂三尊冥衆、殊別者春日權現大明神、知見證
明、此願成就 敬白
文永六年己巳七月八日

9p

己巳 6ケ
巳巳 6ケ

（年譜）

宗性上人資料集原稿

文永六年七月八日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

203

函号冊

P

十一月十五日ニ知足院ニテ倶舎論論義抜ヲ抜ス 12P

「倶舎論第十九巻論義抜（十講会三十条）」 8P

○冊子本

113
130
S-1

（表題ナシ）

倶舎論第十九巻論義抜（十講三十条） 9P

訪門釋慶實 9P

○但シ表題ハ字性ノ自筆ニテ 8P

文永六年十一月十五日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

207

P

函号 冊

（内題）

「倶舎論第十九巻五十条論義問題」

（奥書）

文永六年己巳十一月二日酉刻於東大寺加足院草庵書写之了、

権僧正宗性

（端書）

「文永六年西南院十講、快尊問覚禅」

「文永六年西南院十講、覚禅問快尊」

「文永六年西南院十講、縁宗問快尊」

「文永六年西南院十講、番論義、三番叡尊問宗経」

「文永六年西南院十講番論義、三番宗経問叡尊」

「文永六年西南院十講、縁宗問快尊」

文永六年十一月十五日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

263

函号 冊

P

8P

「文永六年西南院十講、慶實問定教得業、」

「文永六年西南院十講、宇暁得業問叡算、」

「文永六年西南院十講、定教得業問慶實、」

「文永六年西南院十講、快算問縁宗、」

「文永六年西南院十講、親尊問盛玄、」

「文永六年西南院十講、香海義、一番賢恵問良叡、」

「文永六年西南院十講、宇暁得業問叡算、」

「文永六年西南院十講、慶實問定教得業、」

「文永六年西南院十講、快算問縁宗、」

「文永六年西南院十講、香海義、二番賴兼問宇伯信、」

「文永六年西南院十講、盛玄問親尊」

「文永六年西南院十講、香海義、二番宇信問賴兼」

文永六年十一月十五日

昭和 年 月調

(年、譜)

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

203

函号冊

P

（巻目端書）
「文永六年十月廿六日酉子於知足院草菴始之、」

「文永六年西南院十講、定教得業問慶實、」
「文永六年西南院十講、書論義一番良叡問賢恵、」
「文永六年西南院十講、叡算問宇暁得業、」
「文永六年西南院十講、盛玄問親尊、」
「文永六年西南院十講、叡算問宇暁得業、」
「文永六年西南院十講、快尊問覚禅、」
「文永六年西南院十講、親尊問盛玄、」
「文永六年西南院十講、覚禅問快尊、」

（奥書）
※文永六年己丑十一月十五日酉子於東大寺知足院草菴始
老眼枚挙之了、自俱舎論第十九巻中、出五十余論義
問題、来十八十九両日、於西南院新房、可被行十講之由、別當權

（但し、向後ノ要文ハ、コレヲ略ス、）

文永六年 十一月十五日

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿（年譜）

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

270

P

僧正定済有其結構之間為同法度賓公所草之也老耄之身楚忽取蘐墨愚昧之性早速欲終功之上且為僧俗条々之箇目且為暗誦一々之難詞取肝要而有略聚文記、擬梗概而不書義道也後覧之輩可察其志而已

俱舎宗末学 權僧正宗性

年齢六十八

夏蘭上十六

末

函号 冊 （年譜） 宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

271

函号 冊

P

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

昭和 年 月調

文永二年 十一月 十五日

（表題）↑6字

倶舎論第二十一巻論義抄 十講分 十五条

12P

8P

0冊子本

113
130
5-2

（表題）↑6字

倶舎論第二十一巻抽義抄 十講分 十五条

9P

8P

勧門釋慶實

（内題）↑6字

倶舎論第二十一巻十講抄

9P

文永八年十二月三十四五両日
於興勝院中堂被始行之

8P

© Hiraoka Shoshu

272

函号冊

P

（端書）↑6ウ

「文永八年西南限十講、書論義一番頼兼問賢恵、」

「文永八年西南限十講、書論義三番快筆問定成」

「文永八年西南限十講、結座賢恵問定春得業、聖禅僧都之草也」

「文永八年西南限十講、書論義二番盛玄問親尊聖禅僧都之草也」

「文永八年西南限十講、書論義三番定成問快筆聖禅僧都之草也」

「文永八年西南限十講、初座親尊問快圓得業、聖禅僧都之草也」

「文永八年西南限十講、第三座永賢問定信」

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

273

P 8 8p

「文永八年西南院十講、第七座宇継問度賓」

「文永八年西南院十講、第九座定春得業尚賢恵、聖禅僧都之草也、」

「文永八年西南院十講、第六座縁宇問度性、」

「文永八年西南院十講、第四座宇信尚永賢、聖禅僧都之草也、」

「文永八年西南院十講、第二座快圓得業問親尊」

「文永八年西南院十講、光法師意麟暁猶覚可得色愛盡漏如耶云梅義重難用之、」

「文永八年西南院十講、第八座度賓問宇継、聖禅僧都之草也、」

「文永八年西南院十講、第五座度性尚縁宇、」

文永六年十一月十五日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

函号冊

271

P

（奥書）

文永八年辛未八月十六日申時於東大寺知足院草庵記之了 自去

七日至今日、聖禪僧都今度不記問答之論義九条難答耳記之也、是則来二十七八両日可被行去年闕分二十一巻十講之由、自別當僧正定清之許、被申下之間、為同法慶実慶性両人、忘寢食耳記之也、後覧之輩可哀其志矣、以此誓古修学之微功、併宛上生塵之業因、俾神童哀愍耶願速成就而已、

古筆華厳宗末葉権僧正宗性

年齢満七十

夏臘五十八

得

但し、問答ノ要文ハコレヲ略ス、（年譜）

宗性上人資料集原稿

参六年十一月十五日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

275

函号 冊

P

（奥書）

文永八年辛未 6月

八月上旬候、於東大寺知足院草菴記之畢、倶舎論第二十一巻出三十条問題、来二十七八而已、可被行去年閏分十講之由、別當僧正定済被申下之間、多同諸慶實慶性昕草也、以此體古鑽仰修學不退之微功、必為上生内院値遇之尊之業因而已、

右筆畢、慶尓、未葉權僧正宗性

年齢滿七十、

夏臈五十八

微

文永八年十一月十五日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

275

P

（奥書）

文永八年辛未（6字）八月上旬候於東大寺知足院草庵記之畢、倶舎論第二十一巻出三十条問題、未二十七八而已可被行、去年閏分十講之由別當僧正定済被申下之間、多同法慶實慶性耳草也、以此聲古鑽仰修學不退之徴功、必為上生内院値遇慈尊之業因而已、

右筆者慶尋、未葉權僧正宗性

年齢滿七十

夏臈五十八

（微）

ふりえ 年十一月十五日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

276

函号 冊 文永八、八、十六、 (年譜) 宗性上人関係資料集

(奥書)

衆徒蜂起寺門不静之間二十七八両日之講行令延引畢十二月二十四五之両日遂欲果行之処依毋儀遠例事別當僧正不被下向之間申付愚僧於尊勝院被行之畢二箇度之講也今年依無時分止第二十一巻十五条題加第二十二巻十五条題両巻講肆一度所行也是其自第二十一巻中所撰出十五条論義為後覧所結集也為見合處々開加聖禅僧都之草本実代修学之輩可依憑之耳

同年十二月二十八日酉時於同所記録之矣

権僧正宗性

此条前項ニ関係ヲ以テ便宜合綴ス。

文永八年十一月十五日

昭和 年 月 調

宗性上人関係資料集 (年譜)

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

27

函号冊

P

（年譜）

宗性上人資料集原稿

文永年 十一月十五日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

倶舎論第二十一巻論義抄十講用意十五条并

12P

8P

0冊子本

112
130
5-3

倶舎論第二十一巻論義抄十講用意十五条并

9P

8P

沙門釋慶實

© Hiraoka Shoshu

函号 册

（内題）↑6字

「倶舎論第二十一巻」

（端書）↑6字

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰格論義」、拾

「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰格論義」、拾

「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰格論義」、拾

「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰格論義」、拾

「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰格論義」、拾

文永八年十一月十五日

昭和 年 月調

（年譜）宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

270

函号冊

P

「聖禅僧都之草」、

「文永八年西南院十講問題不被出之、」

「文永八年正月去年關分、俱舎三十講度性問盛云」、

「文永八七年正月去年關分俱舎三十講度性問盛云」、

「文永八年西南院十講之時三十条内被撰捨論義」、

「聖禅僧都之草」、

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰捨論義」、

「聖禅僧都之草、」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰捨論義」、

「聖禅僧都之草、」

捨

捨

文永 年 十一月十五日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

230

函号冊

P 9P

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰捴論義」、
「聖禅僧都之草」、

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰捴論義」、
「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講、問題不被出之」、
「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、被撰捴論義」、
「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰捴論義」、
「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講之時、三十条内被撰捴論義」、
「聖禅僧都之草」

「文永八年西南院十講問題、不被出之」、

捴

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P（ ）

281

「文永八年西南院十講之時、三十条内撰捨論義、
聖禅僧都之草」
○但し、固答ノ要文ハコレヲ略ス、
（奥書）
文永九年壬申正月十日 於東大寺知足院草庵結集之畢、
去年之暦、出俱舎論第二十一巻論義問題三十条點、八月二
十七八兩日於西南院可被行十講之由、兼日自別當僧正定
請之処許被申下之間、多般回沈慶賀慶性、所草此并論義難
答也、而件比衆徒蜂起弥門不静之間、彼講肆令延引畢、至冬
冬候遂欲果行之處當年三十講當處二十二三巻之十講依
可警重止第二十一巻十五条題加第二十二巻十五条題、兩
巻講演一度被行之時、所被撰捨十五条論義等、後賢可結

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

（年譜）
宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

P 281

「文永八年西南院十講之時、三十条内撰捨論義」
「聖禅僧都之草」

○但し、固答ノ要文ハコレヲ略ス、

（奥書）

文永九年壬申正月十日 6字
時未於東大寺知足院草庵結集之畢、
去年之暦、出倶舎論第二十一巻論義問題三十条、點八月二
十七八兩日於西南院可被行十講之由、兼日自別當僧正定
済之御許被申下之間、多被同治慶應度、所草此并論義難
答也、而件比衆徒蜂起、并門不静之間、彼講肆令延引畢、至寛
冬候、遂欲果行之處、當年三十講當處二十二ヶ三巻之十講依
可繁重、正第二十一巻十五条題加第二十二巻十五条題、兩
巻講演一度被行之時、所被撰捨十五条論義等、後賢所結

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

282

P

函号 冊

集也多見合處々閑加聖禪僧都之草本末代修學之輩可依準之耳以此聲古鑽仰修學不退之微功必勿上生内院值遇慈尊之輩因陪大聖御前深信、唯識中道甚奥之理諸大聖實肉五肅俱舍少字未決之疑而已

右筆華嚴宗末葉權僧正字性

年齢七十一

夏臘五十九

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

283

函号冊

P

（表題）

〔俱舎論第二十三巻論義抄 十帖分 三十条〕 12P 2P

（年譜）

6ヶ

5

10

15

20

25

俱舎論第二十三巻論義抄 9P

訪問釋慶實 9P

「傳依圓慶」 9P

○冊子本

113
130
5-4

年 月 日

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

291

函号 册

P 99

（内題）
俱舎論第二十三巻十講抄

（端書）

「文永九年西南院十講、第九座公暁得業問尊源」

「文永九年西南院十講、此題不出現」

「文永九年西南院十講、第二座賢請得業問覚禅、」

「文永九年西南院十講、第七座盛玄問親尊」

「文永九年西南院十講、第三座快算問（字藝）」

「文永九年西南院十講、第二座賢請得業問覚禅」

「文永九年西南院十講、香海義一番殿算問頼兼」

「文永九年西南院十講、第四座（字藝）尚快尊」

「文永九年西南院十講、三番慶賀問快憲」

「文永九年西南院十講、第六座慶性問信算」

（年譜）

年 月 日 昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

283

右の印所へ捜入さんこと

（ ）

函号 冊

P

文永九年八月之日、西南院十講結座此論義也来之時、講師公暁得業、在於之欲天初起天初起申忍弖義、快円得業出此状、難講師之間、後日尋取所記置也、

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

295

265頁の史料送ニ付

P 9P

函号冊

「文永九年西南院十講、此題不出現、」
「文永九年西南院十講、第七座盛玄問親尊、」
「文永九年西南院十講、此題不出現、」
「文永九年西南院十講、第四座宗芸問快算、」
「文永九年西南院十講、第八座親尊問盛玄、」
「文永九年西南院十講、四座尊源問公暁得業、」
結
「文永九年西南院十講、初座覚禅問賢清得業、」
「文永九年西南院十講、第六座慶性問信算、」
「文永九年西南院十講、番論義三番樹恩問快秀、」
「文永九年西南院十講、第三座快算問宗芸、」
「文永九年西南院十講、第九座公暁得業問尊源、」
「文永九年西南院十講、初座覚禅問賢清得業、」

年月日 昭和 年 月調

（年譜）宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

287

函号 冊

P

9ウ

「文永九年西南院十講、善論義、三番供奉問樹恩」
「文永九年西南院十講結座、尊淳問公暁得業、」
「文永九年西南院十講、第五座信筭尚慶性、」
「文永九年西南院十講、善頼弟尚叡筭、」
「文永九年西南院十講、第五座信筭尚慶性、」
「文永九年西南院十講、善論義、二番供奉尚慶實、」

(奥書) 6号

文永九年八月六日、西南院十講結日、善論義、三番供奉尚慶之時、三紙自劫修行、可有間断云、難出此釈了、此釋未勤承之間、相尋被所匠快円得業記置之、同年同月二十八日快円得業来臨、此草庵所進置也、

秋

進

(宗性上人研究会)

(年譜) 宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

函号 冊 P

「文永九年西南院十講第八座親尊尚盛云」

「文永九年西南院十講此題不出現」

（奥書）

文永九年壬申七月二十六日於東大寺尊勝院中堂正面抄

○但シ、尚答ノ事文ハコレヲ略ス

之畢、来八月五六両日就僕舎論第二十三巻可被行十講之由、別當権僧正定清被申下之間、日来所出置問題三十条之論義為慶実慶性両人出仕、愚意所及所記録、難尽也、講師登座之後、可于両条問題、於問者之儀如前々也、所作頗為大事之条、後学可察之耳、願以此習学僕舎之微功、必為彼値遇尊之業因而已、

右筆華厳宗末葉権僧正宗性

年齢七十一

夏臘五十九

（宗性上人研究会）

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

289

P

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年月日

昭和年月調

（宗性上人研究会）

「倶舎論第二十四巻論義抄十講分十九条」一冊子本

（表題）↑6字

12P

8P

113
130
5-5

倶舎論第二十四巻論義抄 十講分 十九条

9P

8P

功門釋慶實

9P

© Hiraoka Shoshu

230

函号 冊

P

（内題）

「倶舎論第二十四巻十講抄」

「倶舎論第二十四巻十講抄 文永九年申九月三日始於東大寺尊勝院始之」

（端書）

「文永九年十二月西南院十講、第六座縁宗同慶性」

「文永九年十二月西南院十講 善論義、第二番宗尋樹恩」

「文永九年十二月西南院十講、第三座定経同慶寛」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰捨論義」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰捨論義」

「文永九年十二月西南院十講此題不出現」

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

230

P

（内題）

「倶舎論第二十四巻十講抄」

「倶舎論第二十四巻十講抄 文永九年申九月言時於東大寺勝院始之」

（端書）

「文永九年十二月西南院十講、第六座縁宗同度性」

「文永九年十二月西南院十講 善論義、第二番宗成同樹因」

「文永九年十二月西南院十講、第三座定経同度実」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰捨論義」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰捨論義」

「文永九年十二月西南院十講此題不出現」

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年月日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

291

P

8P
9P

函号冊

「文永九年十二月西南院十講、書論義、三番(ニ)慶性問快秀、」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰推論義、」

「文永九年十二月西南院十講、初座快憲問定春得業、」

「文永九年十二月西南院十講、書論義一番(ニ)覚禅問勘尊、」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰推論義、」

「文永九年十二月西南院十講之時、三十条内被撰推論義、」

「文永九年十二月西南院十講、結座覚禅問公暁得業、」

「文永九年十二月西南院十講、第二座定春得業問快憲、」

「文永九年十二月西南院十講、第三座慶性問快憲、」

「文永九年十二月西南院十講、第四座慶実問定経、」

「文永九年十二月西南院十講、第五座慶性問縁宗、」

年月日 昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

「文永九年十二月 西南院十講 第九座 公暁得業 尚覚禅」

「文永九年十二月 香論義 一番 教尊 尚覚禅」

「文永九年十二月 西南院十講 第七座 叡算 尚宇擔」

「文永九年十二月 西南院十講之時、三十条内被撰擇論義」

「文永九年十二月 西南院十講之時、三十条内被撰擇論義」

「文永九年十二月 西南院十講之時、三十条内被撰擇論義」

（但シ尚各ノ要文ハ之ヲ略ス、）

（裏書）

※

文永九年（申壬）十二月五日（酉時）於東大寺尊勝院護摩堂南面新学問所草之了、當寺別當権僧正定暁、為後嵯峨院皇御前僧、當時令居住嵯峨御所之間、俱舎論第二十四五巻十講自明日六日於當院家欲始行之而同宿慶実慶性両人俱舎出仕之

（宗性上人研究会）

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

292

函号 冊

P

「文永九年十二月 西南院十講 第九座 公暁得業 尚覚禅」
「文永九年十二月 香論義 一番 教尊 尚覚禅」
「文永九年十二月 西南院十講 第七座 叡筭 尚宝撰」
「文永九年十二月 西南院十講之時、三十条内被撰探論義」
「文永九年十二月 西南院十講之時、三十条内被撰探論義」
「文永九年十二月 西南院十講之時、三十条内被撰探論義」

（年譜）

宗性上人資料集原稿

※

文永九年（申）十二月五日（酉）時於東大寺尊勝院護摩堂南面新学問所草之了、當寺別當権僧正定暁、為後嵯峨院皇御前僧、當時令居住嵯峨帥所之間、僉舎論第二十四五巻十講自明日（六日）於當院家欲始行之、而同宿慶実慶性両人僉舎出仕之

（宗性上人研究会）

年 月 日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

文永八年十一月十五日

(奥書)

文永十年癸酉 6字
三月十七日 6字
時酉
於同学窓 去年十二月廿七両日於
尊勝院中堂 所被行僞舎論第二十四五巻十講之時 難答之旨
談義之趣 聊隨憶念記録之了

羊僧宗性

右筆筆厳宝未学権僧正宗性
年齢七十一
夏臘四十九

問為彼暗誦略所草之也、後覧之輩可哀其志矣願以此修学
右筆之微功必為彼上生内院之業因而已

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月測

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

291

P

8P

（綴目端書）

「九月廿三日　書之」

「文永九年九月廿三日晴　於海印寺本堂草之了」

「九月廿三日同書始之了」

「十二月　三日書之」

「文永九年九月三十八日於海印寺本堂書之」

「文永九年九月三十九日於海印寺多堂書之」

「九月廿五日書之　海印寺本堂也」

「文永九年九月二十七日、於海印寺本堂書之」

「文永九年九月廿六日　於海印寺本堂書之」

「八月廿六日於海印寺本堂書之」

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年月日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

295

函号册

P

十月十日、覚慶三明對面抜子抜ス、

(三)明對面抜(一)

表題

12P

12P

5

8P

10

0冊子本

15

113
144
2-1

二明對面抄第一

9P

9P

權僧正宗性

20

25

年 月 日 昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

226

國号冊

P

9P

(奥書) ↑6ヲ

文永六年己巳十一月十八日 時(西) 於東大寺俎足院之草庵記之畢 来十月候維摩會中 為聽聞寄宿興福寺圓成院 同十六日 大會卷遮之間 辞此坊宿 欲歸當寺之次 罷向西院 對面權大僧都凉英 尋訪二明法門之時 向答之趣 梗概如此 為備後学之披見 所記其座之難答也 願以此二明結縁

旅

6ヲ

6ヲ

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

297

函号冊

P

之微功必多彼三會得脫之業因而已

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

年齡六十八

夏臈五十六

末

(奥書) 6字

文永七年 庚午 正月六日 6字 西時於東大寺知足院草蔵記之畢去年之冬十二月九日興福寺西院々主権大僧都尊英來臨尊勝院之便宜尋訪二明法門之時問答之趣大概如此為備後代之披見所記其時之難答也願以此法相因明結縁之微功必為彼龍華鶏足開悟之良縁而已

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

筆齢六十九

夏臈五十七

文永六年十一月十八日

© Hiraoka Shoshu

函号冊

P

三明對面抄 (三) 12p 8p

(表題) ↑6ヒ

冊子本

113
144
2-2

三明對面抄第二 12p 9

權僧正宴性 9p

年月日 昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

299

函号冊

「[illegible]」

(奥書)

※文永八年之夏初四月十一日之夜於興福寺西院奉對法印權大僧都尊英聆習学二明法門大概如此也重遂面謁閑令芳談之後此等要須事可記置之由日來之間相存之處去九月上旬之候被侵惹痾聆勞同十二日遂入滅畢依無又可問訪之方隨憶念記錄之条々事定非如彼聆存欤然而為知賢跡不顧愚情乍抑雙眼之悲淚悠記二明之肝要次恐聖霊亡魂之照覧外聞後昆未学之披見哀哉痛哉不可不悲只願依此興隆勸学之懇誠必遂値遇慈尊之宿望而已

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

文永八年十一月十八日

(年譜)
宗性上人関係資料集原稿
[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

No. 279 ~~2770~~

300

函号 冊

P

5

10

15

20

25

（年譜）

第齢満七年

夏薨五十八

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

二校了

諸講雑載 12p

[redacted]

○長講堂御八講

諸宗総向論義故 (三十二) 自正二年至文永二年 ○冊子本 12p 8p

(端書) 6行

文永六年長講堂御八講宗性向聖廟法印

向普賢行者修無生懺悔時罪福俱可滅耶 若 ○下略 8p

(端書) ○前項ニ合ヘシ 6行

向観普賢経五時中何時耶 若観普賢経是法華結経故五時中可第五時云事必然也 ○下略 8p

○但シ、開題本書ヲ校スルニト寛元三年十月二十八日ノ年号見エ、

奥之年是 [redacted] 歳

昭和 32 年 5 月 26 日調

原本之合ヲ

函号冊

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

P 9P

文永七年庚午（一二七〇）（年譜）

三月一日、大和國田部庄ノ預所職ニ僧性藝ヲ補ス、

（法勝寺執行代講問答記ノ第五 113 27 17-14）

（宗性抽判）

專勝院政所補任　田部庄預所職事

僧性藝

右以人所令補任彼庄預所職也、庄家宜承知勿違失

故以補任

文永七年三月一日　知院事

院別當法橋上人位

○但シ、本書ヲ按スルニ、貞応二年三月九日ノ条ニ見エ、

302—480.

© Hiraoka Shoshu

No.

303

函号 冊

P

井永七年庚午（一三七〇）

井永七年庚午（一三七〇）

七月三日 法勝寺御八講問答記 十四 12P 12P 8P ○冊子本

113
27
117-14

法勝寺御八講問答記

備脚

上卿 春宮權大夫定実 奉行 左中弁經業

勅在廳 威儀師嚴運 公文 從儀師相秀

證義者

前權僧正 宗性 六口 6字

講師

法印權大僧都兼範 興聖 6字 權大僧都實恵 東聖 6字

實慶 興聖 三十八 6字 親性 權少僧都愚信 山三十五 6字 權律師淳覺

尊清 興聖 三十八 6字 為弁講 大法師顯聖 山三十八 6字

文応 七年 七月三日

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集原稿

性上人研究会

© Hiraoka Shoshu

No.

303

函号册

P

弁永七年庚午（一三七〇）

（弁九歳）

七月三日 法勝寺御八講ニ参ズ

法勝寺御八講問答記 一冊 12P 12P 8P ○冊子本

113
27
117-14

御請

上卿 春宮権大夫定実 奉行 左中弁経業

公文 従儀師相秀

証義者

前権僧正 宗性 六度 6字

講師

法印権大僧都兼範 興正 6字 権大僧都賢恵 興正 6字

権少僧都憲信 興正 6字 権律師源覚 興正 6字

行賢 興正 6字

尊清 興正 6字 為弁 6字 大法師顕聖 興正 6字

文応元年七月三日

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集原稿

宗性上人研究会

© Hiraoka Shoshu

函号 册

聽衆

隆遍 山城十一 新二十九 6字

性曉 東二十二 二十二 6字

信顯 興二十三 新九 6字

信雅 寺二十三 二八 6字

範憲 興二十四 新十二 6字

房瑜 寺二十三 新七 6字

行兼 山城十五 新十一 6字

来源 山城十一 新七 6字

継尊 興二十二 新十 6字

経辺 山城十七 新十五 6字

本請辞退

證義者

權僧正経海 興福寺權別當 法印權大僧都性善 兼講師 8p

講師

權大僧都尊俊 權少僧都實深 房瑜 權律師宝源

大法師信弁

陪請

講師 行覚 叡性 憑信 源覚 尊清 顯聖

令和七年七月三日

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

1557

3

初日

朝座講師 来範 向者 隆遍 在表白 8p

（向字畧之）

咒 行香

見願 前権僧正宗性 三礼 大法師覆奪

分仰

春宮権大夫兼定実

暮座講師行覚 向者信雅

第二日

朝座講師実慶 向者美濃

暮座講師勢性 向者性暁

第三日

文永七年七月三日

文永七、七、

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1558

386

84

文永七、七、

朝座講師圓信　向着範專房

暮座講師覺覺　向着繼尊

第四日

朝座講師尊清　向着經算

暮座講師忠舟　向着信顯

第五日

朝座講師顯理　向着房憲

暮座講師慶恵　向着行兼

（不上向着ヲ第二ノ下ニ）

證義者云向着御願初參也雖須立加雖南發趣結

座ゟ云々鐘云々

行香

文永七年七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1559~~

5

文永七、七、

兄厥 前権僧正字性 三礼 大法師顕聖

況 今仰 卿 實

春宮権大夫定実 藤中将 納言伊頼

不足前左宇権大夫以良 右中弁経業

華山院右大臣通雅 雖有着座 朝座事訖即被退出

巣下

供養法 権少僧都憲信 例時間聲 大法師経真

御布施 前左宇権大夫以良朝臣

藤少納言範明 岡崎少納言範夏 尹

取之巣

原本校合了

堂童子第一字尹半 第二々司郡等

文永七年 七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

（　　）

P

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

○但し、本書を抜くこと貞應元年三月廿一条頁之

8p

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

二校了

300

P

函号冊

七月十八日、尊勝院ニテ勝思惟梵天所問経ヲ見テ校ス、

勝思惟梵天所問経ニ

聖語藏

聖
乙室
19

（表題）

勝思惟梵天所問経

（奥書）

文永七年庚午七月十八日未時於東大寺尊勝院誂宗成少輔公令一交了

権僧正宗性

文永七年七月十八日

昭和　年　月調

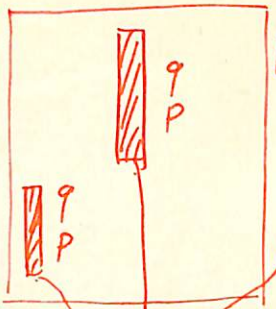
（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

函号 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿



（七月二十四日 知足院ニテ天台宗雑要文抄第二ヲ抄ス

（天台宗雑要文抄第二

（表題）天台宗雑要之抜書第二

（奥書）

今此文集者宗性為権大僧都之時諸家八講之砌問答論義之庭、或為問用或為存知管見所及雖記置之筆来懈怠不及結集書籍之中相交其之而今年齢徒闌七旬餘算既迫一瞬之間散在自抄結集調置之次此文集新為表紙初書外題畢後覧之輩可哀其志矣

文永七年庚午七月二十四日時於東大寺知足院之草庵記之畢

右筆蓮厳宗秉権僧正宗性

年齢六十九

原福五十七

○冊子本 113/56/1

権大僧都宗性

文永七年七月二十四日

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

函 号 冊

3

3-1

P

九月二日 西園寺御八講定圓法印祈句草ヲ校ス

「西園寺御八講定圓法印祈句草」 ○巻子本

103 ト4 1

(表題)

西園寺御八講定圓法印祈句草 權僧正宗性

(奥書)

文永七年後九月二日誂慶實写之乎 同一交了 宗性

文永七年九月二日

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

函号冊

P/

九月三十四日 勘定陀三テ四天王寺御手印縁起ヲ抜ス

12P

四天王寺御手印縁起

（表題）

6ヒト

12P

〇冊子本 陽明文庫

近 30 54

四天王寺御手印縁起

9P

權僧正宗性

9P

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

313

P 2

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（奥書）

文永七庚午年九月二十四日辰時於東大寺加足院之草庵書写之畢。同後九月二日時於論印寺地藏堂校點之畢。自来十月七日欲被始行太上法皇御筆御八講宗性預其催之間四天王寺金堂之重宝塔事祈句之時、勿令存知其由来。圓滿院法勅主被借下此本。此條畏申之餘手自所書写校點也。書写之時書落食堂一字、又葦七間二面疵云一行畢。仍粗可書改之由、日来存知。雖并置此本、文永九年甲子八月晦日時於加足院之草庵大三十流、小四十流之處、不為別行書道之畢而已。

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

年齡七十一

© Hiraoka Shoshu

函号 文永七

3_1

P 3

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

9P

（綴目端書）

6字

文永七年九月廿三日 6字 時 於東大寺加足院草庵書写了

權僧正宗性

夏臈五十九

同年後九月二日 6字 時 於海印寺地藏堂校點了

© Hiraoka Shoshu

315

函号 冊

P 9P

十月七日 京都嵯峨殿ニ於テ 土御門院四十回忌法華十講

二巻ズ 2P

代々宸筆御八講願文并記 12P

(下) 8P

(仙洞) 8P

○冊子本

113
102
2-2

後嵯峨院 6ヶ

太上法皇奉為 土御門院自書写金字法華経 6ヶ

改行 自文永七

庚寅年 6ヶ

十月七日 乙卯 6ヶ

奉為 土御門院於嵯峨殿五箇日被始修

法華十講初座被供養金銅六重塔婆一基釋迦多宝二佛形

像各一躰并自奉書写金字妙法蓮華経一部八巻無量義経

観普賢経阿弥陀経般若心経各一巻

御導師 僧正経海

文永七年十月七日

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人関係資料集成稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

上御
奏
奉行
勘解由次官経頼

上御
奉行
庚
寅
勘解由次官経頼
殿司
新中納言経任

1565

2

文治七年十月七日

惣在廳成儀師嚴運　公文從儀師相秀

僧名

證義者四人

沈防前大僧正蓮信興福寺兼別当　6字

僧正　経海

前權僧正　宗性東寺兼別当　6字　沈印權大僧都性advocate興福寺權別当　6字

講師十人

経海　宗性

性advocate　沈印權大僧都靜明山　6字

庚寅　興福寺　定円　憲寅山

庚伊　興福寺　宗慶

庚寅　興福寺　乗範

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

2765
1566
317

3

文治七年十月七日

聽衆二十人

權大僧都專英 興
行實 興
寅憲 興
寅禪 山
趙峯 寺
永詮 山
公信 興
信弁 寺
公尋 山
範憲 興

6早

實惠 東
信超 山
覺性 寺
權少僧都聖禪 東
沙門 眼 範尊 興
權律師 睿基 寺
大法師 宝緣 東
房曉 寺
忠源 山已上溝
信願 興已上得等

6早

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1568

310

9P

塵

5

運莅尊民尊俗之政以来雖休明未之帝篇雖功業未顯皇策且儻尊崇追資之礼教奉增　先陛聖慮之遺徳豈非致志於前言忽揚名於後世乎遥乃謝太中之尊恣方外之事　上皇　今上継躰之尚不得拠諮詢日慎一日無休之心猶如在登極雖好憲章久決萬機之政抱愛四海之冨情思蕩慮已超漢高之忽文過唐堯之蹤何況順序画備儲君備答至敬之志久保如此之運暨于衛伴老色於山陰凜節之松南顧浮生於洛陽流年之水尋明聖之往躅入空王之実道為鄙嚢塵兼釋閑地去洛陽城而人路不遠就栖霞観而佛図有名安大覚尊二佛之像有諸衆生一礼之面成霊山外之生身機国中之浄土也彼寺之南有亀山此山之麓卜宇境之構仙居

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1568~~

320

廊

9P

雪

6

即林排仁祠衆為戲池畳奇樹列砌遺憶金刹土地上之勝月夜之庭雪朝之簷相似白臬夫峯北之棧足以羞志耳以送老故舊良因於斯處欲及善力於多生一面修一善先必資先靈而我天長以後之勝躅有果地處催内之宿願仍起立金銅六重四角塔婆一基四面廉奉安金銅二寸半出人方夫像合掌四角奉安同菩薩天童等像三十二躰層々奉安同立方仏像一万九千三百二十五躰奉安置金銅三寸六方伏鉢多宝二如来像各一躰手自奉書写紺紙金字妙法蓮華経一部八巻無量義経一巻観普賢経一巻阿弥陀経一巻般若心経一巻就四天王寺之金堂有諸佛衆座之銅塔模其旧勢殊盡奇巧(舊)之上始終此新経将傳萬代之下生方今仲春之月上旬之天

文明七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1570

32

9P

幸

羅

卿

鸞

繪寫

法陽以下陋諸宇命世之碩德供養之後致五日每朝之講論
学倍卅一口爭雌才於鶯子鳩集之延舞態奏十調曳花禮於
江葉青苔之地于時擺碧蘿等並而洞七聖共座隨摩翌華等
幸会場百司皆列侍三九之仰盈座鶯宮之客接襪各捧法花
施饗助道儀加之仰有司而修嘖嘖隣勅命而賜度者
諸仙陪在宮諸大王公主或移芝砌竹園之居或鈿結緣于善
之誠誠凡代々之例惟多面々之儀非一擇其内之肝要勒
此間之白善鄭重之趣周備遍古況年毎年忌辰恒例之営教
刑霜送秋而常消諸國一同救生之禁斷仁而先春而善澆
宣下之旨無違之忌而已都以惠等奉資普施則豊年華厚
之本主也仍留本執於仙道九品太上之徽號今年妙蓮台之

弘仁七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1570

32

9p

11

法陽以下唱諸宇命世之碩德供養之後致五日每朝之講論
学倍卅一口爭雌才於鶯子鳩集之道舞態衆十調曳花禮於
江葉青苔之地于時擺碧蘿等並而洞七聖共座隨聲翠華等
幸会場百司各到侍三九之仰盈座鶯富之客接襪各捧法花
施屢助道儀加之仰有司而修嘖嘖隆 勅命而賜度者
諸仙隈石宮諸大王公主或殺芝砌竹園之居或鈿釵結緣于善
之誠誠凡代々之例惟多面々之儀非一擇其内之肝要勘
此間之白善鄭重之趣周備遍古況年毎年忌危恒例之営救
刑霜送秋而常消諸國一同殺生之禁斷仁而先春而善澆
宣下之旨無違之忌而已都以惠等奉資善根則豊年華厚
之本主也仍留本執於仙道九品太上之徽號今年妙蓮台之

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

307 2793
1571
322

8

新宮也但拙新果於佛土九品無上之覺位一善通前之試之無他大根隨善之功空帰七朝之垂露之點忽得聲聞衣裏之珠世々苦輪之掌為代表者内外之車失增佳本顕本之妙力感或得道得果之臣蓋重請甘菊樹之菊花従有九毛裏旦此善根者永不枯朽香城之香煙従有九流消時此恵蓮者又無盡鐵圍砂界有情無識刹塵手等済度不限故白

文永七年十月七日　　弟子沙門（素覚御諱寂重也）故白

限廳

清澗論事

同御澗論文

文永七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

307 2793
1571
332

8

新宮也但趣新果於佛土九品無上之覺位一善通有之試之無他大根隨善之功空帰亡朝之重露之黙忽得聲聞衣裏之珠世々菩輪之掌恭代長者門外之車失增住本顕本之妙力忽成得道得果之臣蓋重清甘菊樹之菊花從有毛裏旦此善根者永不朽如香城之香煙從有清時此恵蓮者又無盡鐵圍砂界有情無識刹塵平等済度不限敬白

（素覚物語寛重也）

文永七年十月七日　弟子沙門　敬白

同帥闍誦文

限廿

清闍梨事

文永七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1572

323

9.

三宝衆僧御布施麻布伍百端

右奉 仰為自昔中直妙典奉資 先院聖霊維紙金字之
文供養之儀惟新四角之塔荘厳之美模薗五旦分朝夕
之座衆僧盡講論之才辯週雪之袖手奏歌曲鳴和霜之鐘导
處十方以此種々之善因教祈如々之妙果然則梵風恐扇七
覚之華添句甘露普潤九品之蓮増粧乃至法界平等利益者
奉 仰可請如件故白

文治七年十月七日 副当正二位行兵部卿藤原朝臣隆親奉

作者正三位菅原朝臣長成

清書近衛前関白

文治七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1573

321

文永七年宸筆御八講第二座宗性前權僧正啓白詞

夫一乘円頓之教功能雖難測、五種法師之善書寫猶必勝、如来誠說誰不服膺者哉伏惟 我君太上法皇者八十八代之聖主大慈大悲之賢王(ト)也 御治無偏有直之思化故四海之風波靜謐一天之人民安寧(リ)行(ヒ)(ヌカ) 御 歸佛信法之德政故三学之修行(モ)弥(ヨ)通(シ)八宗之教法(モ)紹隆(スルノミナラス)孝行(ノ)御願(モ)主深(キ)謝德(ノ)御誠(モ)尤切(ニ)(ヨリ)(ハ)專(ニシテ)神襟於白華之風(ニ)凝(シ)唯一無二(ノ)(ヒ)之殷信(ヲ)染(テ)宸筆於黄金之水(ニ)寫(シ)(ス)開三顯一之真文六万九千之字(ヲ)貫玉(テ)刻(ム)星(ヲ)八萬四千之点(ヲ)尊思(ヲ)盡(シ)(ツ)(ハテヌ)志(ヲ)教(ヘ)(ヲ)(テ)講経論義五日十座之脊揚席(ヲ)(ニ)祈(ヒ)(ヌ)先院聖靈十号三明之覺位(ヲ)以(テ)繼(キ)久安仁平以降仙洞經跡(ヲ)(ニ)(ル)(ヲ)以(テ)(ヒ)(ヌ)(ヨリ)(ヒ)(ヌ)(ヨリ)(ヒ)(ヌ)(ヨリ

~~1574~~

320

以尚智八元八愷十六族之群臣臨梵莚以儀儀何況 太上天皇之幸王綱一也、合掌之花先春而綻 国母仙院之移翠帳也至心之香得時而薫倩思今日之直儀定必後代之美談者欤伏尋舊蹤西天祇園精舎有金字法華経稱之迦葉佛経雖貴七佛相兼之由来更非十善聖主之宸筆辰旦啓高帝之瑩金字唐太宗之窓蓮偈雖施而華放光之奇瑞不修講経談論之斉会我朝天暦長保之聖代長治安元之明時四代賢主宸筆窺臨池之妙八座開講弁説涌言泉之波皆資母后之得脱不訪前皇之菩提忍徳之情雖運其志報恩之通似忘其源沿百明圭摩必後朱雀限仰眦首造立三尊之形像振宸筆繕写給一乗之真文用蓮眼醉花紋之唇席恨非前皇昇霞之旅辰彼引仁聖主脱屣之後孝

文小七年 十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1576

330

9p

桓武天皇繕寫金字法華經一部七卷又々權置水之金輪堅昆
山之玉乎今御願願可唯據彼道夫墨之後天長三年之春奉說
七卷如與於八箇日間此入佛道之今文永七年之冬初講十軸
真文於五箇日中彼鳳城之傍遂供養於西寺之精舍此龜山之
麓麓梵莚於西郊之離宮彼迎先皇之遠辰儲尊会此以テ前院
之聖忌宛繕願者乎離特覽彼此可比類但彼狀述一躰只必道
場本尊此鷹鳴塔之内秘尊多宝二佛列光彼護命僧都獨勤南
溝唱尊此仙洞之内中義龍律席諸尼吐吻虛空会之儀式如眼
前に見ヲ嗜嚴之演說も似耳底ニ南倩訪三國之往事左契代之舊
蹤事皆參老互有不足豈今御願擇代々之肝要盡一々之勝躅
之成就中訪上宮太子之古風營金堂六重之宝塔尋近喜聖主之

文永七年 十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1576~~

327

地 ~~塊~~

~~點~~ 點

溢 ~~納~~ 納 寫 金字一乘之真文一宝塔 重々顕一万九千三百餘諸佛之形像経典 字々句々六万九千三百餘 如来之躰性佛法故混一躰理事亦備方善何況五日間講之間仰諸国 ~~以~~ 断殺生十度論談之勘令有 ~~自~~ 以宜下度脱者 ~~物~~ 所 ~~其~~ 深事善理善理善盖其篇道儀 ~~郡~~ 重上古中古超其跡 前院 ~~物~~ 得脱更有何疑哉彼養地興 ~~之~~ 詔前皇菩提 ~~自~~ 寿書屋学 ~~法~~ 事経宿事纔 ~~又~~ 而老之時一聖 ~~燈~~ 下五更薬中先皇歎善而説偈云善哉善哉 ~~手~~ 自手造 ~~成~~ 経幸斯 ~~切~~ 功徳生 ~~物~~ 刹天供養之日當生 ~~弟~~ 四奉仕 ~~弥~~ 勒聞法悟 ~~解~~ 又解 彼教供養之日卜詫生於上天之雲奉仕弥勒尊既定我 ~~揚~~ 之今 ~~遂~~ 往諸於西刹之蓮値遇 日ヲシ 御 弥勒如来若尓 前院 ~~垂~~ 垂 ~~塩~~ 上 ~~転~~ 因方至

~~仏~~ 養世界 ~~切~~ 徳池中自 ~~下~~ 品移上品大自在宮 ~~殿~~ 殿 ~~転~~

文治七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1577

323

果令化功帰本故太上法皇御願円満玉躰堅於金石宝算久
於栴杵跡積万行万善之華修顕戒諸尊寺諸家之紹隆仏法者
王法之所依也行学興隆之道還同推古聖武之昔世王治着仏
法之所守也文武聖明之政不異白川鳥羽之古時精功徳上分
孝斎 聖主屈乾黄而新清三千界之浪無波乾泰山而呼万一
万歳之声不尽 太上天皇発金枝瓊葉之繁昌栄 国母仙院
保 西桃南椿之寿等春坊春花萼万春之色秋菊秋月湛千秋
之光芝砌竹園蕃主分主弄域風静福庭露解溥隆尊宮新栄埋
久三台九棘雨露潤厚千門万戸同歌沿世之徳五載七道皆
老豊年之楽乃至功徳所及利益不限抑返経有多文段其初文
如何

文小七年十月七日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

No. 2800

329

函号 冊

二校了

華嚴宗 枝葉抜萃 ㊦ 8P ○冊子本

(端書) 12P

○但シ本書ヲ抜スルコト十一月三十七日ノ条ニ見エ 8P

文永七 年十月 宸筆御八講信超大僧都同宗性前権僧正

向講演経中付説聲聞徳行余者今此聲聞可断煩悩障耶

答可断煩悩障也 ○下略

○但シ本書ヲ抜スルコト文永三年四月八日ノ条ニ見エ、マタ

○但シ本八講ノ記事ニツイテハ、続群書類従、第弐拾七輯下(巻第七百五十九)

「文永七年宸筆御八講記」ヲ参照スベシ。

文永七年 十月七日

昭和 32年 4月 17月測

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

330

函号册

表題

十一月三十七日 加定院二十代々宸筆御入講願文并記 (上) 公家 0冊子本

113
102
2-1

代々宸筆御入講願文并記 (上)

代々宸筆御入講願文并記 (上) 公家

寛平之年 延喜三年 天暦九年
長保四年 治暦之年 長治之年
安元三年

権僧正宗性

昭和 年 月調
宗性上人関係資料集原稿
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

331

函号冊

P

9P

(題) 6P

宸筆御経御入講并略記 6P

- 寛二年之年 宇多 8P
  - 奉為仁明并大后 非宸筆 8P
- 天禧 村上 8P
  - 奉為母后 8P
- 治暦之年 後冷泉 8P
  - 奉為後朱雀院 8P
- 安元三年 高倉 8P
  - 回 8P

- 延長三年 醍醐 8P
  - 奉為母后 8P
- 長保四年 一条 8P
  - 回 8P
- 長治之年 堀川 8P
  - 奉為母后 8P

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

330

函号 冊

P

寛平
御記云
○中略
8p

文孝天皇御願
仁治三年壬八月三十六日崩被果遂

嘉祥寺御願八講御願文
○中略
8p

才廣相作
8p

延喜
奉為母后亂子内大臣高藤公女
○中略
8p

扶桑略記第三十四
8p

延長三年八月二十三日
○中略
8p

作者在中弁藤淳茂
清書小内記小野道風
8p

天暦
御記云
8p

奉為母后穏子照宣公基経女
8p

扶桑略記第二十五
8p

(年譜)
宗性上人関係資料集原稿
8p

昭和 年 月調

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

330

P

9p

御願文 作者 清書 参議維時卿 8p

○中略 8p

天暦九年正月四日

同咒願文 作者同人 8p

僧名 八年十一月二十七日左大臣 参内前令宣 8p

初日朝二向、夕二向

二日 朝夕三向

三日 朝夕二向

四日 朝三向夕二向

證義者

年 月 日 昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

号 冊 (年譜) 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

331

（　　）

P

9P

大僧都禅喜　少僧都空晴

権少僧都實空　鎮朝

講師八人

律師延珠　勤三礼

觀理法師　延空法師已講

助精法師　玄慶法師

法藏法師　義昭法師

良厚法師

聽衆二十人

實厚　長璉　湛昭（法元）8P　長宇

實湛　安秀　義全　定昭

安鏡　藏祝　顯玄　房算

悟有　長雲　長燭　實隆

函号　冊

（年譜）

年　月　日

昭和　年　月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

335

P

（　　）

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年月日　昭和　年　月調

業叡　智興　千觀　聖救

梵音十四人

湛睿　昭覚　恵勤　淀妃　8P

着孫庇第一間

彼座北頭覚忍

着其座右

大仙　運日　淨蔵　貫敏　以上音頭　8P

手慶　昭春　明祚　幸観

仙静　寛静　能覚　安朝

陽雲　義性

錫杖十四人

圓賀　弘延　忠覚　春海　以上音頭

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

330

P

函号 冊

又果 辰應 春暹 遍教
務性 長敏 聖行 覚忍 注九 8P
朝慶 玄藝
威儀師
玄俄 勤仝 今経 俊又 論義 問判 唱導 詞
定座 法師 講師 弟子 取次 舎

已上以或記抄之、

私云 尊者錫杖衆各十六人之由、見扶桑記而如此記者、十四人也、可尋之、

年 月 日

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

337

P

函号 冊

5

10

15

20

25

春日
二条殿奉為母后 8p
東三条殿権子 8p
法興院殿 兼家女 8p

法華経開結 阿弥陀般若心経
紺紙金字 8p

神筆二巻第一第八 8p
中務卿具平親王二巻

左大臣二巻
右大弁行成朝臣二巻

中宮亮則忠朝臣二巻
開結阿弥陀般若心経 8p

御経 堺上下 畫金泥蓮華

長保四年十二月二十三日 東三条殿毎月御忌月也
僧名
九月二十四日 頭中将経房朝臣於御前定申
相副日時下左大臣大臣下左中弁扶孝
山野記云、左符於御前被定申云々 8p

證義者四人

© Hiraoka Shoshu

函 号 冊

P

初日朝二問夕三問

二日朝夕三問

三日朝夕二向

四日朝三向夕二向

前大僧正覚慶 山座主 8P 大僧正観修

僧 正 雅慶 東寺 8P 権僧正勝算

講師八人

権大僧都尭久 権少僧都定澄 南別當 8P

権律師 陝源 法橋 靜昭

明憲 澄心

林像 已上三會 已講 8P 慶命

年 月 日 昭和 年 月調

(年譜) 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

函 号 冊

P

聽衆二十人

仁盛 朝晴 已上東大寺 8P　清春　春穆 法花 8P

雅靜 義慶 8P　法昭　嚴勢　鞠頌

妙音 南 已上 8P　覚超　日助

明尊　遍救　妙尊 東寺 8P　增暹

慧壽　實擅　定基　定暹 已上天台宗 8P

梵音 8P　聖胤 同 8P　相筭 東寺 8P

慶筭 広隆寺 8P　慶有 延 8P　教靜 同 8P

康靜 清涼寺 已上頭 8P

貞宿 嘉祥寺 8P　雅筭 法性寺 8P

成失 同 8P　中圓 千光院 8P

義保 延 8P　研緣 延 8P

仁海 東寺 11P

成典 同 8P

年 月 日

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

函号 冊 (年譜) 宗性上人資料集原稿

3-10

P

錫杖 8P
慶命 近 8P 定湛 東 8P 久慶 近 8P 梵照 積善寺 已上 歟 8P
尋清 東 8P 加厚 尋圓 道命
圓緣 念源 念覚 近政
心華 嚴圓 已上 近 8P
威儀師觀峯 勤堂達 又分経 又漬御補経 之 8P

注 6P
第二日 阿源稱往 可到德境 殊有勅命仕 權少僧都 左府奉
仰召阿源仰云 又被仰并官 云々 小野云 此賞時人 文多 甘心 云々 8P
外記云 靜昭回叙法橋 云々 8P 8P

注記 今一人 康緣 云々 8P
不見僧名 頗以不審 藏人魯納 頭紙 枩苔 置注記 兩僧前 云々

© Hiraoka Shoshu

31

（　　）

P

函号冊

天暦例須従蔭次而着也、而音頭者依職掌着上卿也

○中略

御願文作者式部権大輔従衡朝臣

清書中務卿親王具平

8p

○中略

長保四年十月三十日

同供厥文作者同前　或従輔正等

8p

治暦後冷泉院奉為先帝後朱雀院

8p

○中略

御願文式部大輔実綱作

内大臣師房清書

8p

○中略

治暦元年九月二十日

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

312

P

回 咒願文 作者清書同上

祖暦 文事 九月三日

請僧三十一人 證匠三人 講師一人 聽衆三十人

證義者 山座主 前大僧正明快 僧正覚圓 權大僧都尋守

殿僧正 世尊寺大僧都

初日 朝座講師 勝範僧都 山階寺權別當 同着三人 惟尊 賴増 已上三井 8P

暮座講師 賴信僧都 同着三人 永厳 東 8P 行禅 念増 已上山 8P

第二日 朝座講師 聖憲 東大 8P

暮座講師 良秀律師 同着三人 長済 東大 8P 慶深興 8P

慶朝 山 8P

第三日 朝座講師 公範律師 同着三人 觀慶 清覚 已上三井 8P

暮座講師 廣等律師 同着三人 快覚 定範 已上三井 8P

(宗性上人研究会)

(年譜) 宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

函号 册

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P

第四日 朝座講師 華厳法橋 向着三人 脩尋興 明實 暹教 已上 8p

暮座講師 慶意阿闍梨 向着三人 隆禅 長禅興 已上 8p

已上以或記書出之、

一向 阿闍梨惟尊表白

二向 阿闍梨頼增表白 ○中略

○中略

已上 兩表白出秋桑記

慶意闍梨被経首句 字三昧阿闍梨欤、 8p

長治 堀川院奉為白石賢子 左大弁顕房公女 8p

函号 冊

P

（奥書）

文永七庚午年十一月二十七日巳時、於東大寺知足院草菴馳筆畢。去年之冬十月之初、太上法皇於亀山殿仙洞被始行宸筆御八講之時、被召南都北嶺諸寺名僧之中、宗性應其請擢、勤仕證義並第二座講師畢。一生涯之面目於焉満足。六旬余之愚老、為之思出之間、尋訪前規、為傳後代、借請圓城寺定円法印之本所書写之也。余算残少、黄泉之波雖近、稽古志深、金地之水染輸円跡之輩可哀其志而已。

右筆華嚴宗末葉權僧正 末

年齢六十九

夏臘五十七

年月日 昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

函号冊

31

P

澄

(奥書)

文永八年辛未三月十五日午時於東大寺知足院草菴馳筆畢

自去年冬之候至此春青陽之半普記置公家仙洞代々宸筆御八講旧記之次安元三年宸筆御八講之時公顕前権僧正證憲九僧都并睦律師啓白詞所記録也七旬之舛非不顧餘筆三餘之勤雖似無詮要被引宿習懇染翰後覧之輩可哀其志而已

右筆筆厳案書葉権僧正宗性

年齢満七十

夏臘四十八

末

文応元年十一月二十七日

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

函
号
冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

P 1

（ ）

（表題）不詳

「代代宸筆御八講願文并記」（下）

冊子本

12P 8P

113
102
2-2

天長三年　保延二年　康治三年
久安二年　同四年　仁平四年
文永七年

8P

代代宸筆御八講願文等記（下）　仙洞

9P 8P 8P

權僧正宗性

9P

文永七年十一月二十七日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

113 國
102 号
2-2 冊

317

P 2

9p

宸筆御経御八講并略記 仙洞 8p

嵯峨 奉為桓武 天長三年 8p
保書 非宸筆歟 8p

今不書入之非法華又非御八講之故也 3p

鳥羽 奉為白河金光明経供養 大治五年 8p

鳥羽 奉為皇后 康治三年 8p

鳥羽 奉為皇后 久安四年 8p

後鳥羽 於日吉 養久元年 8p

鳥羽 奉為堀川立部大衆講 仁平四年 8p

崇徳 奉為母后一品経御八講 久安三年 8p
保書 非宸筆歟 8p

鳥羽 奉為皇后立部大衆講 保延三年 8p

© Hiraoka Shoshu

113 函 102 号 2-2 冊

31

P 3

嵯峨院 奉為桓武天皇御筆法華経 8p
天長三年於西寺供養八巻日也

○中略 ○但シ願文ハ略ス 8p

天長三年三月十五 丁丑 8p 国史

○中略 8p

鳥羽院 奉為白河 8p

○中略 8p

五部大乗講 8p

保延二年六月八日甲辰天晴今日可被定御八講事云々 8p

○中略 8p

已上以民御記略抄之畢

鳥羽院奉為贈后被供養五部大乗経願文敦光朝臣作

○但シ願文ハ略ス 8p

保延二年六月十三日

文政七年十一月二十七日
昭和 年 月調
(年譜)
宗性上人資料集原稿
(宗性上人研究会)
© Hiraoka Shoshu

113 函 102 号 2-2 冊

(年譜) 宗性上人資料集原稿

昭和 年 月調

文永七年 十一 月 二十七日

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

31

P 4

鳥羽殿

近衛殿御宇

康治三年二月十六日 奉為 白川殿 祖父也 結縁経御八講 宰相 定家 卿 奉行

御願文 作者式部大輔藤敦光朝臣 清書権左中弁朝隆朝臣

○但シ、願文ハ略ス

康治三年二月十六日

崇徳殿

奉為母儀徘賢門殿 久安元年八月二十二日崩御

久安二年五月二十六日、於法金剛院被始修五日十座之講肆

御経一品経也 其内有 序品 鳥羽殿 并 崇徳殿 神筆 々々

御願文 文章博士永範作 定信清書

○但シ、願文ハ略ス

113 函 102 号 2-2 冊

351

P 5

久安二年五月二十六日　太上天皇御情撒白　8P

八島殿　奉為母后　久安四年六月十六日　於鳥羽殿造二座御八講被修之　8P

朝隆卿記略抄之　8P

久安四年六月四日　庚寅　8P　今日於　殿御方殿上被定来十六日　御筆御八講事

○略　8P

範家卿記抄出之　8P

十九日乙巳御八講第三日也、

○中略　8P

朝隆卿記具経之有無茎不分明之間抄出之畢

年月日　昭和　年　月調　（年譜）　宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 函 102 号 2-2 冊

351

（

P6

）

鳥羽殿　奉免堀川殿　8P

仁平四年三月二十一日於鳥羽殿五箇日被修五部大乗経　8P

三日也前日定供養御経仍六箇日也

御願文　式部大輔永範草之　清書参議朝隆　8P

○但し願文ハ略之　8P

仁平四年三月　日　弟子沙門　敬白

○中略

年　月　日　昭和　年　月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113 國
102 号
2-2 冊

352

P 17

9P

（奥書）

文永七年庚午十二月二十一日申時於東大寺知足院草庵馳筆畢去十月初太上法皇於亀山殿仙洞被始行宸筆御八講之時被撰召南都北嶺諸寺名僧之中宗性應其清撰記為之生前之面目存之老後之思出之間慶借求舊記普尋訪失蹤之次借請圓城寺定圓法印之本所書写之也倩顧斜筆等雖灑江淚於香衣之袂怒忍往事尚染毫於金地之水後覽之輩可哀其志而已

右筆華嚴宗末葉權僧正宗性

年齢六十九

夏臘五十七

文永七年十一月二十七日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

331

113 函 102 号 22 冊

8P

P 8

太上法皇奉為 土御門院自書写金字法華経
自文永七年庚午十月七日 卯刻 奉為 土御門院於嵯峨殿五箇日
被招修法華十講 和讃供養 ○下略 8P

御願文
○但シ、願文ハ略ス 8P

文永七年十月七日 弟子沙門 敬白

同御諷誦文
○但シ、願文ハ略ス 8P

文永七年十月七日 別當正二位行兵部卿藤原朝臣隆親 奉 8P

作者正二位菅原朝臣長成
清書 近衛前甫白

6年

文永七年十一月二七日

昭和 年 月調

(年譜)

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

113 函 102 号 2-2 冊

（ ）

P 9 7p

文永七年宸筆御八講第二座宗性前權僧正啓白詞

○但シ願文ハ略ス、 8p

文永七年宸筆御八講第八座定圓法印啓白詞

○但シ願文ハ略ス、 8p

（内題）

法華經顯應録上云 ○下略 8p

○中略

文永七年西園寺御八講第五座定圓法印啓白詞

文永七年 十一月二十七日

昭和 34年 2月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113 函 102 号 2-2 冊

P10

(奥書)

文永八年 未 正月十日 酉時 於東大寺知足院草庵馳筆畢

去年玄冬之末 今春青陽之始 親聆見聞 隨憶念而漸々記録之 傳聆借請 右輸墨而連々書写之 凡今度之御願者希代之珎事也 仍御講以後諸聆致警古也 後代若有宸筆御八講之時 必此等之規可存其故実者歟

右筆華嚴宗末葉権僧正宗性

年齢満七十一

夏臈四十八

文永七 三十一月三七日

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研〕

© Hiraoka Shoshu

113 函 102 号 2-2 冊

P 11

（綴目端書）

「三十 文永八年正月六日 於東大寺知足院草庵写之」

権僧正宗性

「定玉 文永八年 辛未 正月十九日 酉時 於東大寺知足院草庵書写之」

「文永八年 正月十日 於知足院草庵校了 権僧正宗性」

「文永八年 正月八日 時 於東大寺知足院草庵写之 権僧正宗性」

8ヶ

但し、宗性ノ従僧殿ノ土御門院四十ノ回忌法華十講ニ参ズルコト文永七年十月七日ヨリ修ニ見エ

文永七年十一月二十七日

昭和34年2月調

（宗性上人研究会）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

357

P 缺

111函 11号 1冊

文永八年辛未（一二七一） 8P 12P 10P

二月二十七日 知足院三于華厳経探玄記 十五 8P 12P

〇冊子本 111 11 1

（年譜） 七十歳 9P 資料集原稿

（表題）十ノ 6ウ

（表紙書）〇宗性自筆 6ウ

文永八年辛未二月二十七日時於東大寺知足院 6P

華厳経探玄記第十五 巻尾

（奥）

自世巻至世巻二合ノ相品残也 8P

（内題）

「華厳経探玄記第十五 9P 9P

魏国曇無讖奉詔訳」

此巻尽相海品 9P

十明品第廿三

権僧正宗性

文永八年二月二十七日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

44函 11号 1冊

2P

奥題

花界経探玄記巻第十五

同月廿一日申時一點了

第二貳年四月十七酉時於手掩辺書写了

執筆花嚴寺大法師 尊詮 生年四十五

願以書写功 往生安養國

法界衆生 平等利益

文51A 年二月二十七日 昭和 年 月調 (年譜) 宗性上人資料集原稿 (宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

No. 337 ~~2807~~

124 函 397 号 1 冊

350

P 1

124p

九月十七日 知足院ニテ有法差別短釋ヲ抄ス

【有法差別短釋】 ○冊子本 9p

124 397 1

(表題) 6ウ

有法差別短釋 尊勝院 8p

相傳公意 曉圓 8p

澄藝

(本奥書) 6ウ

寫本云

文永八年九月十七日 丑時 於東大寺知足院草奄安光明院權僧正覺遍之草同仕知足院法印良遍之訓旨加形草之早

生年五弟四童奄聖禪備都草之故弟五童已下所草之也同法

文永八年九月十七日

昭和 年 月調

宗性上人関係文書 原稿

© Hiraoka Shoshu

124 函 339 号 1 冊

330

P 9P

之中公暁擬得掌餘遂當年維摩会竪義并度性徒遂當年法
花会竪義之間為彼両人之竪義草此一向之短尺畢竟難相
兼之輩未代披見之人無不見今草而哀其芳事而已
右筆花嚴宇主葦而権僧正宇一性 年齢満七十
夏臘五十八 8D 8D

〔宗性上人研究会〕

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

文永八年九月十七日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

36

124 777 1

2

（本奥書）
正慶元年五月廿七日於東大寺戒壇院書写之早（朱）備考當年維摩会竪義也（朱）于時佐々目僧正頼助御寺務之相被改請也（朱）同廿九日以彼本一交早（朱）

擬得業学禅生年三十三

其年十月廿五日并陵礼仕了（朱）精義者二藏院法印範憲（朱）新精義也（朱）以外叢重無申量事也（朱）

大法師宗禅判

（奥書）（本奥書）
正和三年七月一日於東大寺三面僧坊西室実相院書之畢（朱）

志者為西南院曰明御問題講為仕也（朱）

大法師覚聖年数卒
夏腊卒

8P

文明八年九月十七日

© Kanazawa Shoshu

1586

340 2810

302

124
397
1

3

建武三年七月晦日於同寺尊勝院之内西殿書之畢（十一奥書）

（奥書）應永三年丙子八月四日夜酉刻於東大寺尊勝院南向西四間書之畢

月巨明講出仕依同法之讒、首尾両日之中、書之畢、書寫之志偏在佛法興隆之意許者也

花嚴宇主学賢□

花嚴宇主葉田海廿五才

原本校合了

文化八年九月十七日

© Hiraoka Shoshu

No.

二校了

P

383

十二月十日東大寺法華倉宣旨聽衆ヲ命セラル

（華嚴宗枝葉抄草」五

12P

〇冊子本

113
1
ワ-ヌ

（紙背文書）

8P

8P

僧綱

前權僧正

右依宣旨奉請自来十日被始行東大寺法華會聽衆

如件

文永八年十二月六日

（自置）従儀師相秀

（自置）威儀師嚴運

8P

○但シ本書ヲ按スルニ文永三年四月八日ノ奥ニ

© Hiraoka Shoshu

301

P

（ ）

[redacted]

（[redacted]）

（誓文書）

○法花會請定

可被用意法花會第四夜堅問事

所立聲聞賢聖義章

疏四種相違義

宰相已講奉　信盛遍得業奉

良舜得業奉　慶尊得業奉

賴遍得業奉

右請定如件

文永八年十一月　日

前權僧正　署

（署性）

6字

[redacted]

113
1
0

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和　年　月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

102 函 1 号 40-15 冊

P

文永九年申(一二七二)〔七十一歳〕

三月二日後嵯峨法皇三七日法會三十講ニ參ズ

〔大花嚴經隨疏演義鈔卷第八〕(上之) 高麗版 卷子本 8P

(奥書)

文永九年申 二月十九日 時 於嵯峨釋迦堂西大門之北邊

御願房往房借寄梅尾之本令經并疏加一見了 依法

皇勅事自去九日寄宿此房之間爲月末三日二日被始

行三十講所引見之了

嘉禎四年五月晦日 時 於東大寺中院奉傳之了 前權僧正宗性

沙門宗性

○但シ、本書ヲ見ルコト文永元年十一月七日ノ条ニ見ユ

文永九年三月二日

昭和34年3月調

(宗性上人研究会)

102
1
40-15

(年譜) 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

111 函 148 号 3-1 冊

P 1

（ ）

五月十二日 尊勝院ニテ五百問論ヲ讀ム

（五百問論）上 卅 0冊子本

111 148 3-1

（表題）↑6字

五百問論巻上

権僧正宗性

（内題）↑6字

五百問論巻上 一百廿問

毗陵沙門湛然述」

（奥題）↑6字

釋綵巻上

9P 9P

12P 12P

昭和三九年五月十二日

昭和三九年三月二九調

（宗性上人研究会）

（年譜） 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

307

P 2

111 函
148 号
3-1 冊

※（奥書）
開成四年六月於大唐台州国清寺日本新羅書寫此本
會昌三年三月二日付僧仁好等送上日本國近暦寺徒
衆大德三綱宿德耳
円載記上

大唐開成四年於台州天台国清寺日本新羅書寫此本
於本學天台人令和大師教迹勝過別宗学者知之

文九年 五 月 十二 日

（年譜）

宗性上人資料集原稿

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

~~1588~~

303

111
198
7-1

2

（奥書）宇性筆

[redacted]

文永八年辛秋之比自近石寺宇證法印之許借寄此書
曆

同冬之候挑當寺貞賢善厥房令書寫之畢

同九年孟夏之天挑宇或少輔公令一校畢

同五月十二日時于於東大寺尊勝院護摩堂南面新造内・所手

自書通詞字畢並興隆佛法勸学傳燈也 權僧正宇性

年齡七十一

夏指五十九

原本校合了

參ノ九年五月十二日

© Hiraoka Shoshu

111 函 188 号 3-2 冊

P 1

「五百問論」中 8P 12P

冊子本

（表題）↑6ヒ

111
188
3-2

五百問論巻中

權僧正 頼性

（表題）↑6ヒ

「五百問論巻中 9P 一百三十五問 毗陵沙門湛然述」

（異題）↑6ヒ

「五百問論巻中」 9P

文ふ九年 五月十二日
昭和 年 月調
（年譜）
宗性上人資料集原稿
（宗性上人研究会）
© Hiraoka Shoshu

111 函 148 号 3-2 冊

370

P2

（奥書）

文永八年秉秋之比自近曆寺宗澄法印之許借寄此書

同九年青陽之候誂當寺穀舜顕真房令書写之畢

同孟夏之天誂宗成少輔公令一校畢

同五月二十七日時於東大寺尊勝院護摩堂南面新学間所手自書直謬字了爲興隆佛法勸学傳燈也

権僧正宗性

年齢七十一

夏臈五十九

文永九年 五 月 十二 日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

111 函 148 号 3-3 冊

37

P 3

「五百問論」(下) 8P

12P

○冊子本

111
148
3-3

五百問論巻下

權僧正宗性

(内題) 6ウ

「五百問論巻(下) 8P

一百廿五問 毗陵沙門湛然 述」

(奥題) 6ウ

「五百門論巻下」

奈九年五月十二日

昭和34年2月調

(宗性上人研究会)

(年譜)

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

372

111 國 148 号 3-3 冊

P 4

（奥書）

文永八年、歳次辛未之比、自延暦寺宗證法印之許、借寄此書、
同九年、中夏之候、誂當寺毅巖顕真房、令書写之畢、
同晩夏之初、誂宗成少輔公、令一校畢、
同六月七日、字昭於東大寺尊勝院護摩堂南面新学問所手
自書直謬字畢、為興隆佛法勧学傳燈也、　權僧正実性
年齢七十一
裏書五十九

宗九年 五 月 十二 日

昭和 34 年 3 月 27 調

（年譜）
宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No.

函号冊

373

二校了 P

・文久九年 六月十四日

12P

六月十四日 知足院ニテ大智度論巻五十四ヲ讀ム

【大智度論】五十四 [redacted] ○巻子本 聖語藏

(表題) ↑6ヶ

9P

「大智度論巻第五十四」

釋第廿六品

(端書) [redacted] 「経第十二 自初三枚畢」

↑6ヶ

(奥書) ↑6ヶ

文永九年申 六月十四日 於東大寺知足院令拳経釋論之

料紙畢

權僧正宗性

昭和 年 月 訓

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

25

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

文永十年癸酉（一二七三） （年譜） （七十二歳）

三月十九日 璋円ノ筆写セル遺虚存実識並摂未帰本識抄 宗性

（表題）○宇性筆

「遺虚存実識並摂未帰本識抄」 ○巻子本 103/22/1

巻首表紙裏書

（表紙裏書）

此書者先師良遍法印先年被遣法華会竪義之時璋圓大僧都（于時得業）被記送之本也而去仁治二年冬十月十日夜實藝遂維摩会竪義之時摂未帰本題作一問宗性勤仕彼精義之間申出此抄未返進之前先師已令他界給仍此本自然所留此学窓也乎

文永十年三月十九日記之耳 権僧正宗性

文永十年三月十九日

© Hiraoka Shoshu

375

函号冊

P 1

（ ）

（年譜）

四月晦日、尊勝院ニテ倶舎論十講抄ヲ校ス、
（倶舎論十講抄）巻三十五 ○冊子本 （真福寺藏）

（奥書）
文永十年癸酉四月晦日 時未 終東大寺尊勝院護摩堂西廊
閑加之了、散在之書披見有煩故也、後賢之輩可哀其志
而已、

右筆華嚴宗末葉 權僧正 宗性

年齢七十二
夏臘六十

（奥書）
永仁第五之暦長月初三之天、於東大寺東室禪房敬奉
寫了、偏爲佛法興隆、兼稽古修學也、深恐外見堅可
祕之、

建十年四月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

373

P 2

三論宗沙門實叡

年廿二

夏六口

昭和 年 月調

弘十 年 四 月 日

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No. 1592
355 2819
377

（文引十四）

是月下旬八幡宮[redacted]去年分ノ倶舎三十講[redacted]之巻ヲ

明曼抄 三十五 8P 12P

○四子本

向、雖心痛意七種聲聞中、可有本得不動耶、答可有二義也、

（中巻）下 8P 9P

去四月下旬之候、於當寺八幡宮被行去年御分倶舎論

第二十四五巻三十講之時、慶実法師對信算法師初拳

此論疑問畢、宗性之結構也、

○但シ本書手枝入心ヲト、宝治二年二月四日ノ奥ニ見エ

8P

文引十年四月 卅

昭和 年 月調

[宗性上人研究会]

函号冊

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

122
72
15-14

© Hiraoka Shoshu

1594

373

七月三日 法勝寺御八講ニ參ズ 12P

〔法勝寺御八講内參記〕 12P ○冊子本

113
217
1716

卿 文永十年法勝寺御八講内參記 式日如例 8P

上卿 善勝寺大納言隆顯 奉行左中弁親朝 宮ア半

惣在廳 叡俊師嚴暹 公文 従儀師相秀

「證義者」 6ヶ半

前權僧正宗性 東 [redacted]

講師

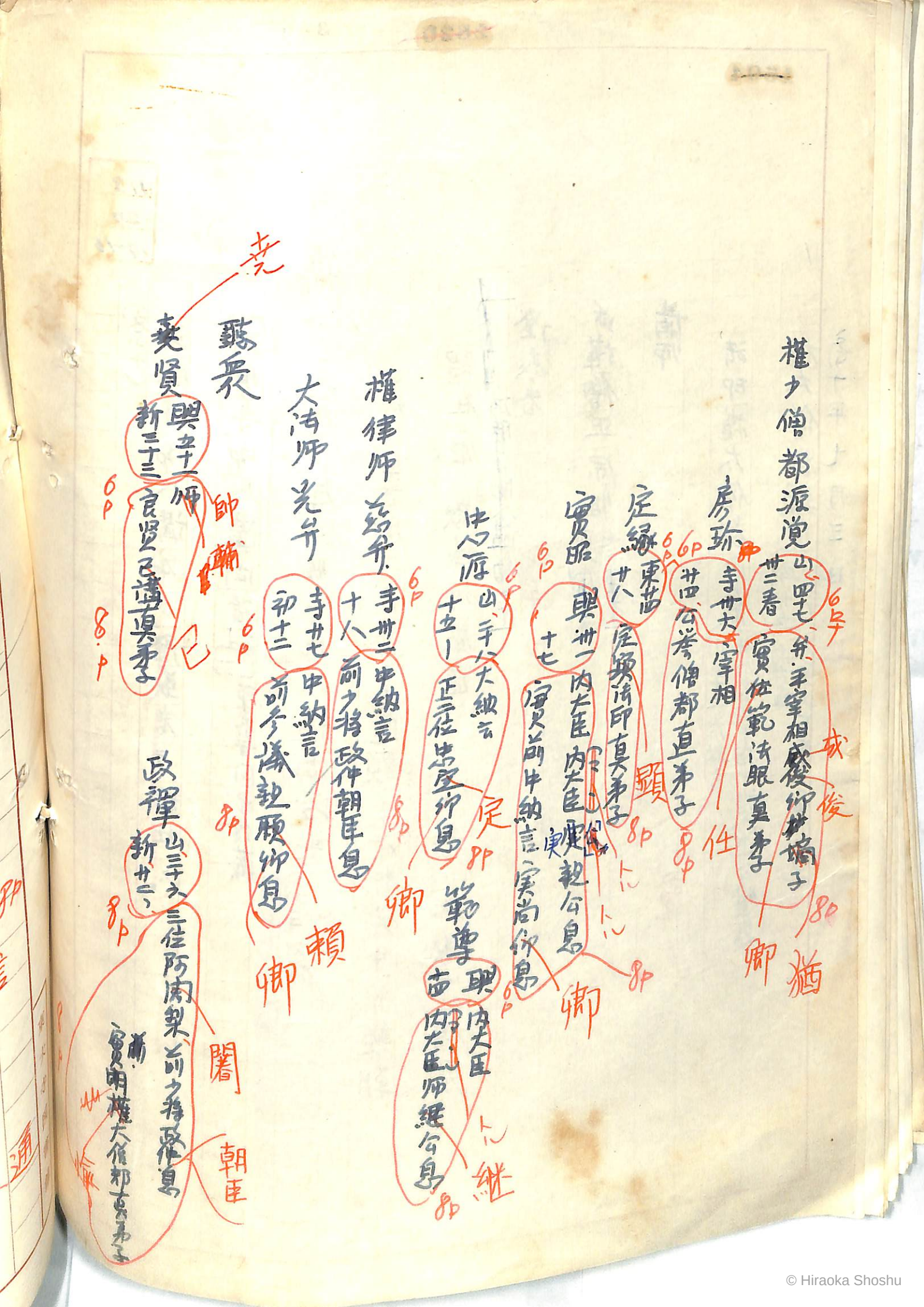
法印權大僧都實嚴 山五十三 大納言 卅八春 宰相中將人道公實息 實 賢 8P

權大僧都覺曉 卅五 内大臣 初手 入道内大臣具実公息 8P

文永十年七月三日 6ヶ半

東大寺図書館

© Hiraoka Shoshu


權少僧都源覺
寶治二年
實位範法眼真弟子
房玠
寶治二年
公參僧都直弟子
定緣東西
寶治二年
定與法印真弟子
寶昭
寶治二年
內大臣
權律師玄弁
寶治二年
大法師光弁
寶治二年
大法師
寶治二年
權律師
寶治二年
內大臣
內大臣師經公息
內大臣
寶治二年
內大臣
寶治二年
內大臣
寶治二年

1595

373

113
27
1946

2

文化十年七月三日

訴申之向、又止永雅被召公孝畢仁

權少僧都法眼 大法師

聽衆之中、無辨退仁、但罷公孝得業、雅被召永雅得業公孝、頗

辨退之處被召 庶

權少僧都法橋 光幷 畢仁

房玠 差幷 光幷 畢仁

信幷 大法師 頗去

本講清講師 退

實
卯
輔
春
輔
御
卯
輔
卯
輔
卯
輔

~~1595~~

370

113
27
19-16

2

実儀 興廿七 中納言得業 言
十七 言基律師 真雅

今春 興廿三 大納言得業 耕
二十三 入道大納言空海弟子 卿

公観 寺廿三 兵部卿内侍 卿
十春 言応実 隆仰旨

房信 廿四 阿闍梨 輔
九一 左 兼権頭季宗朝臣

権少僧都実深 深

退 本講清講師

辞退之處被召 房玄 光幷 寿

聴衆之中無辞退仁、但罷今春得業雖被召永雅得業今春頗

許申之向、又止永雅被召今春畢仁

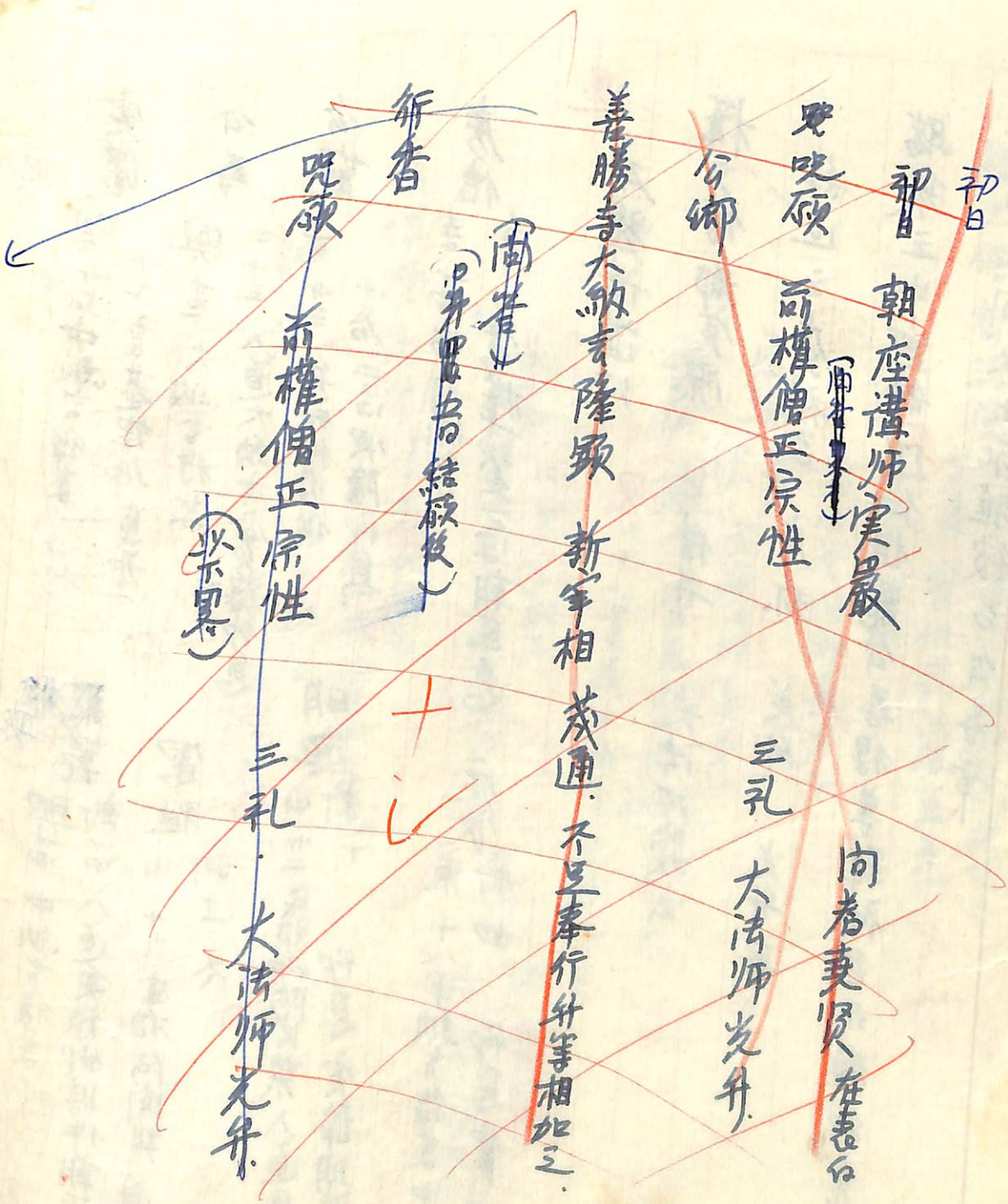
承和十年七月三日

憲雅 山三十九 宰相阿闍梨 直世宰相中将
新十四 入道兵部卿時仲朝臣息 部 卿 闍
新十 冬 猫柄子

明超 山廿三 民部卿阿闍梨、入道民部卿弟子
新十 仰旨 実誓 明法印 真雅

定恵 東十八 中納言得業 中納言経俊 業
新四 仰旨 實 卿

© Hiraoka Shoshu


初日
朝座講師實最
唄次頌
前樽僧正宗性
(開白)
公卿
三礼
大法師光幸
向着妻戸在書台
善勝寺大納言隆親
新宰相 成通 不足奉行幷宰相加之
(開着)
(早出居結願後)
行香
呪願
前樽僧正宗性
(裏)
三礼
大法師光幸

380

函号 冊

（ ）

初日 朝座講師 寅房 由着変賢 在表白 實 ㊞

咒願

前権僧正宗性 三礼 大法師光弁

公卿

善勝寺大納言隆親 新宰相教通 弁

不足奉行弁等相加之 弁

（年譜）

承元十年 七月 三日

昭和 年

© Hiraoka Shoshu

359
2823
1598
381

3

文政十七、七、

第二日

暮座講師雅覚　　向者実儼

朝座講師房玠　　向者[illegible]範

暮座講師空統　　向者雲雅

第三日

朝座講師実昭　　向者今観

暮座講師忠源　　向者今寿

第四日

朝座講師範尊　　向者房信

暮座講師為弁　　向者空快

第五日

文政十年七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1597~~

382

文永十七、七、

十朝在講師之弁　尚者明遍超

結座講師顕覚　尚者政禅

陞叡者云講尚倶御願初令也雖須重加難用叡慮結座

令々也鐘 云々 8p 願

8p 咒

行香

先願　前権僧正宗性　三礼　大法師之弁

令仰 卿

大次

土御門大納言信嗣　前平宰相成俊　別當道教

新宰相茂通　不足奉行弁　岡崎刑部卿仰 卿

三河守頼藤

供養法

文永十七年七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

1536

361 2825

383

5

文治十七

一、御布施　岡崎刑部卿　三河守頼藤取之畢、

一、御導師　大法師房信、

一、御願文　三位中将時実作之、

一、御導師　大法師房信、

一、御布施　岡崎刑部卿　三河守頼藤取之畢、

一、堂童子

一、今仰

初日　如行香

第二日

左大弁宰相資実宣

第三日

土御門大納言通頼　藤中納言伊頼

第四日

左京大夫行房　中納言御門三位

文治十年七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

P

結日 加行香 8P

（奥書）

文永十年癸酉七月二十四日酉時於東大寺尊勝院以両面々問者所記送之本書写之畢 老耄之身今度御請不處也存外也雖須申辞退為法究御請之間憖所参勤也然間直對十口之聽衆弄取両條之論義依為老後之思出自記其座之問答後覽之輩可哀其志而已

右筆華嚴宗末学權僧正宗性

年齢七十二

夏臘滿六十

8P

○但シ問答ノ要文ハ之ヲ略ス、マタ宗性ノ法勝寺御八講問答記ヲ披スルニ、貞應元年三月九日ノ条ニ見ユ。

文永十年七月三日

（宗性上人研究会）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

~~1605~~

113
28
8-17

諸勝寺御八講内答記　12P

文永十年

諸勝寺御八講僧名

講師

證義者

前權僧正宗性　東七十二　七六十

權大僧都實叡

權大僧都顯覺

權少僧都尊覺

寺主　房玘　宰相

聽衆

實叡　權律師　基真弟子　十七

政禪　三位　兼勘解由長官　廿二

幸覺　左中將　廿二、廿三

範　兵部卿　勝仲朝臣　十四　十四

中納言得業

中納言得業

侍從得業　十七

卿

輔

興

○冊子本

113
28
8-17

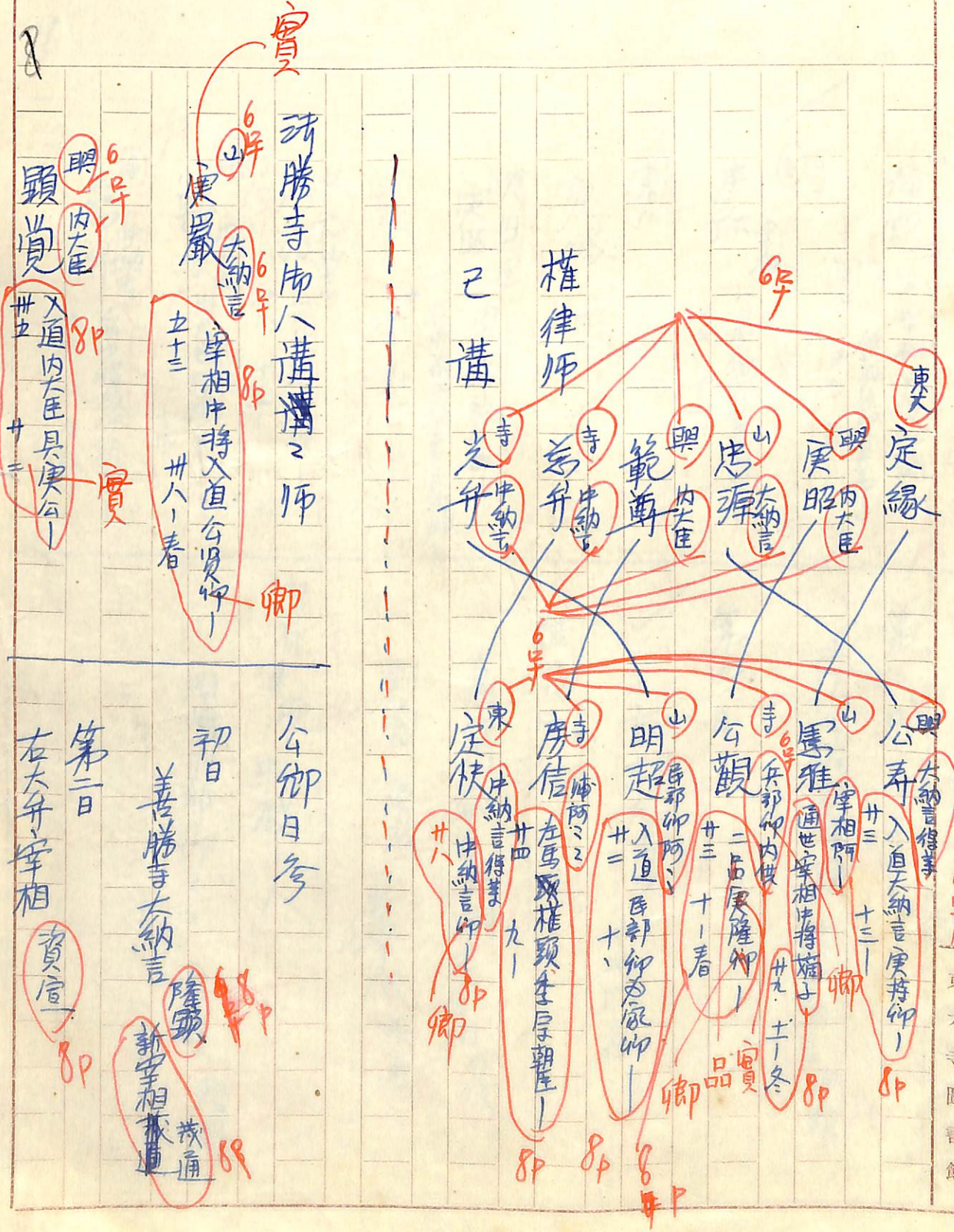
文永十年七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1601~~

386

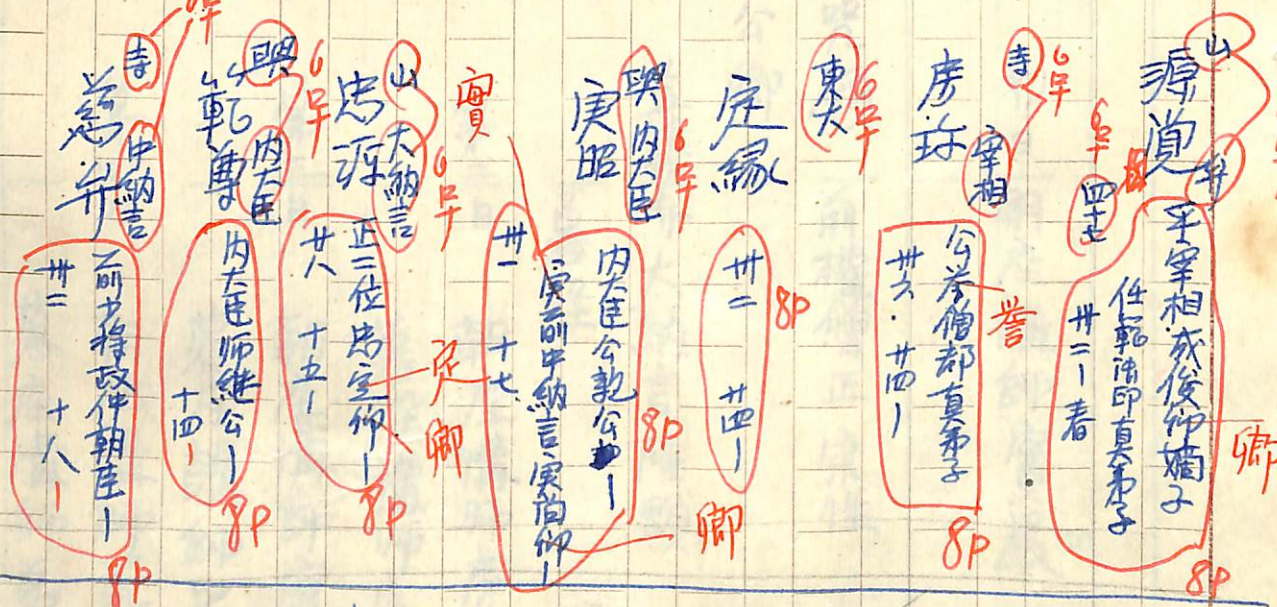


© Hiraoka Shoshu

~~1602~~

387

9



第三日

左大弁行宗 8P
中御門権中納言

第四日

結願日

中御門大納言通頼 8P
藤中納言伊頼 8P

別當通頼 8P
新宰相 敦通 8P

大政御門大納言信嗣 8P
平宰相 薨後 8P

御有職 布綿
取殿上人
陰陽頭仰云々 三河守 頼親 8P
卿

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

383

P（ ）

初日 朝座講師實嚴 向着光覺（賢）在表白

咒願 前權僧正宗性 三礼 大法師光幷

公卿 善勝寺大納言隆顯 新宰相 蔵通 不足奉行幷葦相加之 8P

暮座 向着實儼

第二日 朝座講師房珍 向着聡範

暮座講師定縁 向着憲雅

第三日 朝座講師實昭 向着公觀

暮座講師忠源 向着公寿

第四日 朝座講師範尊 向着房信

暮座講師尭幷 向着定快

© Hiraoka Shoshu

P

第五日 朝座講師光幷 向者明超

結座講師 顕覚 向者政禅

證義者云講向、俱御願初参也、雖須重加難

用疑趣結座參々也、鐘、

行香

呪願 前權僧正宗性 三礼 大法師光幷

公卿

左御門大納言信嗣 前内大臣宗平相政後 別當通教

新宰相教通 不足 奉行幷 岡崎刑部卿

三河守頼藤

供養法 法印權大僧都實巖 例時調聲 大法師房信

御布施 岡崎刑部卿 三河守頼藤取之畢、

© Hiraoka Shoshu

函号 文永一〇
冊
(年譜)
宗性上人資料集原稿
年 月 日
昭和 年 月調
(宗性上人研究会)

300

P 1

【讓千慶実法師聖教目録】 12p

○冊子本 陽明文庫

(表題)

讓千慶実法師聖教目録

權僧正宗性

© Hiraoka Shoshu

No. 1

口問聖教事 口口 (文永) 十年 (西紀) 口月九日

口実相傳書 菩提口第一

探玄記第十四巻尋要抄草一帖

探玄記第十五巻尋要抄草一帖

探玄記第十七巻尋要抄草一帖

新四季講勘文抄第七草建長四年 一帖
繋之

華嚴宗文義抄草本一々帖

華嚴宗文義抄草本二一帖

華嚴宗文義抄草書損本一々帖

南都仏教原稿用紙（200）

© Hiraoka Shoshu

華嚴字文義抜書抜 冊二 一帖

華嚴字枝葉抜草冊一 〃帖

華嚴字枝葉抜草冊二 一帖

華嚴字枝葉抜草冊三 一帖

華嚴字枝葉抜草冊四 一帖

華嚴字枝葉抜草冊五 一帖

華嚴字香華抜草冊一 一帖

華嚴字香華抜草冊二 一帖

実弘 相傳書 唐横冊三

華嚴字論義抜一帖

南都仏教原稿用紙（200）

© Hiraoka Shoshu

No. 3

華嚴宗雜論義抜　一帖

探玄記修門抜一帖

探玄記第五巻大慶抜一帖

探玄記第五巻三十講問答記一帖

探玄記第六巻義決抜上中下三帖

探玄記第七巻義決抜第二帖

探玄記第七巻新論義抜一帖

大般若品目一帖

探玄記第七巻三十講多論義抜二帖

探玄記第七巻抜二帖

© Hiraoka Shoshu

No. 4

搜玄九卅十二卷略斷簡一帖

搜玄記卅十二卷拔一帖

搜玄記卅十三卷拔

搜玄九卅十三卷三十講分論義拔一帖

搜玄九卅十四卷尋求拔卅三帖

搜玄記卅十五卷古題拔下上中三帖

探玄記卅十五卷大慶拔一帖

搜玄記卅十五卷尋求拔一帖

搜玄記卅十六卷古題拔一帖

搜玄記卅十一卷卅十六卷三十講分論義拔一帖

夏龍滿六十

© Hiraoka Shoshu

No. 5

揮毫記 沖十七卷義決抜 沖二 一帖

揮毫記 沖十七卷古題抜 之帖

揮毫記 沖十七卷尋求抜 一帖

揮毫記 沖十七卷抜 一帖

揮毫記 沖十七卷三十講多論義抜 一帖

離世間品疏演義鈔尋求抜 一帖

探玄記 沖十八卷尋求抜 一帖

揮毫記 沖十八卷尋求抜 欠帖

揮毫記 沖十八卷抜 一帖

疏演義鈔略要文 四帖

© Hiraoka Shoshu

四十華嚴經疏抄一帖

普賢行願品別行疏抄一帖

華嚴経唯心義鈔一帖

華嚴經経唯心偈抄

実叉相傳書唐横第四

五教章下卷 心識章 種性義 抄 一帖

五教章下卷 行位章 所依身章 抄 一帖

五教章下卷 斷惑義 抄 一帖

五教章抄 (44) 一帖

南都仏教原稿用紙（200）

© Hiraoka Shoshu

No. 1

大方廣教　一帖

華嚴大要教一帖

起信論教上下二帖

起信論疏周口書一帖

因教斷惑鈔一帖

初即不隨并智障(ママ)斷信鈔一帖

藥勝院四季講問答記一帖

藥勝院四季講論義抄二帖

因覚経大疏抄要文上中下三帖

因覚論談義要文一帖

© Hiraoka Shoshu

No. 8

鞭

田覚経心鏡要文一帖

各論抜一帖

梵網経香象疏文集一帖

梵網経古迹下本文集一帖

梵網経義疏文集一帖

金剛般若賛述要文一帖

首楞厳経疏要文抜一帖

心地観経疏要文抜一帖

P
年 月 日
夏龍満六十
昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

No. 9

毗尼論再支抽集一帖

見諦覚知抄一帖

見諦覚知抄 華厳倶舎 一帖

文殊師利菩薩慈應抄一帖

虚空蔵菩薩慈応抄一帖

八不深趣抄一帖

調伏意楽抄一帖

幽暗弾心抄一帖

菩薩断無明罪科記 梅尾御草 一帖

口正口集 梅尾御草 一帖

P

年 月 日

夏龍満六十

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

No. 810.

婆沙陀天傳 梅尾物草 一帖

口温義林 尾草 一帖

口宇抜一帖

梅尾上人物語并義相大師給御詞 一帖

管見口抜 一帖

成事 華非真 一冊 実積院

秋季世勢講用意抜 一壹職 成事非真 一帖

秋季世勢講抜 一壹職 成事非真 一帖

法華経文宝疏抜 序品之處 一帖

法華経文宝疏抜 方便品 奥卷處 一帖

夏龍満之十

南都仏教原稿用紙（200）

© Hiraoka Shoshu

No. 11

口口抄 方便品 異譯處 一帖

法華經文句疏抄 卷二處 一帖

法華玄贊音訓 寅諦教相 并表身章 一帖

五字目錄 一帖

諸雜章疏目錄 一帖

無我集 一帖

法印御房御物語記 一帖

日華嚴結緣記 一帖

大疏上卷 宝勝疏義抄 一帖

大疏中卷 寶勝疏義抄 一帖

南都仏教原稿用紙（200）

© Hiraoka Shoshu

No. 12

肇要義斬宝勝義抜 一帖

大疏義斬文集一帖

有法自相短冊一帖

P

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

（奥書）

文永十年酉（60才）八月九日（癸巳）（62才）以此等書籍、嚫与慶俊法師訖。慶俊法師者、為多年之門弟傳燈之思不浅之間、所嚫与之也。即華嚴宗為相大乗教抄出、嚫与慶俊俱舎論為本、小乗部抄出、嚫与慶性、相互無摂心有其要之時、借写之、可令披見可許書写也、凡此抄出者、或為自抄之草本、或為他人之筆跡、依非指重書不留置院家相傳、院家之輩更不可致其妨、若有背此契状、致其妨之輩者、魂殺他界四訓、必可与彼人之罰状如件。

右筆華嚴宗末葉前權僧正康性 畫

年齢七十二

夏臘満六十

© Hiraoka Shoshu

文永一〇

（ ）

P

十一月 定顕得業ノモトデ、文永十年九月制符ヲ記ス。

【文永十年九月制符】 ○巻子本 陽明文庫（三五七五一）

（表題）

文永十年九月制符

権僧正宗性

（奥書）

文永十年中冬之候、自定顕得業之許、所書写送也。

口此制符可備亀鏡也。

傳領権僧正宗性

（年譜）

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

~~4004~~

函号册

文永十一年法勝寺御八講問答記 ○冊子本 (七十三歳)

七月三日法勝寺御八講ニ參ズ (一三七四)

(法勝寺御八講問答記)

文永十一年法勝寺御八講問答記 貳冊

上卿 土御門大納言定實 奉行 左少弁棟望

勾在廳 咸儀師嚴運 公文 從儀師相秀

證義者

東大寺前別當前權僧正宗性(八東)

講師

法印權大僧都靜明(山)

法印權大僧都靜明 定円(寺)

權大僧都 實恵(東)

權少僧都顯尊(興)

文永十一年 七月三日

113 217 17-17

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

信弁 ま 8

権律師 孝快 心 初 8

為弁 三 ま 8

大法師 実顕 興 初 8

實 房暁 ま 8

實 康昭 興 8

實

聖衆 6号

幸尊 寺四九 新四四 6号

實

憲述 山三五 新十三冬 6号

宇相阿闍梨信起法印孝

信承法印真孝 8P

實

実験 興三五 新十 6号

大納言為氏卿息 卿

憲勝 山十九 新七 6号

中納言阿闍梨実尚法印孝

實 8P

經圓 山三二 新六 6号

中納言阿闍梨実尚法印孝

中納言経俊卿息 實 8P

卿 闇

宗

尊玄 興三六 二十五 6号

信顕 興三六 二十一 6号

内大臣雅忠公息 業 通

8P 8P

輔

定快 東十九 二五 6号

中納言雅定卿息 卿 8P

業

頼弁 ま三一 新七 6号

内大臣師継公息 継

實俊 ま三 新十 6号

押小路阿闍梨実伊法印

弟子 言

内大臣阿闍梨隆弁僧正

弟子 8P

輔

輔

入道中納言教季卿息 卿 8P

入道内大臣通成公息 8P

© Hiraoka Shoshu

400

P

本請講師

法印權大僧都性豊　權大僧都実深　權少僧都寛信

性豊　範尊　大法師覚弁　寛信　実深　寛信

性豊督静明　実深督覚弁　寛信督快　範尊督覚弁

覚弁之中無辞退仁

辞退之条被静明覚弁快豊実深覚弁之中

覚弁実深被召之畢

© Hiraoka Shoshu

373
2834
1606
407

3

文治二年七月三日

第二日

文治二年七月十一日

初日

座 朝座講師靜明 問者宗親 在座

一座證義者云御願證義者兼講師之時值重難者例

也 鐘 訖 卯

今日出仕令仰 御

輔 土御門大納言定実 實

前中納言経房 二条宰相中将経良

此四人也而朝座之間多被延引土御門大納言一人

許被相残之間依令仰数少行者不被行之

暮座講師実慧 問者幸尊 御

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1607~~

403

4

文化十一年七月三日

朝座講師聽荼　向者雲忠

暮座講師信弁　向者実聰

第三日

朝座講師実昭　向者実俊

暮座講師尭快　向者空快

第四日

朝座講師房暁　向者雲勝

暮座講師尭弁　向者経円

第五日

朝座講師実聰　向者頼弁

一座證義者云講問但出蓮座為御硯為紙筆上能

文化十一、七

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

~~1608~~

403

5

答也鐘 ニテ 8P

座 蒼座講師宅円 尚者信駅

一座陵轢者 ニ御厩結座者重難者雖 ヘ 為重科之

雖被挙之 ヘ 前 詮如形重可難申之 ニテ 仍有重難答歟

必参急也

呪 行者

兎厩 前権僧正宗性 三礼 大法師実顕 實

分卿 卿

土御門大納言定実 卿 土御門大納言通親 平宰相成俊

不足用崎刑部卿範長相加之 左衛門督

行者以前被遁出畢

文治二年七月三日

© Hiraoka Shoshu

~~2836~~

~~1609~~

410

6

文政十一年十月三日

第二日

今御 御

初日 如上記之

供養法 權少僧都公嚴 例時梵音 大疏師經圓

御講衆中信弁僧都 題名未定 灌頂 孝尊 經圓

雖為已 灌頂仁同淺膚也 仍御密講衆之外被修人畢

嘉祥三年道顯已講未遂灌頂勤仕此役

華嚴宗之人修御講衆其間有其沙汰

仰布施證義者之分 刑部卿範長取之次々 講師并聽衆

覆 置取之了

今年 御幸無之 服履之後當寺 臨幸之初先例為修

正時故也云々

東大寺圖書館

~~2837~~

~~1610~~

411

立辻三位茂範　新宰相頼執

第三日

匡部仰伊頼（卿）　大炊御門宰相中将冬輔

第四日

西園寺大納言実兼　平宰相成俊　新宰相実冬

結願日

土御門大納言定実（實）　土御門大納言通頼（通）　左衛門督

平宰相成俊

原本校合了

文治十一年七月三日

© Hiraoka Shoshu

2835

1611

412

8

御入溝聽衆年戒俗性

[redacted]

寺 幸尊 新四九 世四一 兵部阿闍梨 6ヲ

興 宗親 二〻廿九 十五 師得業 輔 6ヲ

山 實相房 信超法印弟子 新廿七 十三一冬 6ヲ

愚忠 信業法印真弟子 6ヲ

興 信顯 廿九 十一 内大臣得一 6ヲ

興 実聖 新廿五 十一 大納言得一 6ヲ

父道内大臣通成公一 6ヲ

大納言為世卿一 6ヲ

御 6ヲ

御 6ヲ

9p

文和十一、七、三。

文和十一年七月三日

東大寺圖書館

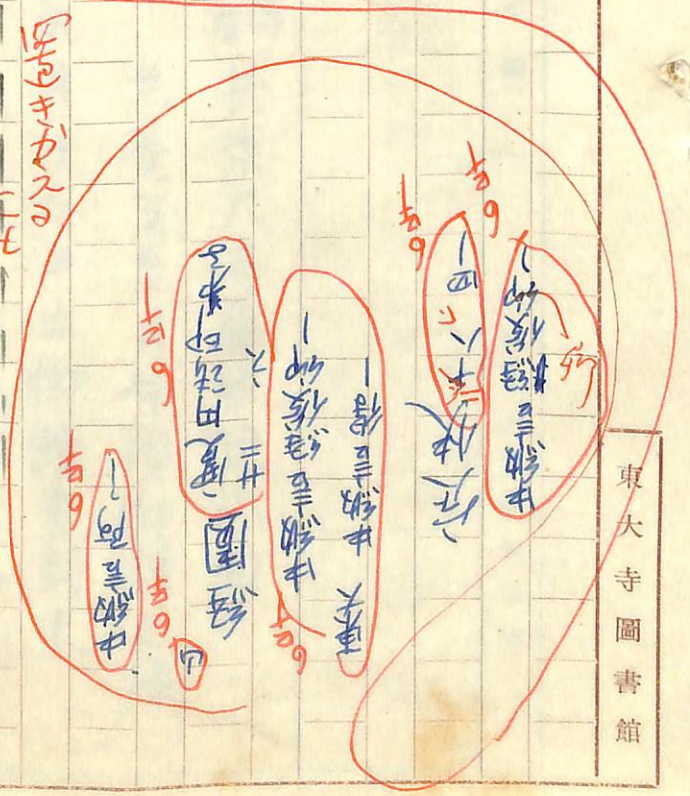
© Hiraoka Shoshu

文明十七年三

6字 ま 授摩訶こ 6字
実俊 実伊訶印事
輔 6字 新廿一十一 6字
烟中納言雅言卿 御

6字 山 中納言雅 6字
雲 勝 新十九 実実法印事 6字
聖憲法印真事 賢

6字 ま 6字
頼升 内大臣・阿こ 6字 子
隆昇僧正事 6字
内大臣師継公 6字
継



原本校合了

文明十一年七月三日

東大寺圖書館

© Hiraoka Shoshu

113 函 27 号 12-17 冊

（奥書）6年

文永十一年甲戌七月十九日酉時於東大寺尊勝院以面々
向着所記送之本書写之畢　老耄之身去年預御請之條
頗為存外況於今年哉而去六月十八日亦御請書到来
凡於今年者飢饉之天也出立難合期竟老之今行歩不容易仍不
及猶豫翌日十九日進辞退状畢而同二十二日被降別　御教書
其状云法勝寺御八講證義事存別忠可令快参之由被仰下
候也仍執啓如件

六月三十一日　　権右小弁雅憲

謹上　大安寺別當僧正御房

年月日　昭和　年　月調　（年譜）　宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

415

（　　）

P

重蒙此仰之間即日進領状恐前労勤也不肖参仕後学啓発之今度亦為結究当仕之次第可謂冊論然間直十対口之聴衆尋取両条之論義依為先後之思出自記其座之問答後賢之輩可哀其志而已

右筆華厳宇末葉椎僧正宗性
年齢七十三
夏龍六十一

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P

九月二十八日ヨリ 山城國海印寺本堂ニテ白氏文集ヲ校シ始ム。

「白氏文集」残闕 一冊子本 「聖語藏」

（奥書）

第五十 文永十一年（甲戌）九月二十八日（時）於海印寺本堂千手觀自在尊御前始校要文畢

權僧正定性

文永十一年九月廿八日書之了

「五十一ノ十二」

「五十二ノ三」

文永十一年九月晦日書之了

「五十三ノ三」

九月晦書之了

12P 12P 6P 9P 6字 6字 8P

© Hiraoka Shoshu

113 函 228 号 1 冊

九月晦日山城國海印寺本堂書寫校訖

P 1

「白氏文集」斷簡 一冊子本

（題目端書）↑6字

8P

「五十一之六 文永十一年九月晦日酉時 於海印寺本堂佛前

抄之」

權僧正宗性

集云 憶舊遊舊遊安在哉 ……（以下略）8P

（内題）↑6字

第五十三

6字

知晨霞（此後在上部作）

知我年三百

嘗新酒

順之琴者 8P

（題目端書）↑6字

「五十二之一 文永十一年十月朔日時於海印寺本堂書之 宗性」

嘗新酒

順之琴者

宗性上人資料集原稿

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（ ）

投太子賓客歸洛（自此後并東都作）8P

酬集賢劉郎中對月見寄兼壕之淅東

日長

（贈詩端書）↑6P

「五十二之三 十月一日書之」 8P

三月三十日作

安穩眠

六年寒食洛下宴遊贈馮李二少年（編目端書）↑6P

「五十二之四 十月一日書之」 8P

閑夕 唐本夕 8P

© Hiraoka Shoshu

P 3

9p

6号

（題）「第五十三」 8p

（題）「五十三之五 文永十一年十月一日於海印寺寓書之了」 8p

（題）「五十三之一 文永十一年十月一日書之了」 8p

（題）「病中書事」

（題）「自感」 8p

（題）「春題湖上」

（題）「雪中即事寄微之」

（題）「夕日題卷後對寄徽之」

（題）「殘十八員外以新詩三十五首見寄郡樓月中偷翫通」

（題）「宗性」

（題）「宗性上人」

（題）「宗性重」

（題）「（題目端書）」 6号

（題）「（題目端書）」

年 月 日

昭和 34 年 3 3加調

© Hiraoka Shoshu

P 24

天竺寺送堅上人歸廬山
當題天竺靈隱兩寺

(綴目端書) ↑6字
「五十三之二 十月一日抄同書收之了」
訴訶洛有感
春光一
訪皇甫六
(綴目端書) ↑6字
「五十三之三 文永十一年十月六日於海印寺本堂書之了」
(内題) ↑6字
第五十四
池上早秋
聞行簡賜章服喜成長句寄之

© Hiraoka Shoshu

P 5

新栽梅
歲暮寄敬之三首
（題目端書）
「五十四之一　十月二日書之」
三月二十八日贈周判官
城上夜宴
蓮石
眼病三首
（題目端書）
「五十四之二　十月二日書之」
題報恩寺
自田公益寺次楞伽寺作
又首

（年譜）

© Hiraoka Shoshu

P 5

新栽梅
歲暮寄敬之三首
（題目端書）↑6字
「五十四之一　十月二日書之」
三月二十八日贈周判官
城上夜宴
蓮石
眼病三首
（題目端書）↑6字
「五十四之二　十月二日書之」
題報恩寺
自田公益寺次楞伽寺作
又首

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113 函 22 号 1 冊

（綴目端書）

五十四之三　十月二日書之」

寶暦二年八月三十日夜夢後作

于夢得同登樓靈塔

（奥書）

文元十一年甲戌十月二日酉時於海印寺本堂十一面觀自在菩薩之御前書出之畢此間器觀音御廚子所寄宿此勝地也

權僧正宗性

（内題）

第五十五

（奥書）

建治二年丙子九月十四日申時於海印寺本堂千手觀自在尊御前始抄要文矣

前權僧正宗性

年 月 日 昭和 年 月調
（年譜）
宗性上人資料集原稿
© Hiraoka Shoshu

113 函 228 号 1 冊

P 17

初到洛下閑遊
新昌閑居招楊郎中兄弟
浪山寺獨遊
登觀音堂望城
和劉郎中傷鄙姬
（綴目端書）6字
「九月十四日書之了」
杏園花下贈劉郎中
伊洲
恨詞
送敏中歸邠寧幕
（綴目端書）6字

年 月 日
昭和 年 月調
（年譜）
宗性上人資料集原稿
（宗性上人研究会）
© Hiraoka Shoshu

121

9P

「二 九月十五日書之了」 8P

人定

池上

池窓

花酒

春風

題目端書 ↑6ウ

「三 九月十五日書之了」 8P

宿栄陽

題道泉上人十韻 并序 8P

寄唯之監

薄材 「五十二之四 九月晦日抄海印寺本堂書之了」 8P

題目端書 ↑6ウ

於

© Hiraoka Shoshu

425

P 9

4P

落花
掩鏡吟
耳順吟 賡敦詩夢得
憶舊遊 賡劉蕖洲
（題目端書）↑6ヒ
「五十七之五 文永十一年八月晦日書之了」下
（内題）6ヒ
第五十六
和集招張司業宿
和劉郎中望終南秋雪
冬夜閑坐
送令孤尚書赴東都留守
（題目端書）↑6ヒ
「九月十七日書之了」

8ウ 8ウ

年 月 日

（年譜）

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

435

P 10

對酒五首

僧院花

老戒

惜落花（題目端書）↑6ウ

「五 九月十七日書之ㇾ」 8ウ

老病

琴酒

結之 文郎名耳 1ウ

寄劉蕡洲（奥書）↑6ウ

秋云 力命殿事可思之、（題目端書）↑6ウ

秋思

年 月 日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 函 228 号 1 冊

秋思 ―
（題目端書）↑6字
七日 九月十七日書之」
（内題）↑6字
第五十七
弋申歲暮詠懐 三首 呈三宰相後便
清長告罷官
答趙六
對鏡 ―
即事 ―
哭微之二首
（題目端書）↑6字
「九月十七日四条宮力命殿傳来作、并
八月 九月十八日書之」
哭微之二首
宿龍潭寺

9P
8P
8P
8P

© Hiraoka Shoshu

P12

9p

天壇峯下贈楓拙翁事

鉢塔院五大師 師年八十三登壇度律、凡六十年
8p 受菩薩於師處授八開齋戒者九度

(愚目端書) ↑6行

「九 九月十八日書之」 8p

神照上人 忠以說壇
爲仏事

自遠禪師 遠以無爲
爲佛事

宗實二人實郎焚同空子
指定位妻子出家

清閑上人 自蜀入洛於長壽寺說法度人

禪秘思

(愚目端書) ↑6行

「十 九月十九日書之」 8p

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

A20

113 函 22 号 1 冊

P13

9p

自覚
（題目端書）↑6字
十一 八月十九日 書之了」
8p

僧問
向僧
難
難
對
（題目端書）↑6字
十八、十月廿六日於神郡本寺尊勝院書之了」
8p

第六十
穎州重玄寺法華院石壁経碑文
0倶ニ、本書ハ、残欠ニヨリ、異書ハナシ↑8p

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

二校了 P

9P

十月十六日 法花会開題供養義 由者役予定々、
筆屋嚴字香筆 枝草 ○冊ヶ本 113/61
冊（約背文書）

可被用意法花會第二夜堅義由者事
三論宗 所立 聲聞賢聖義章
疏四種相違義

勤精房擬講「奉」 順長上座「奉」
證尊得業「奉」 永覺得業「奉」
經榮得業「奉」

右件由者役可被用意之状如件

文永十一年十月十六日

前權僧正「宗性」（自署）

文永十一年十月十六日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

431

二校了
P

（ ）

可被用意陳花儀初夜並義同者事

三論宗　所立　聲聞獨覺義章　疏四種相違義　8P

八圓房擬講奉　經玄得業奉　8P

英禪得業奉　經實得業奉　8P

賴遍得業奉　8P

右件同者仅可被用意之狀如件

文永十一年十月十六日

前權僧正「宗性」（自筆署）

© Hiraoka Shoshu

No. 2841

43

建治元年 正月中旬

9P

P1

6P

12P

8P

10P

8P

8P

8P

9P

8P

8P

12P

12P

12P

12P

正月中旬山城高山寺ニテ華嚴經傳記

建治元年[redacted]

[redacted]乙亥(一二七五)四月二十日改之[redacted](七十四歳)

書写ス

華嚴經傳記卷第一

(表題)

華嚴經傳記 一

○巻子本

但シ、軸表紙ハ紺紙ニテリ。

但シ、外五巻マデ、内題ノ下ニ著者相異ナル故略ス

今ニシテ、

華嚴經傳記卷第一

(巻首)

(巻末)

華嚴經傳記第一

(内題)

京兆堂福寺僧沙門法藏集

文永十二年乙亥正月中旬之候、多聽聞立教章三十溝暫栖

鳥梅尾高山寺之處、自彼寺住侶惠月房弁清之手、借得華

嚴傳五巻點本之間、喜悦銘肝之餘、下向南都之後、誂能書

之輩令書寫此傳之内當巻者、表誂中川寺蓮房、裏誂春

誂

函号冊
宗性上人関係資料 原稿
(年譜)
昭和 年 月調
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

No. 2843

433

函号冊

P 7

9p

6字

日山麓四恩院願君房覚去、令書写之、彼院家院主如圓房朝海、令付假名并指姓畢、此假名姓裏書者、土御門大納言入道殿之所記錄也、即以彼禪門自筆之懸本写之、而為無雙之證本也、而已、

文永十二年也

建治元年乙亥五月二十六日、時於東大寺尊勝院、卯刻、

台宗本等秦讀之畢、前權當正宗性聽衆、

慶寛法師　賢性法師談義之後、即於當院家、執學問、

竹溪後覺記之、

台筆本厳宗未葉愚老僧宗性

建治元年正月中旬

昭和　年　月調

〔宗性上人研究会〕

宗性上人関係資料集原稿

(年譜)

© Hiraoka Shoshu

431

P 3

9P

437

函号冊

9P

P 4

卿

「華嚴経傳記」 12P

○巻子本 4P

103
78
5-2

（表題）

「華嚴経傳記巻第二　權僧正宗性」

（奥書）

文永十二年乙亥正月中旬之候為聽陳五教章三十講暫栖
息梅尾高山寺之處自彼寺住侶惠日房并清之手借得華
嚴傳五卷點本之間喜悦銘肝之餘下向京都之後誂能書
之筆令書寫此傳之内當卷者誂中山本淨房阿闍梨令書
寫畢仍令書寫之也番日山麓四恩院院主如圓房朝海
令付假名并指姓畢此假名姓裏書者土御門大納言入道
卿顕定之所記録也即以彼禪門自筆之點本寫之可謂無雙

建治元年正月中旬

昭和　年　月調

（年譜）
宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

之證本也而已、

文永十二年也 6字

建治元年乙亥五月二十八日 6字 時申 新 於東大寺尊勝院針弥勒堂

合字本奉奉讀之畢前權僧正宗性 アヽ判 聽衆 良暁得業、

談義之後即於當院家林坊 新 問所學後覽記之、

右筆華嚴宗末葉桑門信宗性

年齡七十四

夏臈六十二

抑此料紙者去文永三年之暮秋九月之候後嵯峨天皇 前

許降賜也不慮之 朝恩面目隨餘身之間 漸々取出之以

字如此之要書耳、

建治元年正月中旬

No. 2846
437
P 6

華嚴経傳記 巻第三 權僧正宗性

（奥書）

文永十二年乙亥正月中旬之候爲聽聞五教章三寸講暢梅尾高山寺之處伺彼寺住侶惠月房并淸之手借得厳傳之差點本之間喜悦銘肝之餘下向南都之後誂能書之筆令書寫此傳之内當光者表誂仲川淨覺房朝廣裏誂春日山麓四恩院領忍房覺玄令書寫之彼院家院主如圓房朝海令付假名并指姓畢此假名姓裏書者土御門大納言入道顯定卿之所記録也即以彼禪門自筆之點本寫之可建治之年正月中旬

（表題）

華嚴経傳記 三 ○巻子本

103
98
5-3

函号冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
［宗性上人研究会］
© Hiraoka Shoshu

~~2847~~

~~1619~~

433

7

為無雙之證本也而已

文永十二年也 6字

建治元年 6字

乙亥六月一日時未 於東大寺戒壇院 新

本尊奉讀之畢 前權僧正宗性聽衆 二字ナキ

慶安壬申

談義之後 即於當院 新 勘學院 所 遂後覽記之

年齡七十四

夏臘六十二

右筆華嚴宗末葉 亜相僧宗性

所抑此料紙者去文永三年之暦暮秋九月之候後嵯峨天皇 所

所降賜也不慮之 朝恩面目 寫 更餘身之間 漸々取出 之 以

寫 字如此之要書耳

建治元年晋中旬

No. 403 2848

430

函号冊

P 8

華嚴経傳記 四

（表題）↑6ウ

○巻子本

103
98
ふ4

華嚴経傳記巻第四

9P

9P

權僧正宗性

（奥書）↑6ウ

※

文永十二年乙亥正月中旬之候為聽聞五教章三十講暫栖
恩梅尾高小寺之處自彼寺住信憲仁序并清之手借得華
嚴傳五巻點本之間喜悦銘肝之餘下向南都之後誂能書
之輩令書寫此傳之内當巻者表誂當寺下野公瞻惠令書
写之假名并姓誂同宿大史公慶令付之裏書者華厳
四月二十五日酉時於東大寺尊勝院北廊誂眼暗手振猶
勵拾螢之勤怒記飛鳥之跡
畢校老耄之間雖眼暗手振猶勵拾螢之勤怒記飛鳥之跡

建治三年正月中旬

（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
［宗性上人研究会］
© Hiraoka Shoshu

耳此假名性悉書者土御門大納言入道顯定之所記録也

即以彼禪門自筆之點本學之可謂無雙之證本也

文永十二年也 6字

建治元年乙亥六月四日時午於冏院家仆新勘堂合字本等奉

6字

讀之畢

前權僧乙宗性

聽衆 良曉得業 慶実法師

談義之後即於當院家仆新堂問所爲後證記之

右筆蕚嚴宗未葉行道僧宗性

自齡七十四

夏臘六十二

所

卿

所

新

所

新

所

新

113
昭
98
号
5-1
冊

44

P 10

寫如此之要書写

5

10

15

20

25

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和　年　月調

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

No. 2850

412

P11

函号 冊

華嚴經傳記 五 ○巻子本

103
98
5-5

華嚴經傳記卷第五　權僧正宗性

（奥書）

文永十二年乙亥正月中旬之候為聽聞五教章三十講幷經過
栂尾高山寺之處自彼寺住侶惠月房奈清之手借得華嚴傳
五卷點本之間書悅銘肝之餘下向南都之後誂能書之輩令
書寫此傳之内當卷者表誂當寺下野公瞻惠令書寫之假名
花姓誂同東大寺勝院（宿禰證公慶性）令付之裏書者同年四月晦日申時於
東大寺尊勝院新學問所手自書寫之畢已及八旬之齡雖倩
三餘之勤為備生前之思出塵勞老後之修學後學拔見之時
可哀其志矣此假名姓裏書者土御門大納言入道顯定卿之所

建治元年正月中旬

昭和 年 月 調

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

413

P12

記録也 即次従禅門自筆之點本字之可為無双之證本也

建治元年乙亥 六月廿日午時 於當院家新弥勒堂合写奉等奉讀之畢 頗以此五巻抜読之微功 正為彼三會得脱之良因耳

前権僧正実性

聽衆 良暁得業 慶雲法師

談義之後 即於當院家新学問所 為散後日之不審 委記當時之次第而已

右筆華嚴宗末葉沙門釋実性 年齢七十四 夏臘 六十二

建治之年 月中旬

© Hiraoka Shoshu

411

P13

抑此料紙者、去文永三年之暦、暮秋九月之候、後嵯峨天皇御降臨也、不慮之、朝恩面目煩餘身之間、漸々所出之、以写如此之要書、以資前陰之御菩提、以祈、法皇之御得脱、冥衆亜聖哀愍、所願早成就矣、

暦（年譜）

冥心

建治之年晋中旬

函号冊
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

31

415

P

113
223
1

六月四日、尊勝院新孫勧進堂主（年譜）華嚴宗論義抄ヲ抄ス

「華嚴宗論義抄」　〇冊子本

〇但シ表紙ヲ欠ク

（奥書）「六ヲ六ノ（尊勝院）

同年六月四日ヲ時於同院家新孫勧進堂令写本奉讀之了

前權僧正　宗性

聽衆　良経得業　慶賀法師

談義之後書了、於同院家新学問所必後覧記之、

文永十年
孟春晋

建治元年　六　月　四　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No.

416

二校了

9P

建治二年三月十日

函号冊

三月十日 尊勝院新堂并華嚴経十二加奥、

（大方廣佛華嚴経（十一）80P 〇巻子本 12P）

（本奥書）↑6年

（奥書）

文永十二年乙亥三月十日 於東大寺尊勝院新堂付属引

料點點畢

徳治三年二月廿三日 於東大寺三面僧坊西室実相院写

之畢

前権僧正宗性

覺聖

12P

15 納 235

第

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

417

113 函 88 号 1 冊

八月二十日 山城笠置寺般若院ニテ地持論指示抄ヲ抄ス

「地持論指示抄」 一冊子本

113 88 1

地持論指示抄

權僧正宗性

（原題）

「地持論指示 建治元年乙八月二十日時午於笠置寺般若院始之」

（奥書）

建治元年乙八月二十一日時申於笠置寺般若院僧房東端下抑悲決記錄之了

建治元年 八月二十日

昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 函 88 号 1 冊

P 2

内題

「地持論載記第一之上」

（奥書）

建治元年乙亥八月二十二日酉時於笠置寺般若院僧房東端

始之、

（奥書）

建治元年乙亥八月二十二日酉時於笠置寺般若院僧房東端

建治元年乙亥八月二十二日酉時於笠置寺般若院僧房東端記之畢、抑年来之間所回宿力命丸去四日戌時許於興福寺林小路辺無前謂被殺害畢、悲歎之至非言語所及、即去四日晩卯時於東大寺般若山以火焚之、同六日朝今日於彼遺骨置之、而南都於事未休、定仕觸恐怖之間同九日

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

113 函 48 号 1 冊

410

P 3

曉麗入當山於此聖跡致其追修即轉五句之向處始三時之勤每七箇日於彼勤堂勤修一座追善然間云云暮景云云追修善雖無片時寸陰之暇日来於本寺前借置此書於今者他住隱遁之黒思徒必無用仍領返送本寺之間所記毫厘處也後覧之輩可恣其志而已

右筆筆處宗本葉前權僧正宗性

末

年齡七十四

貞應元十二

建治元年八月二十日

昭和 年 月調

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（ ）

P 4

（題目端裏）6ウ

8P

「第五　八月廿一日書之了」

「第一　八月廿日書之了」

「第二　八月廿二日書之了」

「第三　八月廿三日書之了」

「第三之末、建治元年八月廿四日書之了」

「第四　八月廿二日書之了」

「第五　八月廿二日書之了」

年 月 日

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No. 2856

451

頭号 冊

（真題）

P 1

（表題）但し、表紙等ハ紺紙ナリ。

華嚴宗祖師傳 上

（裏書）華嚴宗祖師傳卷上、 紙品會并

華嚴宗祖師傳卷上

華嚴宗祖師傳 上 8P ○巻子本

103
97
2-1

九月十四日山城國笠置寺般若院ニテ、華嚴宗祖師傳ヲ抄シ始ム、

建治元年ノ晩夏之比、自華洛之西、栂尾之中、高山寺惠日房并靖之許、借寄此書之點本畢、點本殊為大切之間、當寺者、表誂東大寺住侶下野公瞻惠、令書寫之、裏誂春日山藤四郎院住侶顯忍房覺玄、令書寫之、即誂彼院家院主如圓房朝海、令付假名、并指墨、此裏書假名并墨者、土御門大納言入道卿之所記錄也、次彼禪門自筆之點本寫之、可為無雙之證本也而已、

建治二年九月十四日

以

〔宗性上人研究会〕

宗性上人関係資料集原稿

山 41—604

© Hiraoka Shoshu

453

冊

P 2

建治元年九月十四日

奉

抑去八月四日巳時6ウ筆來同宿兒童力命丸全無所誤於彌勒寺林中路辺殺害畢悲歎之淚潤袂遮墓之思銘肝之餘去八月九日出東寺入當山於此般若院僧房修其百箇日追善訖昨日已滿百日今夕聊得其隙之間悲其功之終淚底所記錄之也後覽之輩可哀愍之矣

同年十一月十六日申時6ウ於筆墨寺般若陰西端僧房記之

右筆筆嚴案前權僧正宗性

年齡七十四

裏書 文千二 寫

建治二年正月十日申時6ウ丙於東大寺尊勝院新孫勤堂合字本

聽衆 良暁得業 宗性得業 慶実法師 前權僧正宗性

連讀之畢

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集原稿

（年譜）

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 2858
458
P 3
建治元年九月十四日
昭和 年 月 調
〔宗性上人研究会〕
冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿

抑此料紙者去文永三年之暦暮秋九月之候後嵯峨
天皇所降賜也不慮之朝恩面目煩錬身之閏漸々取
出之以写如此之要書耳

© Hiraoka Shoshu

No. 2859

函号 8冊

華嚴宗祖師傳 下

（表題）○但し、本表紙六紙共紙継ぎ紙なり。

（内題）華嚴祖師傳卷下

（奥書）

建治元年乙亥晩夏之比、自華洛之西、栂尾之中、高山寺恵日房并清之許、借寄此書之処、本軍黙本殊為大切之間、當巻者表訛謬務寺住侶性現房成奥令書写之、裏訛者春日山葉四恩院住侶顧思房覚云令書写之、即訛彼院家院主如円房朝臣令付仮名并指姓畢、此裏書假名并姓者、土御門大納言入道顕定卿之所記録也、次彼禪門自筆之黙本写之、而為無雙之證本也而已、

柳去八月比日時分来同宿児童力命丸全無所誤、於無務寺抹香路辺被殺害畢、悲歎之涙潤袂、悪業之思、銘肝之餘、

建治元年九月十四日

103
97
2-2

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

455

函号 册

去八月九日出本寺參籠笠置寺般若院日々修三時之行法念々祈先人之得脫之陳 同九月十四日酉時於當山般若院僧房記之 後覽之輩可哀可悲乎

右筆筆嚴案前權僧正宗性

末世

年齡七十四

裏書云二

建治二年丙子 6ヒ十 正月十六日酉時於東大寺尊勝院新弥勒堂合写

本奉讀之畢

聽衆 良曉得業 實玄得業

慶性法師 賢性法師

寶

抑此料紙者去文永三年之暦暮秋九月之候 後嵯峨天皇昇遐賜也 不慮之朝恩面目頗餘身之冥 疎々而取出之 以

建治之年 九月廿四日

昭和 年 月調 [宗性上人研究会]

宗性上人関係資料集原稿 (年譜)

© Hiraoka Shoshu

No. ~~2861~~

450

画号冊

P

字如此之要書矣

5

10

(年譜)

15

宗性上人関係資料集原稿

20

25

建治之年 九月十四日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

3

© Hiraoka Shoshu

No. 2862
457
函号册
P
(年號)

十月三日 [redacted] 山城笠置寺三尸華嚴授法記香薑抄
[redacted] 授ス。

華嚴探玄記香薑抄 (本奥書) 6ウ
(字末云) 6ウ
建治元年乙亥十月二十二日酉時於笠置寺般若院因之 6ウ
連房抄之了。
同去春三月十七日、於東大寺尊勝院以探玄記第五卷為究
文、勤修三十講畢。自同廿三日雖始寫卷抄出、老耄退法、病患
侵身之間、至二秋比、不經其功之處、同八月卅日夜半、多年同
宿兒童力命丸、於學窓寺林小路、不圖遇災難、無過被殺害之
間、悲慕之悲淚潸袂、追修之佛善銘肝之餘、同九日曉、急出南
都中院、菜龍當山此砌、日々修追福之善根、公々被亡者之菩
提之陳、悲其功不終、口口所深第也。願以此微功、俾資彼解脫而
已。

淚底

建治元年 十月廿二日

金沢文庫藏

12P

昭和 年 月調
宗性上人関係資料集原稿
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

No. 2868

456

函号 冊

P

5

10

右筆蓮敬宗主葉前權僧正宗一性

年齢七十四

15

寡鶴六十二

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

20

25

建治三年十月二十二日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

2

© Hiraoka Shoshu

No.

113
7号 1冊

二校了

「華嚴宗香薫抄」(一) 8P 12P

〇冊子本

《表題》

華嚴宗香薫抄第一 9P

樺僧正宗性 9P

(内題) ↑6行

「華嚴宗香薫抄 第一」 9P

(端書) ↑6行

「嘉祢四年十月擇玄記第四巻三十講 宴栄得業問恵賢得業」

「文永九年三月擇玄記第四巻三十講 宗明五師問幸源」

「建保五年十月擇玄記第四巻三十講 仁弁五師問弁曉得業」

「建保五年十月擇玄記第四巻三十講 尋恵得業問尊玄僧都」

8P

昭和 年 月調
(年譜)
宗性上人関係資料集原稿
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

No.

二校了
P 2

460

113 函 8 号 1 冊

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

（單）

「永萬元年十一月探玄記第四卷三十講并深因勝遍」

業」

8P

「文永九年三月探玄記第四卷三十講聖禪僧都因信禪擬講」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講賢惠因盛辨」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講宗信因賴兼」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講快辨阿闍梨因良辨得業」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講良辨得業因快辨阿闍梨」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講聖禪僧都因信禪擬講」

9P

「文永九年三月探玄記第四卷三十講栄兼得業因賴兼得業」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講賢清得業因宗顯得業」

「文永九年三月探玄記第四卷三十講信盛得業因宗覺法橋」

今此論義者去嘉祿四年十一月被行探玄記第四卷三十講之時并滅因得業対宗性得業就此論義其座愚答之趣也但未生決智也」

9P

昭和 年 月調

［宗性上人研究会］

© Hiraoka Shoshu

8P

「文永九年三月探玄記第四巻三十講菩賢得業向慶或得業」
「嘉祐四年十一月探玄記第四巻三十講聖禅向幸藝」
「文永九年三月探玄記第四巻三十講慶性向永賢」
「文永九年三月探玄記第四巻三十講信盛得業向宗覚法橋」
「文永九年三月探玄記第四巻三十講尊源向賢恵」
「文永九年三月探玄記第四巻三十講慶或得業向菩賢得業」
「文永九年三月探玄記第四巻三十講宗顕得業向賢清得業」

© Hiraoka Shoshu

402

二校了

P 6

奥書

建治之年乙亥十二月二十八日酉時於笠置寺般若院僧房校之畢

去正二月比於康大寺尊勝院経論之文人師之状所記録之也而自同三月十七日以拙文記第五巻為先文欲勤修三十講之間暫閣第四巻[redacted]稽古即終第五巻習学之間此勤中純文中冬未終同八月四日夜多年同宿児童力命丸於興福寺林小路不慮遇災難無過被殺害之間南都心憂覚隠遁思想相催之間同九日暁忽辞本寺幹房奉籠當山聖跡日々修道善念々訪冥路之障悲微功之不終重新染筆也願以此善根併資彼得脱矣

右筆華厳宗末葉前権僧正宗性

年齢七十四

昭和 年 月調
宗性上人研究会
宗性上人関係資料集原稿
函号 冊
(年譜)
© Hiraoka Shoshu

No.

463

函号 冊

二校了

8P

(綴目端書) ↑6字

月

「十二月十五日書之了」

「十二月廿九日書之了」

「建治二年二月一日校正之了 遠原」

「建治二年四月六日書之了」

「二月十日書之了」

「十二月廿三日書之了」

「十二月廿五日書之了」

「十二月十七日書之了」

「十二月廿七日書之了」

「十二月十八日書之了」

「十二月十九日書之了」

青書焔也」

二日

給置寺

書

十九日

十二月廿六日書之了」

夏籠六十二

昭和 年 月調

(年譜) 宗性上人関係資料集草稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

P 1

〔華嚴香薫抜〕四 ○冊 子本 大東急文庫 (153)

(表題)

華嚴香薫抜第□四

永牙元年ヨリ 建治二年迄ノ記録

乾元二年七月写之

明卅三迄 七百三十二年ト成「乗」

(端書)

「嘉禎四年十一月捜玄記第四、三十講藏円得業、向宗ノ性得業」

(奥書)

建治二年丙子五月十三日時神於笠置寺般若院房初週

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P 2

愚案而記録之

前權僧正宗性

年齢七十四

夏臈文十三

（奥書）↑6ヒト

建治三年丁丑夏四月十八日 注送状云 定円

（端書）↑6ヒト

「文永九年三月 撰玄記第四局三十講、慶安得業向定暁得業」

8P

此論義者、去ル建長元年七月参勤最勝会院中八講之時、

9P

宗性対座暦寺僧円法印一疑之、其座講答之趣大略如此、

爲知頑徳所存之旨、憶念法事ノ所記録ニ、且ハ此事委細文

義難答如花厳宗枝葉枚第七ノ篇章欤有其煩之間譲

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P 3

彼抜、者略之事

瑞書

「文永九年三月探玄記第四巻三十講賢請得業向字顕得業」

此論義者去嘉禎四年中冬之候於本寺尊勝院被行探玄記第四巻三十講之時宗性得業向藏田得業之疑也古未

奥書

本未見此疑今度始所結構也

写本云

建治二年丙子五月二十五日記於笠置寺般若院ノ僧房

抜之畢探玄記第四巻者依憑去文永九年三十講宛

文曰出其時之誓古集尺之纔注當座之愚推彼向答是

偏依在當宇之紹隆不顧後輩之誹謗也

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

（　　）

P 六

函号冊

抑去年四月四日　皇童力命丸告別之後至今日雖送三百十八日之光陰、恋慕之思添色、悲歎之涙無乾、方捧此修学傳燈之恵業、偏所彼先人聖霊之得脱於越一佛浄土之弟不変遂再会於兜率之月、三會値遇之志無打、定口一口於龍花鶏足之露、乃至親疎利益平等遠近諸度普及而已

右筆花嚴字未葉前椎僧正尽（性）

年齢七十五

夏臘六十三

（奥書）

乾元二年七月十八日於泉州久米多寺下坊書写了

是偏依當宇尊昌、祈り衰徴ヲ歎ク、不顧要筆、以本書寫之、仰願花嚴洛倉一切三宝、哀愍愚僧志、令成就、當宝興隆弘通大願給耳

（宗性上人研究会）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

493

函号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

P 5

（　　）

執筆花嚴字末学 功門秋集空

生年廿一才

年月日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

403

函号 冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（　　）

P 5

執筆花嚴宇末学 功門秋集空

生年廿一才

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No.
409
P 1

113
昭
7
号
1
冊

「華厳宗香薗抄問題并日記」 12P
(表題) ↑6ヒ
冊子本

華厳宗香薗抄問題并日記 9P

權僧正宗性 9P

昭和 年 月調
(年譜)
宗性上人関係資料集原稿
113 7 1
[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

No.

470

113 函 7号 1冊

（奥書）

香薗抄 第一奥日記

建治元年乙亥十二月二十八日酉時於笠置寺般若院僧房抄之畢去正二月比於東大寺尊勝院経論之文人師之釋肝記録之也而自同三月十七日以探玄記第五巻爲元文欲勤修三十講之間暫閣第四巻謬古即移第五巻習学之間此勤中絶及中冬末然間同八月四日夜多年同宿兒童力命丸於興福寺林小路不圖遇災難無過被殺害之間南都心憂覺隱遁思相催之餘同九日暁乃辞本寺幹房葬籠當山聖跡日々修追善念々訪冥路之隙悲微功之不終重肝染筆也願以此善根併資彼得脱矣

右筆花嚴宗末葉前權僧正宗性

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No.

471

113 函 7 号 1 冊

P 3

年齢七十四
夏臈六十二

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

113 函 7 号 1 冊

二校了 4

9P

（奥書）

6字

奮董勘弟二與昌記

建治二年丙子後三月十日曉於望置寺般若院僧房勘之畢

抑去年八月四日夜多月同宿兒童力命丸於興福寺林小路不圖遇災難唯被裁害之向南都心憂在之餘墳墓卜此山之向自去年八月之比常籠居當山此聖跡訪童冥路之隙不忘昔勤所勵今功也重児七児七告別之後今日雖當二百四十四日遙暮之思添也色悲歎之淚無乾然而且宛先人之追福且存當宗之興隆摺墨染筆軍文記義仰願聖靈迴向無貳逸往詣於安養兜率之雲祈請有誠期再會於龍華

建治之 年十 月二十二 日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

（年譜）
宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

473

二校了

P 5

113 函 17 号 1 冊

鶏三之月乃至法界平等利益而已

右筆花嚴宗末葉前權僧正宗性

年齢七十五

夏蘿六十三

建治元年十月二十二日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 頌 7 号 1 冊

474

二校了

P 6

建治元年十月二十一日

昭和 年 月調

華押

（奥書）

香蓮抄第三奥日記

建治二年丙子五月二十五日聊於笠置寺般若院之僧坊抄之畢探玄記第四巻者依多古文永九年三十講宛文因出其時之誓古集秩文纔任當座之愚推記問答是偏依在當宗之紹隆不顧後輩之誹謗也抑去年八月四日鬼童力命丸告別之後至今日雖送三百十人日之光陰恋慕之思添色悲歎之涙無乾方捧此修治燈之惠業偏祈彼先人聖靈之得脱於戯一佛淨土之契不変也必遂再会於安養聖衆之中三月三会値遇之志無拠定結一紙於龍華鶏足之露乃至証蹤陳利益平等

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 函 7 号 1 冊

475

二校了 P17

遠近濟度、普及而已

右筆華嚴宗書葉前權僧正宗性

年齡七十五

夏臘六十三

書之年十月二十二日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No. 2870

113 函 7 号 7 冊

二校了 P 8

（奥書）

香華抄第四奥日記

建治之年歳十一月三十日酉時於望置寺般若院之連房抄之畢自去春三月十七日於東大寺尊勝院以撰玄記第五巻為定文勤修三十講畢自同二十三日雖始當老懶遍病遇侵身之間至于秋比不終其功之處同八月四日夜多年同宿兒童力加丸於興福寺林小路不図遇災難無遁被殺害之向毒蕃之悲涙閑袂追修之作善銘肝之條同九日暁忽出南都菩房葬舞當山古砌三業一心之誠專其志百日三時之行終其勤之業今思出微功之不終涙底

建治之年十月二十二日

舊

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

113 函 7 号 1 冊

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

474

二校了

建治之年 十 月二十二日

昇筆也 願以此善根併資彼得脱矣

右筆花嚴字未葉前権僧正宗性

年齢七十四

夏蘆六十二

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

473

二校了 10

（奥書）

香隆抄第五奥日記

建治之年記 十月二十二日酉時於笠置寺般若院之庵房抄之畢 自去春三月十七日於東大寺尊勝院以探当記第五巻必定文勤修三十講畢 自同二十三日雖始當巻抄出老耄追沈病患侵身之間至于秋比不終其功之處同八月四日夜多年同宿定壹力命丸於興福寺林小路不図遇罡難無程被殺害之間善善之悲涙袖湿追修之作善銘肝之條同九日暁忽出南都中陵葬送當山此和砌日々修追福之善根念々祈七善之菩提之陣悲其功之不終涙底

建治之年十月三十一日

助禀 五 月 部

© Hiraoka Shoshu

473

二校了 P11

113 函 17 号 1 冊

所深筆也 願以此微功 併資彼得脱而已

右筆華嚴宗末葉前僧正宗性 擯下

年齢七十四

夏臈六十二

建治元年十月二十二日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

2874

No.

430

113函 17号 1冊

二校了 P 1/2

9P

(奥書)

看蓮抄第六奥日記

建治元年乙亥十月二十三日申時於笠置寺般若院之連房抄之畢、自去春三月十七日於東大寺尊勝院以探玄記第五巻為定文勤行三十講畢、同二十三日顕始當巻抄出、老邁法病萬雖侵身之間至于秋比不終其功之處同八月四日夜多年之間所同宿兒童力命丸於興福寺林小路不図遇災難無故被殺害畢、悉驚慕悲歎之涙閑袂追福作善之思銘肝之餘同九日暁夢出南都舊居蓂籠當山勝地修念佛轉経三時之行法祈安養兜率両處之詮生之隙悲其

建治元年十月三十一日

(年譜) 宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 訖 月調

研究会

© Hiraoka Shoshu

431

二校了

P 13

113 函 17 号 1 冊 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

功之不終康度所深等也願以茂最因宝盤古智当之善縁俾
資七童聖霊離苦得楽之良因守着月前速遂九品新往詣之
願望更在雲上敬礼一生補處之聖容凡厥鶴足仏厨之砌詣
華説法之庭再謁聖霊同預見仏聞法之益重遇聖霊共修
三賢十地之行願乃至法界衆生平等利益而已

行年

右筆花最宝未葉前権僧正宗性

年齢七十四

夏籠六十二

建治元年十月三十一日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

113 頌 17 号 1 冊

（奥書）↑6ウ

香華抄第七奥日記 6ウ

建治二年丙子七月九日酉時於笠置寺般若院僧房抄之畢、自去後三月二十日、於本寺尊勝院以探玄記第六巻勘文被行恒例三十講之時、肝出来之論義、旦為散後学之不審旦為興当宗之仏法随管見抄文状仕愚案、記難答短才之身恥而有餘、抑去年八月四日、年未同宿児童力命丸不慮遇災難、既疎失身命之後、前修善根併廻向之、即以此習浮華最経之勤、偏勧彼往生兜率宮之益、仰願離華下生之

建治元年 十月三十一日

昭和 年 月調
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

2877
1646 483

二校了 15

2

113
17
1

(建巡、七、九)

御鶏足付幡之庭列三会念々同結、見佛聞法之緣、速再会
生々共為善友知識之身而已

右筆華嚴会末葉前權僧正 宗性

年齢七十五

嘉龍六十三

唐治之年十 月三十一日

東大寺図書館

© Hiraoka Shoshu

491

二校了

P 1

113 函 6 号 1 冊

十月二十三日 笠置寺般若院三于華嚴宇香集抄草ヲ抄ス

「華嚴宇香集抄草」一冊ヲ本

(表題)ナシ

(内題)

「華嚴宇香集抄 第四」

「華嚴宇香集抄 第七」

「華嚴宇香集抄 第八」

ナシ 内題ノ目録ノ題ハ有リ

(端書)

「文化十二年三月探玄記第五卷三十講中成得業向顯善得業」

(奥書)

建治元年乙亥六月 日 所注送之也

(端書)

© Hiraoka Shoshu

No.

435

113 函 6号 1冊

「建永二年、實勝講、願惠由良重之講」

（奥書）

建治之年記、十月二十三日、時申、於笠置寺般若院之連房、

之畢、同去春二月十七日、於東大寺尊勝院、以聖玄記第五

卷為宛文、勤行三十講畢、自同二十三日、雖始覺老抄出、

老羸遍法病患侵之間、暫閣至于秋比、不終其功之處、同八

月四日夜多年之尚所同宿兒童力命丸、於興福寺林小路

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No. 2879

113 函 6 号 1 冊

二校了

P 3

建治之年十月二十三日

不図遇災難、無故被殺害畢。妻悲歎之涙潤袖袂、追福作善之思銘肝之條同九日暁忽出南都蔦居葬於龍當山勝地修念佛轉経三時之行法、祈安養浄刹之誕生之隙非其功之不終涙底可浄筆也。願以華嚴四字智古習学之善縁併妙資、生七重重聖霊離苦得楽之因。安養月前速速追九品往詣之願望與率雲上、歓礼一生補處之聖容、乃願鶏足付属之御誓説法之度、再詣聖靈同預見佛聞法之益、重過聖靈亦修三賢十地之行、乃至法界衆生平等利益而已。

右筆華嚴字ま葉前權僧正宗性

昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

No. 2880

113 函 6号 1冊

二校了

457

P

8p

（瑞事）

「文永十二年三月撰玄記第七巻三十講に（信カ）口口擬講尚賴華得業に」

「文永十二年三月撰玄記第七巻三十講に定成擬得業尚性海に」

年齢 七十四

夏臘 六十二

建治元年 十月三十日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

（紙背文書）

P 1 9p

重審進　大安寺

合貳箇所者

一所　杜屋庄　在大和國

一所　野州北庄　在近江國　8p

右先年寄附之箇之庄園、當時雖助三寶之紹隆、所為莫大、新庄不幾之間、重抽怨志、所寄進也、其中杜屋庄者、所當未百戸也、其内六十石者恒例節會莘新之行已訖、今所寄附者所殘四十石也、其内八石者、配福寿院止住律学者之供料、所殘三十二石者、僧坊止住之僧衆、如右打庄所當米可被加斎粥者也、但於彼院止住律学倍者為僧所之沙汰、依其器量可被定補也、次野州北庄者、配金堂之廻廊造

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P 2 9p

當新儀可被終其功也以前寄進新所等同可被加用也

興福寺御領鶏江御庄百姓等謹言上

欲被早停止大安寺御領池庄百姓等新儀制止任先例

取彼山野草木子細事

右當御庄者依無山野或近衛殿御領柿御薗或山内

領百前寺山□相模四郎左近大夫殿御領小□庄或大

安寺御領池庄如是四ヶ所之山野草木自昔無相違取□

之處彼池庄百姓等新計之餘此四五箇年之間稱我領以

新□加制止之条無謂次第也而雖為大安寺領各別且

南都一處也尤為御功法可被致停止彼新儀者也若処者

自余領主定加是欲処者法□院御寺務御時有御沙汰折

© Hiraoka Shoshu

（年譜）

宗性上人資料集原稿

P 3

9P

節成御得替之間、空罷過畢、正理善政當御代被経叡慮、法御沙汰如之、欲令取池庄山野草木之状、謹言上如件、

山城國和束杣并昭餘堂賢覚近江七郎縁者、舎那王四郎住南都銭司候云々、可相尋之子細候、早可召給候、恐惶謹言

六月二日　左近将監[illegible]藤原[illegible]監義定

進上　尊勝院僧正御房

© Hiraoka Shoshu

二枚
内8

（紙背文書）

先日内々所申出候 天台宗諸徳傳一帖 藤原廣嗣傳
一帖 再日本感霊録下 日本名僧傳 華嚴経見都合十帖 謹返
上仕候 日本高僧事可注進由相存之處已歳前寒氣之
向 ○下略

新着書慶見参之時事舊候記 猶々幸甚々々 夜前入閑
面論候 思給候 抑不思議申状 雖其憚候 今年遂講之由
思給之間 自来月可始因明大疏候 故良遍法印三ヶ度抄
物之内 第三支 然物被濫 專勝阿闍正候 彼邊殊被秘藏

© Hiraoka Shoshu

函
号
冊

（年譜）

P

（

）

之由、美候

5

10

15

20

25

年
月
日

昭和
年
月
調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

493

建治二年丙子（一二七六）〔七十五歳〕

五月二十四日、山城笠置寺般若院ニテ靈山法印注送天台宗論義抄ヲ抄ス、

靈山法印注送天台宗論義抄（表題）上 8P 巻子本

靈山法印注送天台宗論義抄上 權僧正宗性

○但シ、奥書ナシ、

103
27
31

© Hiraoka Shoshu

No. 2885
494
函号 冊
P

探

（表題）霊山法印注送天台宗論義抄 中 ○巻子本 8p

（奥書）霊山法印注送天台宗論義抄中 権僧正実性 12p 2p

壬品文句六度四弘餘經指此為十波羅蜜事為見合經行品捜玄記廣徴十乗観行之釋相摩訶止観第五之 度

建治二年四月三日之返報状、并同四月十八日返報状、共論義問答、共釋文等、為備後覧、所遣還也、明匠注置之状、尤可備亀鏡也、

千時同年五月二十四日 於筆墨寺般若院僧房記之 6早

前権僧正実性

年齢七十二

夏臘六十三

建治二年 五月二十四日

重有便宜之時 仕釋者山王院釋也 8p

函号 冊 （年譜） 宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
[宗性上人研究会]
© Hiraoka Shoshu

函号 册

（表題）
靈山法印注送天台宗論義抄 三 12P 8P

○巻子本

103
21
3-3

「靈山法印注送天台宗論義抄第三 前權僧正宗性」

（奥書）
弘安元年戊寅 6号
四月二十四日 巳、仙洞最勝講義者采薗講師之
御請之間 同二十七日疑問論義之園城寺定円法印之處 所記
送 置之論義也 為後覧繕置之 9P トル

（奥書）
為仙洞最勝講疑問用意之南岳古論義色中一可見十則
說有對之釋於園城寺定円法印之處所記送之本也為後
覧繕置之 9P

建治三年 五 月 二十四日

昭和 年 月調
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

496

函号 冊 P

（奥書）

弘安元初之天、自四月十四日、至五月十五日、為精讀四十華嚴經疏第三、第四、兩卷、經廻華洛之西栂尾之中高山寺山谷房之處、去四月二十四日預仙洞最勝講證義者花藏講師之御請之間為疑問論義、自圓城寺定円法印之許、乞請此華嚴論義、所繼置之也、後曉之輩可哀其志矣、

弘安元年戊寅五月二十二日酉時於東大寺尊勝院新築勤堂西廊所記之也、

沙門 華嚴宗末葉前權僧正宗性

年齡七十七

夏臘六十五

建治二年 十 月二十四日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

（端書）
建治三年丁丑正月六日申時興福寺英禅得業来臨尊勝院之間於今文所
對面雑談之次、尚答云〻
以下欠

内明對面抄

前權僧正宗性

（表題）
「内明對面抄」

建治三年丁丑（一二七七）
正月二十二日尊勝院三于内明對面抄ヲ抄ス
七十之歳

一冊子本

113
145
1

綱要冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和　年　月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

No. 2898-2

函号册

（端書）
建治三年丙午正月十一日午時興福寺縁覚順宇房来臨尊勝院
之間於新弥勒堂対面雑談之次問答云々（以下異）

（奥書）
同年正月二十二日未時於東大寺尊勝院新弥勒堂西廊随思
出記録之畢

前権僧正宗性
年齢七十六
夏臘六十四

（年譜）
宗性上人関係資料集原稿

建治三年 正月三十日

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No.
493
P
函号 冊
(年譜) 宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕

弘安元年戊寅（一二七八）四月三十九日改元」（七十七歳）
二月二十九日」山城笠置寺般若院ニテ華厳五教章論義抄ヲ
「華厳五教章論義抄」12P抄ス」一冊子本 113/13/1
（表題）欠ク、
（奥書）
建治四年戊寅6字三月二十九日、於笠置寺般若院僧房書出
折薪記釋之處」文字多脱落畢」仍取出當山護法所経
藏安置佛地経本文所書入之也」後賢之輩可哀其志矣」
前權僧正 宗性
9P

二校了

500

P

84

（綴目端書）

「二月廿三日書之」

（異筆）
土教章海義校」

「二月十八日書之」　「二月十九日書之了」　「二月廿日書之」　「二月廿四日書之了」

「建治四年三月三日於笠置寺般若院僧房書之了」

「弘安元年三月十三日於東大寺尊勝院北勤堂西廊書之了」

「弘安二年三月廿三日於東大寺尊勝院北勤堂西廊書之了　宗性」

新

© Hiraoka Shoshu

No.
501
函号冊
P
昭和 年 月調
(年譜)
宗性上人関係資料集・原稿

12P

三月二日 山城國笠置寺ノ般若臺靈山會ニ參ジ、

テ笠置寺般若臺靈山會問答記ヲ記ス、

(笠置寺般若臺靈山會問答記)ノ冊子本

(表題) ↑6ウ

9P

笠置寺般若臺靈山會問答記

建治四年之春

前權僧正宗性

113
109
1

〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

503

P

奉唱　靈山會講向事

講經　大般若
法華經　談玄唯識論第一卷

初座　般若初二三會
法華第一卷

8p

講師　長泉房擬講　向者斐蘭房得業

躰性實歿事　報佛常死常事

第二座　般若四五六會
法華第二卷

8p

講師　斐蘭房得業　向者長泉房擬講

聖後超一果事　轉識得智事

函号冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和　年　月調
〔宗性上人研究会〕
© Hiraoka Shoshu

503

P

9p

第三座 般若七八九會 法華第三卷 — 8p

講師 願思房 向者 良觀房

經於百劫事 後品三道事

第四座 般若十、十一、十二會 法華第四卷 — 8p

講師 良觀房 向者 願思房

冷真非真事 三論諸師事

第五座 般若十三、十四会 法華第五卷 — 8p

講師 淨恩房 向者玄朽房

三身成道事 見道可尒事

第六座 般若十五、十六會 法華第七八卷 — 8p

© Hiraoka Shoshu

講師玄枚房　向者淨恩房

轉向余衆事　或唯理非事事

右自今晦日至于三月二日三箇日之間可被勤行之状如件

建治四年二月日

© Hiraoka Shoshu

（奥書）

建治四年三月二日酉時於般若院僧房記之了

今度講経世間出世不甘心事等多々也

執筆 康大寺住侶 笠置寺客僧 宗性記之

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

No.
506
P
弘安二年四月二十七日
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕

四月二十七日 最勝講證義者ノ公請ヲ受ク、

（紙背文書）

謹領

限廳 御清書一紙

右、自来月七日被行最勝講證義并講師者、謹領如件、

弘安二年四月二十七日 前権僧正宗性 請文

12P
12P
8P
8P
113
137
2-1

© Hiraoka Shoshu

507

函号冊

P

「靈山法印注送天台宇論義抄」（第二）

12P　8P

（奥書）↑6ウ　6ウ

弘安元年戊寅四月二十四日、預仙洞最勝懺義者並兼講師之御請之間、同二十七日疑問論義、乞園城寺定円法印之処、所記送之論義也、

9P

○以下略

8P

○巻子本

107
21
33

（年譜）

宗性上人関係資料集原稿

昭和　年　月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No.

506

P

五月七日 最勝講ニ参文 12p

寄男合精義用意抄 一 8p

〇冊子本

113
137
1

（御告文書）↑6p

謹領

院廳 物請書一紙

右自来月七日被始行最勝講灌頂義并講師着座
次第文一通

弘安元年四月二十七日 前權僧正宗性 清文 8p

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

503

P

六月八日、宗性入滅ス、 12P

（明本抄）一 8P 12P

〇四子本 興福寺宝蔵所蔵

（表題）

明本抄第一 9P

法隆寺後嚴 傳興云 9P

© Hiraoka Shoshu

510

P

9P

奥書 6号

本云

建長之年甲寅九月二十五日時申於東大寺中堂東廊馳筆了

抑此鈔者因明第一之秘書也 彼筮置寺上人存日即門弟未必見之 興福習学因明之碩徳亦無伺之 況於上人滅後之孫弟哉 況於他門愚庸之末学哉 而宗性習学因明之志深銘肝心 去嘉禄之年初冬之比入光明院上綱覚遍 8P 之門室之後年々歳々学之漸々連々嗜之三十年間其志顕之故去十三日先借賜此第一巻次第欲借之 忽可書写一部十三巻之由仰下畢 年来修学之本意於茲満足今生一期之思出只有此事 仍暫閑倶舎抄出之勤偏運此微功 抄書写之志今日今時所書記此巻也 仰願依此

(宗性上人研究会)

年 月 日 昭和 年 月調

(年譜) 宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

511

P 9P

答此愚志ニ5 毎ニ後終焉之暮ニ 被魂於兜率之雲ニ為華下生之
暁ニ開悟於龍花之月矣ニ

右筆花嚴宇未学法印權大僧都宗性 年齢五十三 夏臈四十 8P

(奥書)↑6ウ

文永第二酉、初秋第二天ニ初預此貴書ニ 凡此書者ニ興福寺英
才之学ニ 北寺無雙之倍ニ 未能歓見ニ 況聞書名未披見之
類挙多也ニ 而不慮預此事 今生涯思出何事加之ヲニ
存生之時ニ無傳受之、実又無相傳之事ニ 仍鑒未来之維摩会
執中ニ祖師信遍得業死去後ニ夢告云ニ可与汝出理門論云、爰天
在少藍論ヲ一巻与了ニ夢悟之後倩思之者ニ 當寺因明者彼得業
之交衆可致誓古之由欤ト存キニ而在黒思宝年月之處ニ不慮于

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P 9P

預奉聞
令遂葬之請
勿出彼蒙
咎於海住山十輪院
尊勝院
8P
以調御房達
年來宿
望之處預御許用之歟了
爰年來祈念今更遂了
其後
日明秘決連々傳受之
其志敢及數年之間賜此書了
後弟之倍
必見此旨可口口
(違失カ)
筆師後嚴
生年
三十七
8P
或号海住山或謂陳大夫
或一月或半月
8P
(年譜)
8P
此書者
尊勝院
僧正御房
御存日之間
任御契約
并
遺誡記請文、不能為表書而今
弘安
元
年暦御入滅之後
始乍恐書出此書之名字
於非向之輩者努力々々
不可
令觀見書也
于時弘安第二歷之夏四月八日
始表紙了
後嚴
生歳五十
8P
(花押)

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

513

SP

但シ、本書ニヨリ宗性ノ入滅ハ弘安元年ナルコト明ナリ。

マタ、次ノ文書ヲ参照スルトニヨリ、六月八日ニ入滅セラレシモノト考ヘラレルノデアル。但シ、度実ハ、宗性ノ最愛ノ弟子ノ一人ナリ。

コレニヨリ故僧正御房」ハ、宗性上人ヲ指スモノト考ヘラレルノデアル。

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

514

函号冊

P

【法華第四巻抜】 一冊子本 12P

（雑背文書） 8P

113
213
1

久不令申候 何条御事候哉

抑故僧正御房御三年明日八日ニ相當候 今日

なんと可有沙汰候也 則請僧一分にて可被座之由

可申之旨候也 御裏束純色袈裟可為候

用意申候 期御出之時候也 恐々謹言

六月七日 慶實

下野公御房

年月日 昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

補遺

寛喜三

（ ）

P

是歳 寛喜三年新制案ヲ抄ス 陽明文庫本

【寛喜三年新制案】 ○巻子本 陽明文庫 二五七五二

（内題）

「寛喜三年十一月三日 宣旨」

。但し、本書ノ内容ハ続々群書類従、法制部ニ、三代制度等ヲ

参照スベシ。

© Hiraoka Shoshu

5-0

P 1

四月十四日中院ニテ三會中緇素助成記ヲ記ス

【三會中緇素助成記】 ○冊子本 陽明文庫

（表題）

三會中緇素助成記

當講釋宗性

延応二年四月十四日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

（奥書）

延應二年四月十四日晒於東大寺中陀記錄之畢

此事多修学之妨、頗雖無其詮、且多加諸人□
爲在向後之報答隨憶念記錄之畢、若有□
後可書入之矣

右筆華嚴末葉 沙門宗性

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

113 國 119 号 1 冊

（年譜）

（件名見出）

（年譜）

（奥書曰）

P 1

5

10

15

20

25

（宗性上人研究会）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

510

（　　）

遂供養、其供養最中導師登高座之後不幾、自辰巳角黒雲漸々現時稍遍大虚大雨忽下、其間半時許自幼至老自賊至貴賤仰法威力、各至堅固信心、實是希代勝事也、雖末世法威力、如此誠感應有疑可依功淺深設雖斷善人見此等勝利、盖信心實可信之、可貴々々、

當寺三七最勝王経一日書写供養時大雨忽下以前不可說也、此外六三十余日之間、一切口口

談義聽衆

薬勝院御房、已講御房　淨眼房得業　實弘

興福寺一日大般若供養導師

光明院法印　覚遍

年　月　日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

520

（　　）

P 83

113 図
109 号
1 冊

當寺一日最勝王経供養導師
民部卿已講 宗性

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113 函 178 号 1 冊

（寛之之序）

二月十一日 西塔院ニテ、寛弘法師ニ対シ。梵網経疏要文

兼ヲ談義ス、

「梵網経香象疏文集」ノ巻ノ本

113
178
1

（表題）

梵網経香象疏文集

功門釋寛弘

（年譜）
宗性上人資料集原稿
年 月 日
昭和 年 月調
（宗性上人研究会）
© Hiraoka Shoshu

113 函 108 号 1 冊

（ ）

（表紙）

梵網経文集 香象大師 上中下

仁治四年正月廿日 始之

華厳末葉沙門實弘

梵網経疏文集 上巻

宇家 仁治四年正月廿一日 書始之

（奥書）

二月三日上巻奉書之了 同四日記之了 盗戒了

自七月廿八日至今日首尾

同四日 中巻奉書始之

年 月 日

昭和 年 月 調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

520

P 3

（　　）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

○中略

二月八日奉談義了、首尾五个日也、十重禁了、

同題

下巻

仁治四年二月十八日卯時於東大寺西塔院校之了、

未決事等是多、近日梅尾参籠之次、対菽林房仰可散之者也、

下巻自八月至今日十一个日之間奉談義畢、

六廿七个日三巻談義遂其功畢

結衆

上綱（宗性）　聖弁房　印円房　順良房、順観房、

実相房　行願房　覚地房　実弘等也

抑戒是衆善之源不行之基也、幸明善友遂此微功深可

© Hiraoka Shoshu

（年譜）

宗性上人資料集原稿

521

（　　）

P 6

悦、願以此功德、資見佛聞法之勝業、究成佛得道之良因、
一期終晋之刻、必預尊来迎、遂現在内院上生之望、三祇
修行之終、定至菩提樹下施一切衆生成佛之益、乃至相今生
四恩至法界群類、普須滅罪生善之巨益、共遂生離得脱之願
望耳、

願以此功德　普及於一切　我等与衆生　皆共成佛道

華嚴沙門實弘　生年卅三
兩箇七週、

年　月　日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

（実之）

（　　）

P

十月十日　西塔陬二于、實弘年二玄梵至要文ヲ講ズ、

幽暗淨心抄　一冊ナ本

113
183
1

（奥書）

結衆

僧都御房（宗性）　舜道房　教念房　戒蓮房

律師　侍從公　勝覚房　初六七日　寶阿弥陀佛　終三日　實弘

玄梵至要文　自實之々年十月首、於西塔陬市三昌半ヨリ、被撰之、

○下略

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113 函 86 号 1 冊

（補遺）

（貞元三年）9P

七月十三日 大集経楞伽経或寛倫仁王経私記指手抄 12P

（大集経楞伽経或寛倫仁王経私記指手抄）12P

大集経楞伽経或寛倫仁王経私記指手抄 9P

撰人傳都字性 9P

（巻目端書）6P

「貞元三年七月十三日點加一見了」 8P

但シ本書ノ奥書ナシ

113 86 1

© Hiraoka Shoshu

527

P

十月廿七日、知足院ニテ金剛般若賛述ヲ講ズ、

「金剛般若賛述要文」一冊子本

113
185
1

(奥書)

(内題)

金剛般若賛述上巻

自寛之三年十月廿七日、於知足院別處被談之、

法印御房已下七八輩、

云々。

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

P

(寶治三年) 9P

七月ム日 是月諸宗雑論義於ス 12P

諸宗疑問論義抄 一冊 9P

(表題) ↑6字

諸宗雑論義抄 9P

權大僧都宗性 9P

113
38
1

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

111 函 22 号 8-6 冊

十二月十八日 尊勝院三天、大方広佛華厳経随疏演義鈔 十七上 8p

〇冊子本

（奥書）

（朱書）

寶治二年後十二月十八日 時於東大寺尊勝院第九地已下加一頁了

宗性

111 22 8-6

12p

12p

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

530

P 1

111 函 22 号 ～ 冊 8-17

【大方廣佛花嚴經隨疏演義鈔】七下

○冊子本

111
22
8-7

○但し本書中ニ宗性ノ書入アリ。

年 月 日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P

諸宗論義抜

諸宗論義抜 雑

椎大僧都宗性

諸宗論義抜 一冊子本

113
38
1

函号冊 (年譜) 年月日 昭和 年 月調 宗性上人資料集原稿 (宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

530

113 函 38 号 1 冊

P 2

9P

安貞二年物者会物論義

番 興福寺別當法務僧正實尊

一番 尊良答 公命初問 智円二問

（内表紙）←6号

諸御厥葉僧名 9P

大法師宗性之 9P

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜） 宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113 函 38 号 1 冊

二番　良遍答　道善問

三番　實縁答　長俊問

同年長講堂御八講僧名

法印權大僧都範信　眞雲　權大僧都公性

權少僧都宣辨　道證　權律師長靜　公縁

大法師璋内　信兼　覚経

（端書）↑p5下

「宣辨問道證」

「道證問宣辨」

年　月　日　昭和　年　月　調　（年譜）　宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113 函 38 号 1 冊

531

P 4

嘉禄二年御斎会御論義

一番　定親答　初問賢信　次問経昇

二番　祐明答　陽円問

三番

同年最勝会院御八講僧名　正月

講師　権大僧都定源　権律師明宴　源円　尭恵

大法師　聖玄　智円

聴衆

年　月　日　昭和　年　月調　（年譜）　宗性上人資料集原稿　（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

535

113 國 38 号 1 冊

P 5

9p

8p

遅真

同年　長講堂御八講僧名

法印權大僧都範信　貞雲　權大僧都公性

權少僧都　宣舜　道證　權律師長靜　覺経

大法師璋圓　信義

瑞書）↑6ヲ

「道證同宣舜」

「宣舜同道證」

嘉祐三年金光明会内論義問答記

僧綱

年月日　昭和　年　月調

（年譜）　宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

113函 38号 1冊

9P

權僧正円實　法印權大僧都行遍　隆兼

權大僧都道快　權少僧都實縁　法眼　尊経　權律師

（增書）↑10字

者　權僧正円實

一番　權大僧都道快　初向寂尊已講

次向　道喜已講

8P

「仁治三年安泉光院覚経向貞雲」

「仁治三年七月寂勝光院威信向憲性」

「仁治三年二品相公、顕平卿親縁向覚経」

「實之々年十二月十七八兩日告水殿、曾円向円憲」

「實之二年後堀河院曾円向隆有」

「實元二年顕平卿尊静向公縁」

年月日　昭和　年　月調　（年譜）　宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

537

8P

「實之三年安集心阿闍円順尚公縁」

「實之三年長講堂隆有尚親縁」

「實之三年戒勝光阿祇性尚智円」

「實之三年顕手八講親縁尚長静」

「實之三年十月坊城殿御八講宇胤尚宇源」

「實之四年安集光阿貞禅尚智円」

「實之四年長講堂顕親尚貞雲」

「實之四年安集光阿尊海尚僧智円」

「實之四年安居阿智円尚円憲」

「實之四年戒勝光阿道善尚尊海」

「實之四年七月坊城殿御八講円顕尚公縁」

「實之四年顕手八講長静尚貞雲」

© Hiraoka Shoshu

「貫之四年十月 坊城殿御八講 長恵尚円順」
「貫之五年後鳥羽院 尊海尚智円」
「寶治元年五月 故聖覚法印十三年 智円尚親縁」
「寶治元年 長講尚空智円尚親永」
「寶治元年安楽光院智円尚隆有」
「寶治元年七月 坊城殿御八講 親縁尚長静」
「貫之三年十月坊城殿御八講 尊海尚長俊」
「貫之四年七月 坊城殿御八講 智円尚円憲」
「貫之四年十月 坊城殿御八講 円憲尚智円」
「寶治元年七月 坊城殿御八講 長静尚親縁」
「寶治元年十月 坊城殿御八講 長俊尚智円」
「寶治二年七月 坊城殿御八講 良盛尚智円」

113函 38号 1冊
(年譜)
宗性上人資料集原稿
年 月 日
昭和 年 月調
© Hiraoka Shoshu

9

530

（　　）

P 7

113函 38号 1冊

年 月 日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

○但し、問答ノ要文ハ略ス、

8p

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

32
540
P
117 函 225 号 1 冊

（文永二年）

是卷、倶舎論光師疏第十卷後鏡抄ヲ抄ス、

「倶舎論光師疏第十卷後鏡抄」 一冊子本

113
225
1

○但シ表題ヲ欠ク、

倶舎論光師疏第十卷後鏡抄

文永二年三月自大日ノ於東大寺三面僧坊東室禹道北房談之、讀師大進僧都藏円

（端書）↑6ウ

「文永二年八月二十四日、頼美向賢清得業」

「文永二年九月一日、誓向頼美、」

「文永二年八月廿四日、頼美同賢清得業、」

「文永二年九月一日、尊勝阿闍梨向題講、誓向頼美之時、答趣記之、」

○但シ本書ノ倶舎ヲ欠ク、

文永二年 月 日

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

34
51
P
113 函 227 号 1 冊
断簡
(年譜)
宗性上人資料集原稿

(端書)

「仁治元年三論宗三十講、宗性問伏恵得業」

「仁治二年東南院八講、宗性問頼覚得業」

「仁治二年華厳寺最勝會初座、對頼恩大僧都問之」

「仁治二年八幡宮寺十六會講、宗性問房源擬講」

「仁治二年勧修寺西院八講、宗性問宗誉律師」

(奥書) ○但し、本書ノ奥書ニアラズ、別書ノモノナラン、

弘長二年之暦、青陽三春之候、於東大寺細尺院之学窓、記華厳宗文義抄之問答之時、爲華厳宗才覚、自東南院

(宗性上人研究会)
© Hiraoka Shoshu

35

（ ）

P

経藏多借、清三論宝嘉祥、淨影章疏、智度論恵影僧侶疏
等之次、誂回法頼圓法師書出、至要釋文畢、而今年盛蘭
七旬餘命迫一瞬之間、結集一帖之書、欲傳千年之末、（以下擱筆、）

（表紙）○但シ、コレハ抄写ノ料紙上ニアリ、本書ノモノニアラズ、

金剛頂超勝三界経説文殊師利菩薩秘密心眞言

春主丸

○但シ、本書ノ奥書ナシ、

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

P

〔餘錄雜載〕 12P

○但シ、コヽニカゝゲル字性ノ著書ハ、著述年代ノ不明ナモノヽミ

8P

集錄セリ、表紙ノ体裁、冊帙著書ノ内容ニツイテハ勿要ナモノヽ外ハコレヲ略セリ、

三寶感應錄并日本法華傳指示抄 訪門釋字性 8P 113/85/1

唯識論雜論義抄 ○以下スベテ「訪釈字性」トアル故略ス。 113/132/1

俱舍論第二、三、四、五、六卷問題抄 103/5/1

有字雜論義本抄第二 8P 103/8/1

法華玄贊文義次第 103/25/1

唯識章要文抄 103/28/1

最勝講 週御自草 第三度 103/38/1

© Hiraoka Shoshu

42

511

103
函
38
号
1
冊

P

（年譜）

唯識章要義抄　沙門釋宗性

現狀自修世親講

講師前德　向著　相撰

勘物遍明同異第二度　沙門釋宗性

103
38
11

12P

〔前師權僧正維摩會所得內明論義抄〕　○巻子本

103
49
1

（表題）

9P

前師權僧正維摩會所得內明論義抄　沙門釋宗性

注進　8P

但し表題ノミ、宗性ノ自筆ナリ

貞永元年維摩會內明論義事

初日　朝座　向着　權大僧都慶田　在表白
　　夕座　向着　權律師　玄遍　　導師　沙相宗

9P

8P

沐二日　朝座　向着　權律師田慶

年　月　日　昭和　年　月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

103 函 38 号 1 冊

P

9P

第三日　夕座　尚者良遍大法師
朝座　尚者豊寛大法師
夕座　尚者覚等大法師

第四日　朝座　尚者玄恵大法師
次尚　尊分尊大法師
夕座　尚者　縁鎮大法師
次尚　尋性大法師

第五日　朝座　尚者　良継大法師
次尚　威信大法師
夕座　尚者　宣憲大法師
次尚　尊海大法師

第六日　朝座　尚者　定宴大法師

年　月　日　昭和　年　月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

次向 實弘大法師

夕座 向着童等大法師

○但シ 本書ノ奥書ハナシ

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

547

P（　）

103 函 51 号 1 冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

【諸経論釈】 12P

○巻子本

103
51
1

（表題）↑6ヒト

諸経論釈 9P

沙門釋宗性 9P

（奥書）↑6ヒト

保安元年二月五日 等覚房書也

即彼日修世親講

講師 朗覚 内着 少将公 相模公

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

513

函号 冊

P ( )

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

5 10 15 20 25

但し本書ノ如し

滿ハ牧

難 滿ハ牧

○巻子本

103
57
1

「中忍滿ハ牧」 12p

（表題）↑6ヒ

中忍滿ハ牧 9p

沙門釋宗性

（内題）↑6ヒ ○但し表題ノミ宗性ノ自筆ナリ、↑3p

中忍滿ハ二剩非位所作行相一行二行事、

（奥書）↑6ヒ

以愚推之旨、見前疏文、諸難併通、諸友来会、中古先賢未述

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（　　）

P

函号　冊

此義、若龍之眠欤、未代羊僧、冥此新宮、闡提一徳欤、

但、尤有恐々々

嘉禄三年後三月廿二日　大法師秀恵

春秋八十八

（諸根互用抄）

（表題）

諸根互用抄

○巻子本

103
59
1

功内釋宗性

○但し、本書ノ奥書ナし、

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

111 函 206 号 1 冊

550

P 1

【寂勝王経用題】 12P

(表題) 6P 0字性自筆(薄墨)

寂勝王経用題 復檄密伽陀 功力字性之 9P

(題) 6P 「金光明寂勝王経」

(奥書) 6P 保延三年十月書了 三校了

年 月 日 昭和 年 月調

(年譜) 宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

551

P

【家勝講聴衆記】

○冊子本 陽明文庫

家勝講聴衆記

自永久二年
至建久二年

訪釋宗性

○但シ、本書ノ奥書ハナシ。

© Hiraoka Shoshu

582

P

函号 冊

【維摩会遂講間人々助成記】

○冊子本 陽明文庫

(表題)
○近衛文麿公自筆

維摩會遂講間人々助成記 宗性筆

文

(内題)
維摩会遂講人々助成記
○但し、本書ノ奥書ナシ。

(年譜)

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

P（ ）

9P

鏡像譬喩抄 5

權律師宗性 113 140 1

權大僧都宗性 103 79 1

仙華門院御佛事施主段草 10

弘勤経遊意 0以下今云 111 70 1

法華安樂行 111 152 1

極少三生抄 103 62 1

西園寺一切経供養願文等 103 64 1 15

© Hiraoka Shoshu

551

（　　）

P

函号　冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

12P

静林房一字三礼法華経供養願文　権大僧都宗性

（表題）↑6行

103
24
1

静林房一字三礼法華経供養願文

9P

敬白

奉開題供養摺写字上一字三礼如法蓮華経三部二十四巻、

無量義経三巻

観普賢経三巻

般若心経三巻

阿弥陀経三巻、

建長六年七月日　　弟子僧宗性敬白

8P

9P

8P

。但し、表題ノミ宗性自筆カ、ル。

。但し、本文ハ略ス。

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

19

555

P

113 函 134 号 1 冊

「法相宗雑論義抄」三冊之本

113
134
1

（表題）↑6ヒラ

法相宗雑論義抄第三

權大僧都宗性

（端書）↑6ヒラ

「建長元年冬勝講定圓問頼圓僧都」

「建長元年冬勝講定圓問頼圓僧都」

○但シ本書ノ奥書ヲ欠ク

年 月 日 昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

13

P 381

113 函
127 号
2-2 冊

〔倶舎論第五巻決疑抄〕 120P

（表題）11 0ヒト

倶舎論第五巻決疑抄 89P

楼大僧都御房性 4P

0冊子本

113
127
2-2

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

14
557
P 2

（奥書）↑6ヒト

寛元四年冬十一月之候、依尊勝院、聊有喧嘩事、上綱退本寺覚宴移當山禅室候之間、多散鬱望参入、此處之次依多卅講當處廿八九兩日之間、以東南院御本於地藏院写之了。

花嚴沙門實弘法師

同日、於同處一校了。

© Hiraoka Shoshu

P ( )

中川人講所得疑問論義抄　權大僧都宗性　113/41/1

法華経上宮王義疏抄上序品奥書　權大僧都宗性（以下今ニ）　113/51/1

法明抄　權大僧都宗性　113/90/1

差明門陀抄忌中願文習学抄　權大僧都宗性　113/105/1

倶舎論第四巻初学決疑抄上　權大僧都宗性　113/126/2-1

倶舎論第四巻初学決疑抄中　權大僧都宗性　113/126/2-2

倶舎論第四巻決疑抄　權大僧都宗性　113/127/2-1

倶舎論第四巻決疑抄　權大僧都宗性　113/127/2-2

（奥書）

寛元四年冬十一月之候、依事勝限聊有暗嘩事、上綱退本寺留宿候之間、必散鬱抱望参入此處之次、依為件講當処廿八九両日之間、於東南院抄本、於地蔵院写之了。

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

花嚴法門實玄法師

同日於同処一枝了。

廃唯識論物状

権大僧都宗性

113
133
1

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

560

P

【世間雑日記】

○冊子本　陽明文庫　近七43

（表題）

世間雑日記

前権僧正宗性

○但シ、本書ノ奥書ハナシ。

函号冊（年譜）

宗性上人資料集原稿

年月日　昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

561

（ ）

P

（年譜）

五月廿五日、賴重・紹王丸殺害并諸寺牒状到来

【賴重殺害紹王丸諸寺牒状】 ○巻子本 陽明文庫 三五七五三

賴重殺害紹王丸諸寺牒状

権僧正宗性

年 月 日

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

P（ ）

同旦於同処一校了

花厳沙門実弘法師

権大僧都者宗性

113/133/11

求唯識論抄秋

○実弘手択本

但し、本書ハ表題ノミ宗性ノ自筆ニカヽレモノ多シ。

探玄記第十二巻抄 實慶 勧門釋実弘（貞元四年）

113/154/2-1

○以下合ゝ

探玄記第十三巻抄

（寛治元年）

113/154/2-2

探玄記第十五巻大慶抄

（建長二年）

113/155/1

探玄記第七巻三十講多論義抄

（治三年四月日）

113/156/3-1

探玄記第十三巻三十講多論義抄

（寛治元年）

113/156/3-2

探玄記第十一巻卅十六巻三十講多論義抄

113/156/3-3

© Hiraoka Shoshu

P （ ）

華嚴宗雜論義抄 113/157/1

尊勝院四季講問答記 建長三年三月之日 113/158/1

尊勝院四季講論義抄 建長三年三月六日 113/159/2-1

尊勝院四季講論義抄 建長三年三月之日 113/159/2-2

自宗学道疑問論義集第一（嘉祐三年十月 日） 113/160/2-1

自宗学道疑問論義集第二（仁治三年四月 日） 113/160/2-2

華嚴経唯心義鈔冊（寛元三年七月 日） 113/161/1

四十華嚴経疎抄（寛元元年四月五日） 113/162/1

雜世間品疏演義鈔尋求抄 113/163/1

疏演義鈔略要文第二（寛元四年正月廿日） 113/164/2-1

疏演義鈔略要文第四（寛元三年正月一日） 113/164/2-2

合論抄（寛元五年三月二日） 113/165/1

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

華嚴宗大要抄（仁治三年）

大方廣抄

管見所要抄（建長六年六月廿六日）

法華経文句疏抄（建長四年二月）

法華経文句疏抄 巻二（建長四年六月）

玄賛并摂釋要文抄

大日抄 方便品 奥儀處（建長六年三月）（六日）

大疏上巻實勝義抄（延応元年二月廿三日）

大疏義断文集（延応元年二月廿三日）

纂要義断實勝義抄（延応元年四月三日）

圓覚修證義要文（寛治二年正月十六日）

圓覚経大疏抄要文上（寛治二年正月廿日）

| | | |

P.....

(　　)

圓覺經大疏抄要文 (宮治三年三月十日)　113 / 176 / 3-2

圓覺經大疏抄要文下 (宮治三年三月十日)　113 / 176 / 3-3

圓覺經心鏡要文 (建長三年十月　日)　113 / 177 / 1

梵網經古迹聽聞集抄 (正和三年六月十日)　113 / 178 / 1

梵網經古迹聽聞集抄 (正和三年六月十日)　113 / 179 / 1

見聞覺知抄 華嚴俱舍 (仁治三年十二月日)　113 / 180 / 1

俱舍論第十四五卷三十講聽聞集 廣保之年、建示之年 嘉祐三年　113 / 181 / 2-1

(康長三年十月晦日)

俱舍論第十九卷三十講聽聞集 建仁四年 第之三年　113 / 181 / 2-2

(嘉祐四年八月廿三日)

八不淨觀抄 (寛之四年七月廿日)　113 / 182 / 1

幽暗導引抄 (寛之三年八月七日)　113 / 183 / 1

年　月　日　昭和　年　月調

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

508

函号 冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（ ）

P

大品般若経品目（仁治三年四月廿三日）	113/184/1						
金剛般若奥述（寛元三年十月）	113/185/1						
調伏意馬抄（仁治三年十月日）	113/186/1						
虚空蔵菩薩感應抄	113/187/1						
八地勘注疏要文抄（建長六年七月三日）	113/188/1						
眦尼討要文鈔集（寛元三年六月）	113/189/1						
銘肝落涙抄	113/190/1						
自宗学道日記							

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

567

P

宗顕本

古論草

唯識会問答抄

探玄記十二巻抄

（奥書）

自文永三年二月上旬之比、探玄記第十二、於上綱御前
講之、三月廿日、講畢、多當年仏洞論匠配分故也、其間以文尺抜
見之次、付之久二年度之四年兩度聽聞隼如形勘文了、
自四月上旬之比、漸々第二重答少々上綱御草前申請也、
雖非義道委悉、且可為未代秘出、尤可秘藏之者也、

自同五月十二日　仏洞御講被始行之、當寺分講師、實恵
律師、論匠衆、宗顕第二度　定度第二度　已上二人、自性得業

113
2+2
6-5

113
202
1

113
201
1

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

年 月 日

昭和 年 月調

雖被下 物質供給迄了

大法師 宇顕 自筆 蘭室

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

29
503

P

〔法華経第四巻抜〕上下 冊子本

113
195
3-1

法華経第四巻抜 上

宗顕

但し、本書ハ表題ノミ、宗顕ノ自筆、ニテ、本文ハ宗性ノ自筆ナリ。

（奥書）
寛喜二年二月七日再治畢

智円

© Hiraoka Shoshu

30

570

P

函 113
号 195
3-2
冊

（ ）

（法華経第四巻抜）下 ○冊本

113
195
1

（表題）

法華経第四巻抜下

○但シ、本書ノ奥書ヲ欠ク。

宇顕

年 月 日

昭和 年 月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

函号 冊 (年譜)

P (　　)

「華嚴宇雜論義抄」　○巻子本　113 18 1

(表紙)「録」

(表題)○宇性自筆

華嚴宇雜論義抄　　尊勝院

(端書)

「貞元二年維摩会、定宇問之。」

「尊勝院四、宝勝講問之了、」

「貞元二年御斎会、尊経内之了、」

「美安三丁維摩会、問并暁已了、」

「貞元二年御斎会、遅真法橋問之了、

建保三丁(年)仙洞(後)鳥羽勝講(殿)範信問阿闍梨 法眼御房 建示 尊勝院経内宇性」

年 月 日

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

(宗性上人研究会)

© Hiraoka Shoshu

函号 冊

（年譜）

P

同、名色支配盛多能可之事、○下略
答 嘉祥二年李御物経御施義二番興福寺清信間宇性之時、○下略
（聖）

「貞永二年物者会田富樵律師問之」
建仁三（年）仙洞寂勝講乾蒼同、院主法眼御房最建永」
○但し、本書ヲ抜スルトキノ奥書ナシ。

年 月 日

昭和 年 月調

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

2907

~~1882~~ 573

121
438
16-8

付

「華嚴字論義二乘直入」。淨實寫本
表題 東大寺圖書館蔵

二乘直入字性短冊

墨印「南都東大寺
北林院住藏」

(奥書)

一交畢.

字性上綱之佛筆也、寫本者隆賢方ニ在之以愚見朱墨ニ點畢.

恐々々

永禄元年戊午
五月十四日 以他筆写之 淨実.

原本校了

© Hiraoka Shoshu

~~194~~ 571

121
394
2-2

/

「付録」

「華嚴說時領鞅」（東大寺図書館蔵 実英本奥書）

本云

應長第二之暦大蔟廿四旦於東大寺尊勝院遂書寫畢

端者藏円僧都之草抄也以或本書之奥者曩祖上綱之御
（宇性）

草也以正本写之可秘藏之抑已在三論之鎖仰雖至維摩

斧尚殘御堂之大業故今入五教之傳持為顯花台當学

欲遂一階之研学之向為備後題漸終書寫之處也仰願宇

三宝垂哀愍到四字誓象之論場而酌十玄之春花昇三會

師子之講床而瑩三明之秋月是非有内外之私曲併依思

© Hiraoka Shoshu

~~1681~~ 575

121
394
2-2

2

寺門之我狐也縦難屋其志更嘲此意而已

于時永子三六年一日書写之畢　同五月廿六日　月波(ヵ)之

後座向役之向彼草尋得之間以悪筆畢。

原本校合了

© Hiraoka Shoshu

P

「紙背文書」 12p

80 の但し、本文書ハ、宗性著書中ニ多数あるモ、イマ、主要ナモノニ

12p 数ヘル、

「倶舎論第四巻初学決疑抄」上の冊子本

113
126
2-1

© Hiraoka Shoshu

577

P 7

（紙背文書）

○重盛書状

東大寺衆徒等、抱鬱訴離寺令散之條、甚無其謂、不日令帰住安堵、可開講堂扉也、於訴訟者、早可□裁許之由、早速可令下知給者依　殿宣執啓如件、

七月十三日　巳刻　　重盛（奉）

別當僧正御房

○重盛区状

私啓

盂蘭盆以前帰、可帰寺之由、殊可令遵行給候、於訴訟者、任申請可被裁許候也、衆徒離寺之間、忽不及裁許候、帰住安堵之後、不日可被仰下給之由、其沙汰候也、恐惶

年月日　昭和　年　月調　（年譜）　宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu

573

P 8

（

）

有如、内々言上候、重恐々謹言、

○尊勝院僧都御房御懸状案

（端裏書）

「尊勝院僧都御房御懸状案文」

尊勝院事、先師僧正雖譲給之、居住當寺之上、為華厳宗之上首令住寺給、可謂管領之仁、仍前避申也、早令院務給、可被専人法之興隆之状如件

貞元四年九月五日　権少僧都在判

尼都卿大僧都御房

© Hiraoka Shoshu

573

113 函 126 号 27 冊

（　　）

○権大僧都尊海書状、

尊勝院領伊賀国玉瀧庄下司職事、以家政被申補候之處、
為禎助律師之訪法、令改補宇童子云々、訪法之次第無謂
被思召候、如存以家政可令補給之由、禅定院僧正御房、可
申之旨所候也、恐々謹言

九月二日　　権大僧都尊海奉

謹上　　侍部卿大僧都御房

○権律師禎助書状案、

（端裏書）
「禎助（助）律師奉書案文　僧都御房尊勝院御譲状事、」

年　月　日　昭和　年　月調　（年譜）　宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

113
函
126
号
27
冊

530

P 10

（ ）

（年譜）

宗性上人資料集原稿

5

10

15

20

25

私申

此事實無違亂候之条、返々私恐悦候、

故令参上、可令申候、兼御下向何日候哉、御参

候義者、可期其次候、

尊勝院事　僧都御房御教書被進之候、無相違候之条、

殊悦申旨　僧正御房可申候也、恐々謹言、

九月五日　　權律師禎助

謹上　民部卿僧都御房

（端裏書）

「勧修寺僧正御房御消息　鞆田庄借物尚事、」

○勧修寺宣最僧正書状、

年　月　日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

113 函 126 号 2-7 冊

531

P 11

去年大佛殿壇供用途、依無庄之職所出、爲十郎丸口入
借用其用途、直後快寺主請取之給候了、而其足（去）年
不候之間、懸今年候、仍鞆田庄近年所當又被相宛給田
數等候間、依爲不足鞆田庄を爲宇大安寺領淺井東西
等ニ被宛行候、然而僧都御房今者無御院務候間、不可及
大安寺領之沙汰候也、旦十郎丸令參上申候歟、又後快
寺主委細存知事候、可令相尋給候、旦鞆田庄去年
年貢無其足候之条、後快寺主知行之時候間、彼結解狀
顯然候歟、然而於去年者、必僧正御房御沙汰、少々被沙汰
返候ヘ、其残如此候也、以此旨可申之由、内々仰候也、恐惶謹言

九月十二日　（陽脱ヵ）　宣嚴奉

謹上　尊勝僧都御房

（年譜）　宗性上人資料集原稿

年　月　日　昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

17

113 函 133 号 1 冊

P

「或唯識論鈔」 四ノ本

（紙背文書）

傳燈大法師實誉申状

□（陳カ）寺三論宗傳燈大法師位實誉申、□（可カ）被召叡勝講聽衆事

□修学勞被召彼聽衆者、□之通規、明時之佳例也、爰□（實）誉修学之倦捨螢冊於秋澤□有勤映雪素於冬窓、然間、□別宗之学道、无不経歷□、臨時之決擇死不勤仕、遂使□階洪業、勤大會聽衆、當弁之□葉之中、本寺学道微功多□者、只實誉一人而已、就中□叡勝講者論義并法勝寺□（講）衆者、列叡勝講聽衆之梯□云彼云此參勤已訖道之□惟拓實誉哉、何況齡廟、三旬、恨深洗況去年即被超越定源得業、會合一

（年譜） 15 113 133 1 20 宗性上人資料集原稿 25

年 月 日 昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

593

P（　　）

函号冊

生涯之懇、今年若不應請撰者、有何勇再勵修学之勤哉、
不堪愁望、謹以上啓矣、

自来月一日可被始行、霞勝講番論義論匠所望輩、
可令注申給者、依　陣氣執啓達如件

卯月四日　　右中弁（花押）

大安寺別當法印御房

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

© Hiraoka Shoshu

122
函
121
号
1
冊

（紙背文書）

P 1

〔俱舎第九三紙〕

○冊子本

○宗性書状 裏書状 袖判官時書状

122
121
1

蔵田庄厩阿弥陀仏之未五斗定舜房ニ可有御下行之由ヒ
所候也ヒ恐惶謹言ヒ

十一月廿八日　　良暁

上座御房

年　月　日

昭和　年　月調

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

宗性書状

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（紙背文書）

P 1

595

宗性書状

儀の字性書状

趣

此事一着子細出来候、定以余日可給候奉候也、

西小田借米弁事、本主被申給候也、御尋思給候、耳誰處々

今申候之様、今年之状勒田玉瀧庄給田ヰ三分之一を召上

9P て可被分彼借米候、先年出分一を召上て候たにも五十余

石、候き、三分一も召上候者、文七十石にも可成、以下欠、

© Hiraoka Shoshu

（紙背文書）

5-6

P 2

○宗性書状

明年大佛殿修正壇供米者、定召来納於庄家、尚法可被遣之、定不足之分雖雖何十石、於領家所法取借物可被下行之、更不可被歎申領所之状如件、

正元々年十二月七日

© Hiraoka Shoshu

（　　）

P

○賢清送文

奉送

一御吉書用途物事

合現銭十四貫四百文者（た）

右吉書用途物廿四貫文之内、被物一重之代壱貫五百文除之畢、
而残廿三貫口百文也、此内先々自院家被召口口銭十三貫文
口口九貫九百文奉送之、於御新絹者、先々免五疋四丈被召
上候畢、仍奉送之状如件

文應二年十月四日　賢清（花押）

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

No. 6

538

103
90
44-8

寄附書状

國
庄

〔 〕

梵網疏日珠鈔 10P 〇巻 3本

一巻 菩薩善戒経

唯識三十論

正法念處経 第一帙 第二帙

可借給候

建治二年後三月晦日

80 〇但し本書ハ凝然自筆本ノ紺替ニアリ

印

103
90
44-8

年 月 日

（平岡史料箋）

© Hiraoka Shoshu

函号 册 P

宗性消息

賞 擬 給

御慶賀事僧正者佛家之棟梁法水之淵源也而去冬早補權官之重職此夏令應極官之請擢從夜學之御勵神明垂冥助公請之勤勞朝家致殊寵任之故也感棘之至言葉難及參賀遲怠之間且以上啓如件恐惶謹言。

六月三日 宗性

謹上 中南院新僧正御房

尾田利一氏所藏文書

昭和 年 月調 〔宗性上人研究会〕 (年譜) 宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

530

函号 冊

歌集 12ア

「拾葉和歌集」四 尊圓寺文庫

※冬歌

尊勝院ノ歌合ニ月ヘヲ

宗性法師

イカナレハユフハクモラヌ冬ノヨノ月ニカツラノカケノコルラム

「回」ヘ

為下

宗性法師

ツモリユク枝ノチリヲイクヨカハタノメヌ月ノ雪ハラフラム

P

昭和 年 月調

宗性上人関係資料集原稿

〔宗性上人研究会〕

© Hiraoka Shoshu

No.
591
P
函号
冊
（年譜）
宗性上人関係資料集原稿
昭和 年 月調
〔宗性上人研究会〕

（奥書）

正應三年五月中旬之比、書写之了。

末・虫損之間、干時應永卅五年三月修補之

中阿祇昌（花押）

© Hiraoka Shoshu

592

P 9P

（ ）

（横葦和歌集）ハ 天理図書館蔵

横葦和歌集巻第八

釈教仕意傷

91124
127

ヲホヤケノ御カシコマリ奉ニテ 参置寿ニコモリ井テ
侍ケルカアカラサマニ本尊ニマカルリケルニサホカ
ハノホトリニキリノイタクタチテ侍ケレハヨミ侍ケ
ル 宇性法師

ヨサニタニミテシノフ（キフル里ニテリシモフカキサ
ホノカハキリ

© Hiraoka Shoshu

503

16

走信ふ。よ

世説講聴聞集（第十）紙背文書 一巻子本

103
29
ヤヤ

宗性

詠夕蟬和歌

ゆふされば（蟬）せきのはころも露かけて、月よりかよふ秋のおもかけ

祈恵

すみよしや（浪）なみのしらゆふかけしより、（神）かみのちる

しお松のうら月

東大寺圖書館
№14

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

「續拾遺和歌集」十九 国歌大観本（一三八三号）

125P

花嚴経の心をよませ給ひける　後嵯峨院御製

谷の戸はまだあけやらず思ふらむ、高き峯には日影さすとも

○中略、

法界唯心

色も香も心のうちにある物を、借たにいかで、花の散るらむ

（年譜）

宗性上人資料集原稿

年　月　日

昭和　年　月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

「続拾遺和歌集」十九 国歌大観本（一三八三号）

125P

花嚴経の心をよませ給ひける 後嵯峨院御製

谷の戸はまだあけやらず思ふらむ、高き峯には日影さすとも

…中略…

法界唯心

色も香も心のうちにある物を、惜むにかひなく、花の散るらむ

年 月 日

昭和 年・月調

（宗性上人研究会）

© Hiraoka Shoshu

505

P

宗性上人傳 12P

東大寺別當譜 12P

○冊子本

113
377
1

○第二百十三 8P

法印宗性 9P 道性僧都資、尊勝院 8P
華嚴宗

自文應二年至弘長元年、寺務二年、左大臣藤冬公十三世、 9P

從五位下宮内權大夫隆康朝臣男、正應五年七月十七日寂、

九十一歲、文應元年七月二十日補任、

○倶シ、本書ハ江戸期ノ寫本ニテ、没年ハイマ、前ノ「明本抄」ノ記ニ依ルゴシ。 8P

© Hiraoka Shoshu

P （ ）

圓照上人行状（上） 12P 8P

○巻子本

103
96
3-1

9P

東大寺圓照上人行状上

9P

門人凝然集

（6行下畧）

9P

照公解行蔑ク（テ）業用薀集（ヲアツメ）徳弥（ハヒユリ）ヲ普天（ニ）名満（ノ）ヲ空土（ニ）ヒロ

（略）道世之後（ヒ）遍（テ）華厳貫首権僧正宗性上綱（ニヒロ）

学（ス）玉教章并香象（ノ）梵網（ノ）疏（ヲ）華（ヲ）梵疏、照公自筆ニ書持（ニ）遺ス禅尺、屠輭ノ傳持、

8P

網

© Hiraoka Shoshu

507

P

函号 冊

（年譜）

（円照上人行状）（12P）（甲80）

○巻子本

103
86
3-2

。上略

後嵯峨法皇治政之暇研精佛乘究盡法理
英哲窮各々奥理滿山僧正法相宗、後菩提山僧正
尊信、并当雅樋僧正宗懐僧正、兼範法印實賢法印
実懐僧正等各隨所有召奉授法相唯識深旨
宗、大僧正道寶常住仙洞奉授宗旨天台宗、経
海僧正、後範法印智圓法印、實兼法印、靜明法印
各候二射山一奉授宗義一経海僧口、國師一台宗奥旨、
研究精詳、即有師資血脈之語一於嵯峨御所一常有

年 月 日

昭和 年 月調

（宗性上人研究会）

宗性上人資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

533

P

止觀等ノ談義、佛華嚴宇ハ權僧正宗性、深ク領ル歟、感ニ大ニ有賞歟、山城國乙訓郡海印寺者、道雄權少僧都草創之處、往古已来華嚴之宇領也、然道性法印院務之時、□違亂至テ宇性貫首之時ニ進テ見返、本宇ニ寄賞之至、事義丁重テ、或時新ニ調テ新紙文十帖、親タシク下賜ル、等多ク賞記述勒書之德、眞言密教并是道寶僧正奉レ授、其趣旨ヲ寫淨土法門、慥ニ上人專ラ侍ニテ階下ニ恒ニ奉授之ヲ下略

© Hiraoka Shoshu

No. 2899 ~~2897~~

590

P

函号 冊

戒壇院定置

12P

昔信空上人有靈夢告善財童子於戒壇院蒔華嚴宗種其後即疑然來入當寺隨事華嚴宗貫首僧正諱宗性大德學華嚴宗即弘之當院

(年譜)

宗性上人関係資料集原稿

昭和 年 月調

[宗性上人研究会]

© Hiraoka Shoshu

No. 2900 2898
600
P

知州東大寺沙門宗性傳

6字 ← 圖佛法傳通緣起卷中 四聖五大弟子

李朝高僧傳 卷第十五 知州東大寺沙門宗性傳

釋宗性。不詳鄉譜。自少出家。居東大寺。學華嚴於道隆。光曉二師。請益聖禪。衷忠兩匠。經海論江。隨意游泳。後兼良禎僧正。住大安寺。唱揚五教。常坐尊勝院。性相兼說。講授多衆。後峨峨上皇、歸心佛教。召諸宿德。各演宗要。性談華嚴深理。依本宗義。撰鈔數卷。以備御覽。上皇大賞。乃命官府。賜玉版六十帖。任權大僧都。海印寺者。乃祖道雄建業之地。中古名主。他人有之。性奏先緒。乞復本宗。制可賜寺。於是檀越競委積。久廢皆興。文應庚申奉勅董東大寺。住職三年。休干尊勝。以享年七十餘。化於所住。性善俱舍論。著本義鈔。香薰鈔若干卷。或壇院凝然稱性四。華嚴因明兼俱舍薩婆多二宗。玄賾宗底。遊微盡蘊。因解孤絕

© Hiraoka Shoshu

601

P

之德。博才高擇之誉。如三日輪映三群輝。同三大海吞衆流。可謂性之才實字得盡矣。

© Hiraoka Shoshu

602

P

図号册

僧

本朝高僧傳

卷第十四
和州東大寺沙門聖禪傳

釋聖禪。參州刺史藤任孝子。早嫌俗諦。向慕真教。常在東大。稟思三学。皆社中有四学匠。共究性相。粹於倶舎。所謂秀慧頴範。覚雄孝云也。時人喻之須弥之半腹有四天王矣。禪従孝云勤稟斯厳。兼学倶舎。又寓洛之仁和。兼密宿孝。行遍二師。次弘二諦。馳名當代。孝勝院宗性雜華之英俊。疑於倶舎。必従質之。後住北京。締構城西之常樂寺。講誘四衆。嘗拙尾明慧。松尾勝月為法喜之遊云。

昭和 年 月調

〔宗性上人研究会〕

(年譜)
宗性上人関係資料集原稿

© Hiraoka Shoshu

603

P

國号冊

（年譜）

宗性上人資料集原稿

（三國佛法傳通緣起）中 巻日本 冊子本

112
42
3-2

抱カ

宗性權僧正者、近代之名哲也。智辨縱橫ニシテ兼ニ孔天之德ヲ、倫難清雅ニシテ博ニ經國之量ヲ。華嚴。因明。俱舍。法相。皆悉ク研究シ、無不精詳ニ、惟宗奧旨、兼瞻暢ニシテ無遺ク。辨暁、後白河、天皇、御宇奉ウケタマハリ綸旨之勅詔ヲ。宗性、著後漆峙、天皇、嘉運、頻ニ智解之勸賞ニ。智德、聊跡ヲ不勤ツトメテ昔日ニ、大日本國、華嚴宗繼ケリ、カミニ密祥ヲ、兼ネテ已カタ未乃至ンヲ當代ニ、貴首ニ、二十一代燈燈相傳ヒ、學業繁昌ニ、法法流演ヒ、紹隆連綿タリ。

（奥書）

應長之年、辛亥七月二日、於東大寺戒壇院述之。

華嚴宗沙門 凝然 春秋七十二。

（但シ、本書ハ、版本ナリ。東大寺版ノ）

（宗性上人研究会）

昭和 年 月調

© Hiraoka Shoshu

（ ）

P

604

「三月堂過去帖」 東大寺宝庫 24-1

東大寺上院修中過去帖

前書

頼誉法師練 御堂修造（セル）前、進東大寺、大勧進圓照上人

禅覚大徳練、花厳、長吏、當院、々主前、別當宇性前、権僧正、

前、長吏官経（ツネトシ）後中納言 定縁権大僧都、實清四大徳、

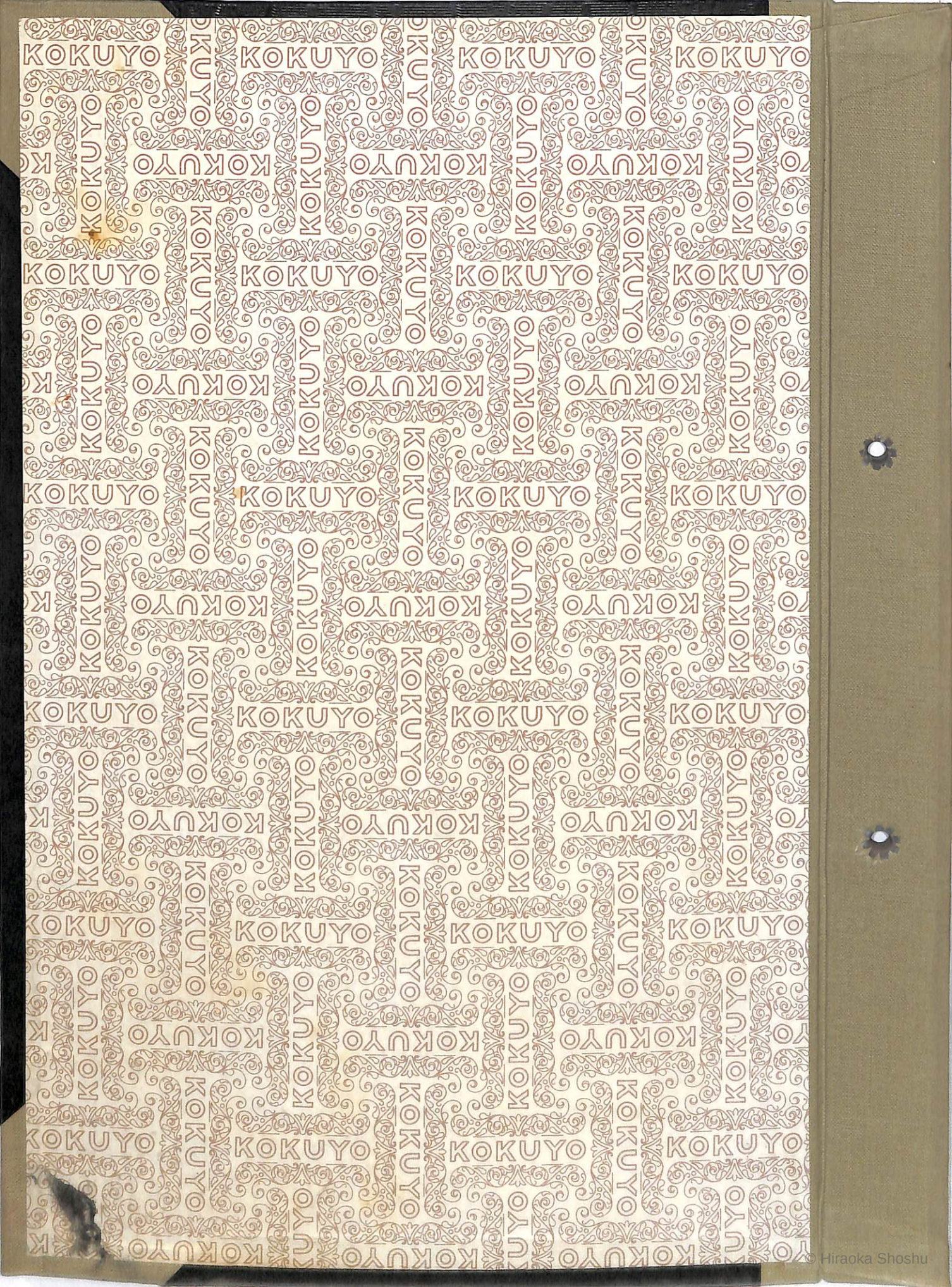
（以下略）

（但シ、本書ハ、本項ノ）足利義教ノ時代ニ書写セルモノナリ、（マヽ本書ニ、）

修補セルト同時ニ補筆セルモノヲ附ス、

© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu



© Hiraoka Shoshu

© Hiraoka Shoshu